

2022 年度 早稲田大学卒業生調査  
報告書

2023 年 7 月

早稲田大学 大学総合研究センター

研究倫理番号 2021-366

## 全体要旨

本報告書は、大学総合研究センターが、2009年度に学部に入学者を対象に実施した卒業生調査の集計、分析結果を掲載した報告書である。調査は、2022年の12月末から2023年の1月末までにかけて9,848名を対象に、大学に登録されたメールアドレス・住所にメール・ダイレクトメールを送付し、970件の回答を得た（回収率9.8%）。回収率に学部ごとの大きな偏りはなかった。

第1章では、本調査の概要や対象者の在学時の学習・生活環境について整理し、第2章では、高校卒業時の居住地をもとに地域ブロックのタイプを作成し、それらのタイプ間の違いを検証した。検証の結果、国内の地域ブロック間では明確な差がある項目は、それほど多くはなかった。また、高校卒業時の居住地が海外であったものは、在学中に外国語で議論や発表をする経験をし、「外国語を理解し、話せる」能力の認識が高く、今回設定した地域ブロックでは、早稲田大学の国際化をリードしている側面があった。

第3章では、早稲田大学の校友関係の質問項目に関して、入学・在学時及び卒業後にに関する質問項目との関係を分析した。校友関係の質問項目から、「早稲田大学関わり行動」「早稲田大学誇り」「早稲田大学情報収集」という3つの変数を作成し、これらを目的変数とした重回帰分析を実施した。本章の分析により、校友関係の活動に積極的な卒業生像として、早稲田大学の伝統・校風が好きで受験し、大学でよい教員に巡り合うことができ、論理的思考や他者への配慮を身につけ、大学で学んだことが仕事に役立った実感があり、現在も自分自身の学びに興味のある卒業生、という姿が見えてきた。しかしながら、決定係数の大きさ（小ささ）を考えると、本調査で設定した以外の質問項目（説明要因）についても、今後検討していく必要があるだろう。

第4章では、【Q6.1「あなたが本学での学びから得た知識やスキル・経験は、卒業後どのような形で生かされていますか。仕事、私生活、いずれでも結構ですので具体的に教えてください。】という質問項目に対する、卒業生の自由回答記述を分析した。全体の傾向として、いくつか特徴的な語彙が上位に抽出された。例えば「仕事」「知識」は、大学時に学修した基礎的・専門的知識や、その学修の中で身についたスキル・能力に関係しており、「多様」は主に大学在学時の人間関係や他者との関わりや、その中で他者との相互理解に関係している。ただし留意しなければならないのは、あくまでも本章で分析した項目は「いかに現在に生きているか」という肯定的な回答を求めるものであり、回答には肯定的なバイアスがかかっている可能性があるという点である。

第5章では、大学に対する要望についての質問項目に対する、卒業生の自由回答記述を分析した。分析にあたっては、自由回答の特徴を分析しつつ、大学時代の取り組みへの熱心さや置かれていた学修の環境によって変化はあるのかという点について、在学時の3つの経験という観点から分析することを試みた。結果として、主に「授業」を起点として、教員の指導や授業内容、授業環境（人数の多さ等）に対する要望が割合として多くを占めていることがわかった。また、授業や指導といった学生に直接的に関わる内容だけでなく、「カリキュラム」や「科目履修」といった、間接的な要素に関する要望も同様にみられた。このことから、卒業生からの要望（改善すべき点）は、当時の講義の内容から制度設計に至るまで、学生の学修を取り巻く環境に目を向けたものが多いと考えることができる。

## 目次

第1章 調査概要と対象について.....	p. 3
1-1. 調査概要.....	p. 3
1-2. 調査対象者の在学時の学習・生活環境.....	p. 5
第2章 地域ブロック別の分析.....	p. 7
2-1. タイプの基本情報と分析概要.....	p. 7
2-2. インプット.....	p. 11
2-3. スループット.....	p. 15
2-4. アウトプット.....	p. 23
2-5. 役立ち度.....	p. 27
第3章 校友関係の分析.....	p. 31
3-1. 本章の目的.....	p. 31
3-2. 校友関係の変数.....	p. 31
3-3. 校友関係の変数と在学・入学時の項目との関係.....	p. 33
3-4. 校友関係の変数と卒業後の項目との関係.....	p. 37
3-5. 校友関係の変数と在学・入学時及び卒業後の項目との関係.....	p. 40
3-6. まとめ.....	p. 43
3-7. 資料.....	p. 44
第4章 在学時の経験の卒業後に生きた経験の分析.....	p. 49
4-1. 本章の目的.....	p. 49
4-2. 自由回答記述のテキスト分析.....	p. 49
4-3. 回答者の属性との関係性.....	p. 53
4-4. 他の変数との関係性.....	p. 55
4-5. まとめ.....	p. 59
第5章 改善すべき点についての自由回答記述の分析.....	p. 61
5-1. 本章の目的.....	p. 61
5-2. 自由回答記述のテキスト分析.....	p. 61
5-3. 回答者の属性との関係性.....	p. 65
5-4. 在学時の他変数との関係性.....	p. 67
5-5. まとめ.....	p. 74
付録 全体の集計データ.....	p. 76

## 第1章 調査概要と対象について

大学総合研究センターは、2018年度から学部卒業後10年時点の卒業生に対して、早稲田大学の教育改善の一環として客観的データを得るために卒業生調査を実施し、2022年度は第5回目の調査を行った。

これまでの調査では、在学時の学びと卒業後のアウトプット（役立ち度や満足度）との関係に着目し分析を行い、早稲田大学の教育の効果を検証した。一方、2020年度は在学生に対して、学生生活調査を踏襲し、学修成果や学修行動を加えた学生生活・学修行動調査<sup>1</sup>を実施し、ディプロマ・ポリシーの修得についても検証が始まったところである（早稲田大学大学総合研究センター 2021、2022）。

本報告書では、学部卒業後10年を経過した卒業生を対象に、複数の観点から分析を行った。第2章では、地域ブロック別の分析を行った。第3章では、校友関係の分析を行った。第4章では、大学時代の経験が仕事に役立った経験の分析、第5章では改善すべき点についての分析を行った。

なお調査は大学総合研究センターが実施し、データ分析、報告書執筆は同センター遠藤健（第1章、第2章）、山田寛邦（第3章）、丸川拓己・遠藤健（第4章、第5章）が担当し、付録作成、報告書編集補助を学生スタッフ丸川拓己が担当した。

### 1-1. 調査概要

上述した分析を行うにあたって、課題としてきたのは回収数・回収率である。特に、卒業後の転居情報が更新されていないケースがあり、第2回の2019年度は回収率5.9%と十分な回収数を得られていなかった。そこで第3回の2020年度調査からは、学内の研究倫理申請を行った上で在学時に登録されたメールアドレス宛にもウェブ回答URLを送付した。その結果、回収数・回収率は1,350件（15.4%）に増加した。第5回となる2022年度調査についても同様の手法によって実施し、第4回の前年度調査よりは低くなったものの970件（9.8%）と多くの回答をいただけた。調査に協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

対象者：2009年度学部入学者（昨年度：2008年度学部入学者）

回収時期：2022年12月22日～2023年1月23日（昨年度：2021年12月25日～2022年1月31日）

調査方法：①ウェブ回答URLを登録されたメールアドレスに送付、②ウェブ回答URLが印刷されたダイレクトメールの郵送（昨年度：同様）

送付数：9,848（昨年度：9,807）

回答数：970（昨年度：1,013）

回答率：9.8%（昨年度：10.3%）

<sup>1</sup> 早稲田大学大学総合研究センター、2021、『2020年度 学生生活・学修行動調査報告書』。早稲田大学大学総合研究センター、2022、『2021年度 学生生活・学修行動調査報告書』。

また、分析の前に秘匿化された調査対象者（母集団）のデータ（n=9,924）と本調査結果とを結合した。調査対象者の母集団と回答者の比較によって、回答者はどのような卒業生なのか、在学時のデータからその一端を明らかにし、解釈する上での助けとなる。ここでは卒業学部の情報から検討する。

学部については、図1-1の通りである。教育学部卒者がより回答していたり、スポーツ科学部や国際教養学部が若干回答が少ないものの、全体的にそこまで大きな偏りは見られない。

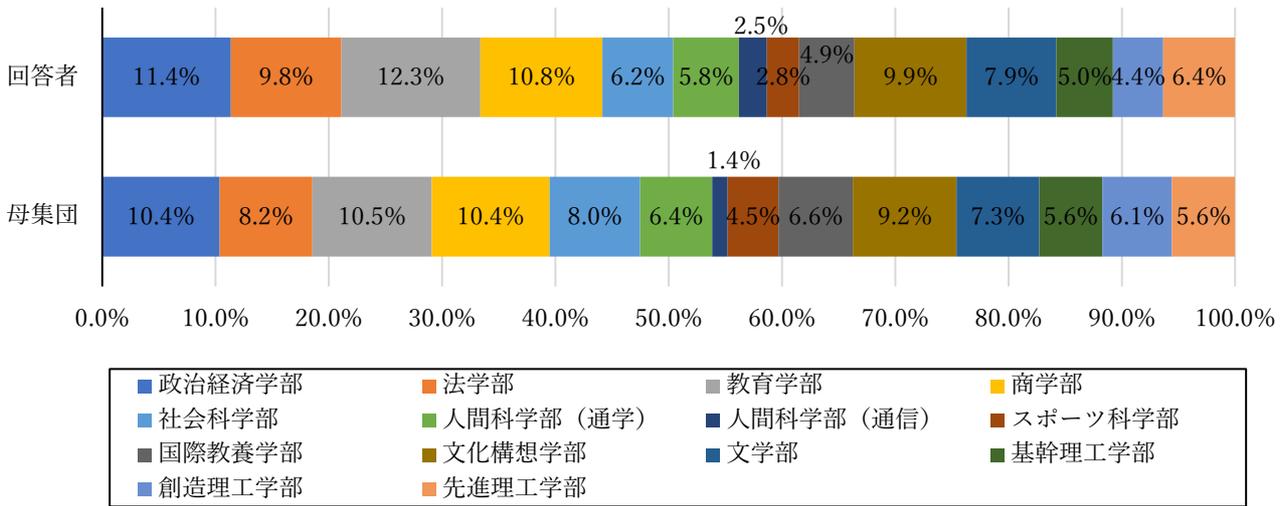


図1-1 母集団と回答者の学部の割合

成績については通算 GPA を一指標として検証する。早稲田大学の GPA は各授業の成績のグレードポイント（A+（4）、A（3）、B（2）、C（1）、不可（0））に応じて点数化され、それらを平均したものが通算 GPA となる。母集団全体の箱ひげ図を示すと（図1-2）平均値 2.281、中央値 2.304 であった。一方、回答者は（図1-3）、平均値 2.435、中央値 2.420 となり、母集団より高い値である。これまでの調査に引き続き、本調査の回答者は在学時の成績が比較的高い層である点に留意する必要がある。

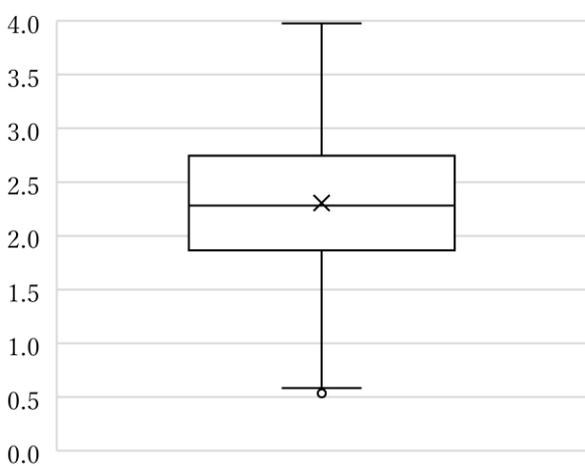


図1-2 母集団・通算 GPA の箱ひげ図

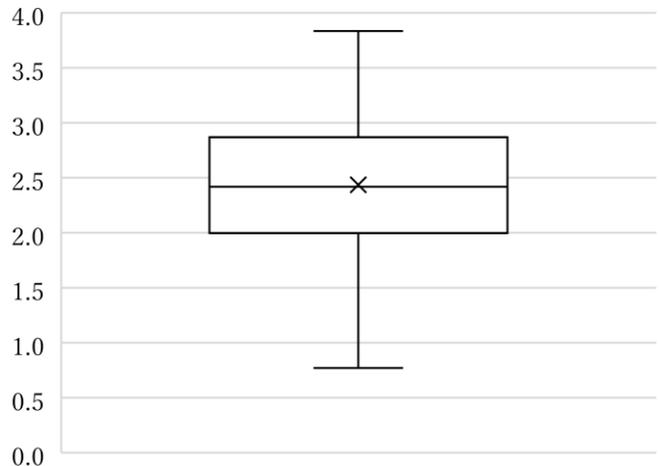


図1-3 回答者・通算 GPA の箱ひげ図

## 1-2. 調査対象者の在学時の学習・生活環境

次に、本調査の対象とする2009年度学部入学生の在学時の学習・生活環境について整理する。表1-1では早稲田大学、高等教育政策、社会のカテゴリーで2009年～2012年度にかけて生じた比較的大きな出来事を作成した。

表1-1 2021年度卒業生調査対象者の在学時のおもな出来事

	早稲田大学	高等教育政策	社会
2009年4月/9月	入学 ・「Waseda Next 125」発表。 ・専門職大学院教職研究科設置。 ・教務部外局としてFD推進センターを10月に設置。 ・「こうはいナビ」による、学生・職員共同で新入生をサポートするプロジェクトを実施 ・「ボランティア、フィールドワーク型授業」を19科目開講		
2010年	・「授業の到達目標」「半期15回分の授業計画」を明示するようシラバス項目の見直しを実施 ・「Course N@vi」は約17,000科目中約5,000科目で活用		・政権交代
2011年	・東日本大震災復興支援室設置 被災学生の就学支援、被災地域支援、研究を通じた復興支援を展開		・東日本大震災
2012年	・中長期計画 Waseda Vision 150 を策定	・中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（質的転換答申）	
2013年3月/9月	標準年限卒業		

まず、調査対象者が在学していた期間は早稲田大学の創立125周年を経て、150周年を見据えた中長期計画 Waseda Vision 150 が策定された時期であった。教育面では、一層グローバル化を推進しており、入学式における白井元総長の式辞、あるいは卒業式における鎌田元総長の式辞において、杉原千畝氏の功績に言及し、権威のみに囚われない姿勢、信念に基づいて行動すること、世界の人々の幸福のためにできる限りの力を尽くした点などに言及されている。グローバル化した時代において、本学の教育を語る上で象徴的な卒業生であると言えるだろう。

教育面では、対象者が入学する前年の2008年に早稲田大学は「Waseda Next 125」を発表し、創立150年に向けた各改革のロードマップを示した。同年には、FD推進センターが設置され、教育のグローバル化として海外からの留学生の受入れ、日本人学生の海外留学の促進、世界各国からの留学生との交流

の充実を図ったと報告した（早稲田大学校友会 2009<sup>2</sup>）。以上のように、調査対象者が在学している間に、教育のグローバル化推進を図っていったことが特徴としてあげられる。

また、2009年入学者が2年生から3年生に進級するタイミングであった2011年3月に東日本大震災が発生した。早稲田大学では東日本大震災復興支援室を設置し、①被災学生の就学支援、②被災地域支援、③研究を通じた復興支援を展開した。2011年度学部卒業式において、当時の鎌田総長は被災地支援の活動を通じて成長した学生が、今後の社会の発展を支えてくれるものと期待しており（早稲田大学校友会 2012<sup>3</sup>）、また卒業式の鎌田元総長の式辞においても東日本大震災の教訓を風化させないでほしいとの言葉があった（早稲田大学校友会 2013<sup>4</sup>）。

また、高等教育政策においては、2008年に文部科学省中央教育審議会にて「学士課程教育の構築に向けて」が答申され「学士力」が示され、また経済産業省においては「社会人基礎力」が示されるなど、大学と社会を繋ぐコンピテンスの獲得と、その獲得に向けた学士課程プログラムの質保証に関する議論、実践が本格化した時期にあたる。卒業年次となる2012年には文部科学省中央教育審議会にて「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（いわゆる質的転換答申）が示され、アクティブラーニングが大学教育においてより推奨されていった時期にあたる。

このように調査対象者の在学中は、より教育のグローバル化が推し進められた時期にあたり、国内では東日本大震災が生じ、学生生活や教育に影響を受けた学生も少なくない。また、教育組織の改革によって新たに誕生した文学部・文化構想学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部は3年目にあたる。これらの基本情報も本報告書のなかで適宜参照する。

---

<sup>2</sup> 早稲田大学校友会、2009、『早稲田学報』1176。

<sup>3</sup> 早稲田大学校友会、2012、『早稲田学報』1193。

<sup>4</sup> 早稲田大学校友会、2013、『早稲田学報』1199。

## 第2章 地域ブロック別の分析

### 2-1. タイプの基本情報と分析概要

本章では、卒業生の高校卒業時の居住地をもとに地域ブロックのタイプを作成し、各タイプ間でインプット（志望理由）、スループット（熱心に活動したこと、学修行動）、アウトプット（学修成果等）の違いを検証することを目的とする。近年、早稲田大学は首都圏出身者の割合が増加しているが、改めて出身地域別に志望理由はどのように異なるのか、どのような学びの違いがあるのか、そしてどのような能力を身につけていくのか、といった基本情報を整理する。この整理によって、早稲田大学がいかに各地域出身者に貢献できているのかを多面的に把握することができるだろう。これまで、過年度の報告書では、首都圏・非首都圏での整理を行っており、今回はより、地域区分を細かく設定し、かつ高校卒業時に海外に居住地していた学生も含めた。国際化を掲げる早稲田大学において、海外に居住していた学生はどのような理由から早稲田大学を目指し、学んでいったのかを把握することは今後の国際化戦略においても重要な情報となるだろう。

地域ブロックのタイプは人数の偏りが生じないように、表2-1のように作成した。No.1 北海道～No.7 福島県までを「北海道・東北」、No.8 茨城県～No.10 群馬県までを「北関東」、No.11 埼玉県～No.14 神奈川県までを「南関東」、No.15 新潟県～No.24 三重県までを「中部」、No.26 京都府～No.30 和歌山県までを「近畿」、No.31 鳥取県～No.39 高知県までを「中国・四国」、No.40 福岡県～No.47 沖縄県を「九州」、No.48 海外は「海外」とした。今回当該項目の未回答者を除く 883 名の分布は、図2-1のようになった。南関東が6割で最も多く、残りの4割は非南関東と海外となる。

各地域ブロックごとに、インプット（2-2）やスループット（2-3）、アウトプット（2-4）、役立ち度（2-5）についてタイプ別の分析を行い、特に違いのあった点について以下に整理する。

#### ・インプット

志望理由については、「北関東」が「近畿」に比べ「資格の取得が有利であるから」の項目が有意に高い。また、「海外」が「国際化が進んでいるから」早稲田大学を志望したと回答していた。

#### ・スループット

教育や課外活動、アルバイト等での熱心さは、今回の地域ブロック間での違いは特になかった。学修経験として、「海外」が複数のタイプより、「語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした」経験や「留学生と一緒に学んだ」経験がより高かった。

#### ・アウトプット

学修成果について、「九州」は「南関東」よりも「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」能力獲得の認識が高い。「海外」が複数のタイプより「外国語を理解し、話せる」能力獲得の認識が高い。

国内の地域ブロック間では、明確な差がある項目はそれほど多くはなく、在学時の学びや生活、そして学修成果の獲得まで、個々の希望に適った多様な教育の場を提供できていると言えるのかもしれない。

い。また、今回新たに設定した「海外」については、外国語で議論や発表をする経験をし、「外国語を理解し、話せる」能力の認識が高い。今回設定した地域ブロックでは早稲田大学の国際化をリードしている側面があるだろう。

表 2-1 高校卒業時の居住地の分布

No.	地域	度数	%	No.	地域	度数	%
1	北海道	19	2.2	25	滋賀県	0	0.0
2	青森県	2	0.2	26	京都府	4	0.5
3	岩手県	4	0.5	27	大阪府	20	2.3
4	宮城県	7	0.8	28	兵庫県	12	1.4
5	秋田県	6	0.7	29	奈良県	5	0.6
6	山形県	4	0.5	30	和歌山県	2	0.2
7	福島県	6	0.7	31	鳥取県	2	0.2
8	茨城県	17	1.9	32	島根県	1	0.1
9	栃木県	9	1.0	33	岡山県	6	0.7
10	群馬県	10	1.1	34	広島県	14	1.6
11	埼玉県	117	13.3	35	山口県	4	0.5
12	千葉県	76	8.6	36	徳島県	3	0.3
13	東京都	206	23.3	37	香川県	2	0.2
14	神奈川県	135	15.3	38	愛媛県	4	0.5
15	新潟県	8	0.9	39	高知県	3	0.3
16	富山県	5	0.6	40	福岡県	21	2.4
17	石川県	4	0.5	41	佐賀県	3	0.3
18	福井県	4	0.5	42	長崎県	4	0.5
19	山梨県	3	0.3	43	熊本県	8	0.9
20	長野県	13	1.5	44	大分県	3	0.3
21	岐阜県	9	1.0	45	宮崎県	6	0.7
22	静岡県	19	2.2	46	鹿児島県	4	0.5
23	愛知県	22	2.5	47	沖縄県	2	0.2
24	三重県	9	1.0	48	海外	36	4.1
		合計		883		100.0	

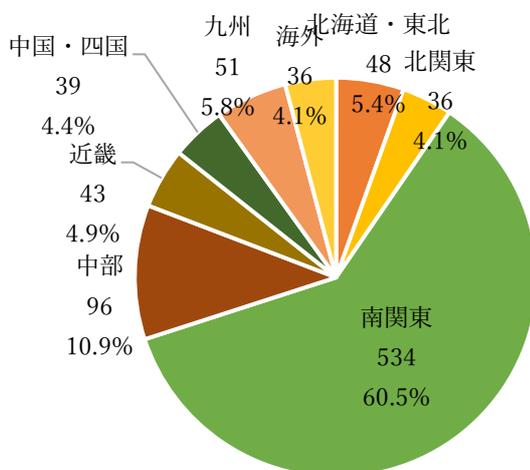


図 2-1 地域ブロックの割合

次に、現在の仕事の業種を整理すると表2-2のようになる。先述した「北関東」が早稲田大学に入学するにあたって資格取得をあげており、現在の業種では「公務員」がいずれのタイプよりも高い(28.1%)ことから、将来的公務員として働く上で必要な資格取得を念頭に早稲田大学に入学している可能性は高い。また、「九州」は「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」能力獲得の認識が高かった。業種を見ると、いずれのタイプよりも「学術研究・専門・技術サービス業」の割合が高く、他タイプと比較してアイデアの創出に長けていると認識している割合が高いと考えられる。

表2-2 地域ブロック別の業種割合

	農林漁業	エネルギー	不動産・建設	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸・郵便業	卸売業・小売業	金融業・保険業
北海道・東北	0.0%	0.0%	4.5%	2.3%	2.3%	11.4%	2.3%	6.8%	11.4%
北関東	6.3%	3.1%	3.1%	12.5%	0.0%	9.4%	3.1%	3.1%	6.3%
南関東	0.2%	1.5%	3.9%	14.1%	0.4%	19.5%	2.8%	3.7%	11.1%
中部	1.2%	0.0%	2.4%	9.4%	1.2%	18.8%	1.2%	4.7%	5.9%
近畿	0.0%	2.7%	2.7%	10.8%	2.7%	18.9%	5.4%	2.7%	5.4%
中国・四国	0.0%	3.0%	3.0%	3.0%	0.0%	6.1%	6.1%	6.1%	6.1%
九州	0.0%	0.0%	4.1%	14.3%	2.0%	18.4%	4.1%	6.1%	6.1%
海外	0.0%	0.0%	3.8%	19.2%	0.0%	7.7%	3.8%	3.8%	11.5%
合計	0.5%	1.3%	3.7%	12.4%	0.8%	17.5%	3.0%	4.2%	9.5%

	不動産業・ 物品賃貸業	学術研究・ 専門・技術 サービス業	生活関連 サービス 業・娯楽業	教育・学習 支援業	医療・福祉	公務員	その他(具 体的に)	合計
北海道・東北	0.0%	9.1%	2.3%	13.6%	11.4%	11.4%	11.4%	100.0%
北関東	0.0%	9.4%	0.0%	9.4%	3.1%	28.1%	3.1%	100.0%
南関東	0.0%	7.6%	2.0%	8.5%	3.9%	12.8%	8.0%	100.0%
中部	1.2%	9.4%	1.2%	10.6%	2.4%	20.0%	10.6%	100.0%
近畿	0.0%	5.4%	5.4%	16.2%	2.7%	5.4%	13.5%	100.0%
中国・四国	0.0%	3.0%	0.0%	24.2%	9.1%	18.2%	12.1%	100.0%
九州	0.0%	12.2%	2.0%	4.1%	8.2%	8.2%	10.2%	100.0%
海外	0.0%	11.5%	0.0%	15.4%	3.8%	3.8%	15.4%	100.0%
合計	0.1%	8.1%	1.8%	10.0%	4.6%	13.4%	9.1%	100.0%

最後に、各地域ブロック別に現居住地ごとに同様の地域ブロックを作成し、クロス表を作成した(表2-3)。これによって、高校卒業時に居住していた地域から、どこに移住したのかを把握でき、南関東以外から進学していれば、同じ地域ブロック内への帰郷率も把握できる。全体の傾向として今回の調査対象者の7割強は南関東に住んでいる。高校卒業時には南関東は6割程度ゆえに、各地域からの移住したものが多。一方、帰郷率を見ると、最も高いのは南関東の85.7%であり、帰郷率という言葉が適切ではないかもしれないが、学部卒業後10年を経ても居住地が変化していない。南関東以外だと、「中国・四国」が38.5%と最も高く、この地域ブロックの多くの卒業生が「地元」へと戻っているようだ。逆に最も帰郷率が低いのは、「海外」で19.4%となった。これも帰郷率という言葉が適切ではないかもしれないが、4人のうち3人は南関東に居住しており、南関東以外は極端に少なく、グローバル化が進

む東京を中心とした地域に集中している。それ以外の地域の帰郷率はおおよそ3割前後であり、やはり育った地域、ないし近い地域圏により住んでいることが分かる。

表2-3 地域ブロック×現在居住地ブロック

		現在居住地ごと地域ブロック								
		北海道・東北	北関東	南関東	中部	近畿	中国・四国九州	海外	合計	
高 校 時 居 住 地	北海道・東北	25.0%	6.3%	54.2%	2.1%	4.2%	2.1%	0.0%	6.3%	100.0%
	北関東	2.8%	33.3%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	5.6%	100.0%
	南関東	1.7%	1.7%	85.7%	2.6%	2.3%	0.4%	1.1%	4.5%	100.0%
	中部	1.0%	2.1%	58.3%	29.2%	5.2%	0.0%	2.1%	2.1%	100.0%
	近畿	2.3%	0.0%	60.5%	0.0%	25.6%	2.3%	0.0%	9.3%	100.0%
	中国・四国	0.0%	0.0%	38.5%	5.1%	2.6%	38.5%	0.0%	15.4%	100.0%
	九州	0.0%	0.0%	64.7%	5.9%	3.9%	0.0%	21.6%	3.9%	100.0%
	海外	0.0%	0.0%	75.0%	2.8%	0.0%	0.0%	2.8%	19.4%	100.0%
	合計	2.7%	3.0%	74.8%	5.6%	3.7%	2.2%	2.4%	5.7%	100.0%

備考：タイプ間の違いの検証方法

各質問項目について、括弧内の数値を割当て一元配置分散分析を行った上でグループ間の多重比較を行った。

・「本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。」

まったくあてはまらない (1)、あまりあてはまらない (2)、ややあてはまる (3)、とてもあてはまる (4)

・「あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。」

経験しなかった (1)、不熱心 (2)、やや不熱心 (3)、やや熱心 (4)、熱心 (5)

・「学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きます。以下のような経験はどのくらいありましたか。」

まったくあてはまらない (1)、あまりあてはまらない (2)、ややあてはまる (3)、あてはまる (4)

・「学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。-1~2年 (3~4年)

下のほう (1)、やや下 (2)、真ん中ぐらい (3)、やや上 (4)、上のほう (5)

・「早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。」

身につけていない (1)、あまり身につけていない (2)、まあまあ身についた (3)、身についた (4)

・大学 (学部) 在学中に留学をしたことはありますか。複数ある場合には、より長い期間を選んでください。

ない (1)、短期 (数週間~3か月未満) (2)、中期 (3か月以上~約半年) (3)、長期 (半年以上~2学期以上を含む) (4)

・あなたの学部時代の経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。該当するものをお選びください。

経験しなかった (1)、まったく役に立っていない (2)、あまり役に立っていない (3)、やや役に立っている (4)、かなり役に立っている (5)

## 2-2. インプット

・勉強したい分野がその学部にあったから

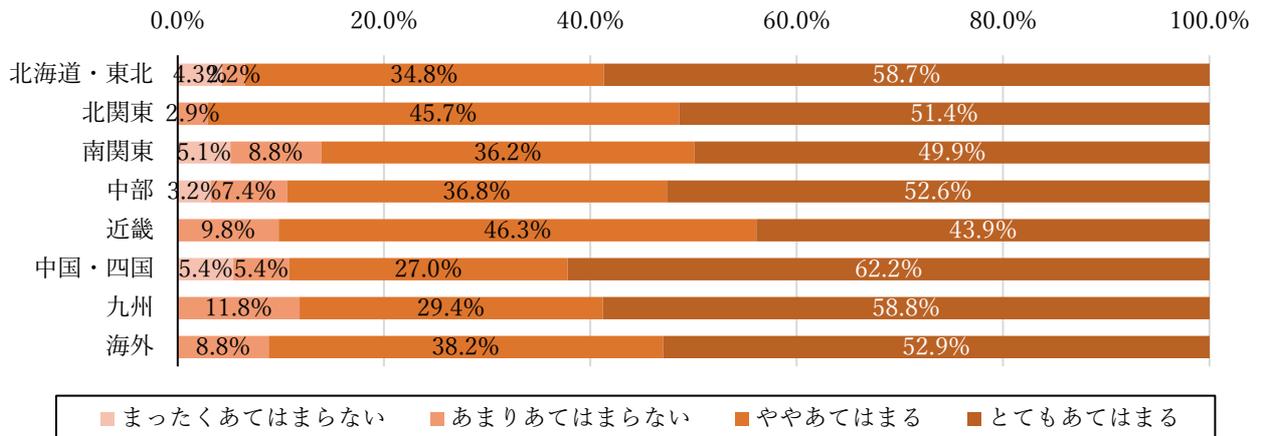


図2-2 受験理由\_勉強したい分野がその学部にあったから (地域ブロック別)

・就職に有利であると思ったから

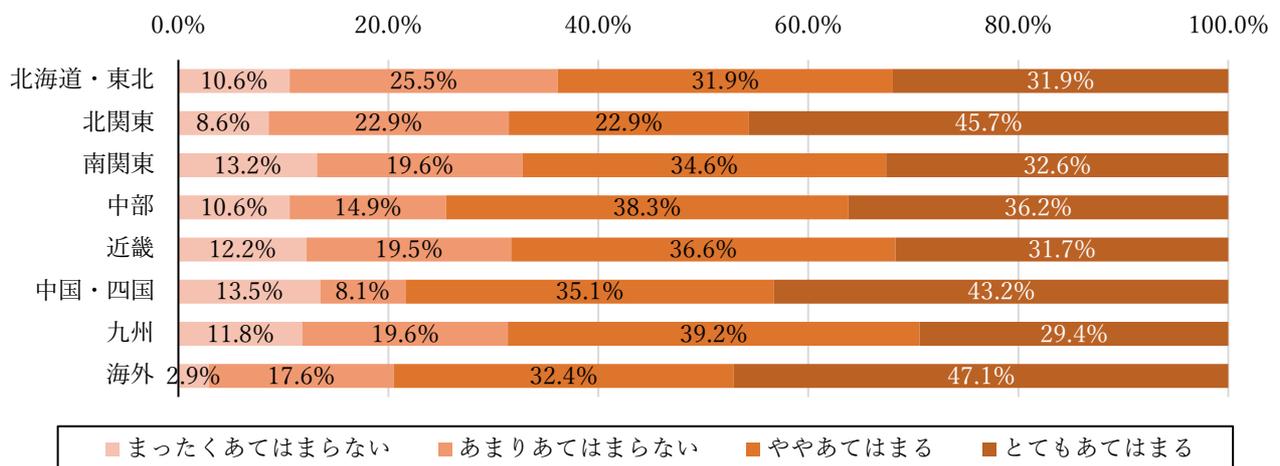


図2-3 受験理由\_就職に有利であると思ったから (地域ブロック別)

・将来の希望する職業分野を勉強できるから

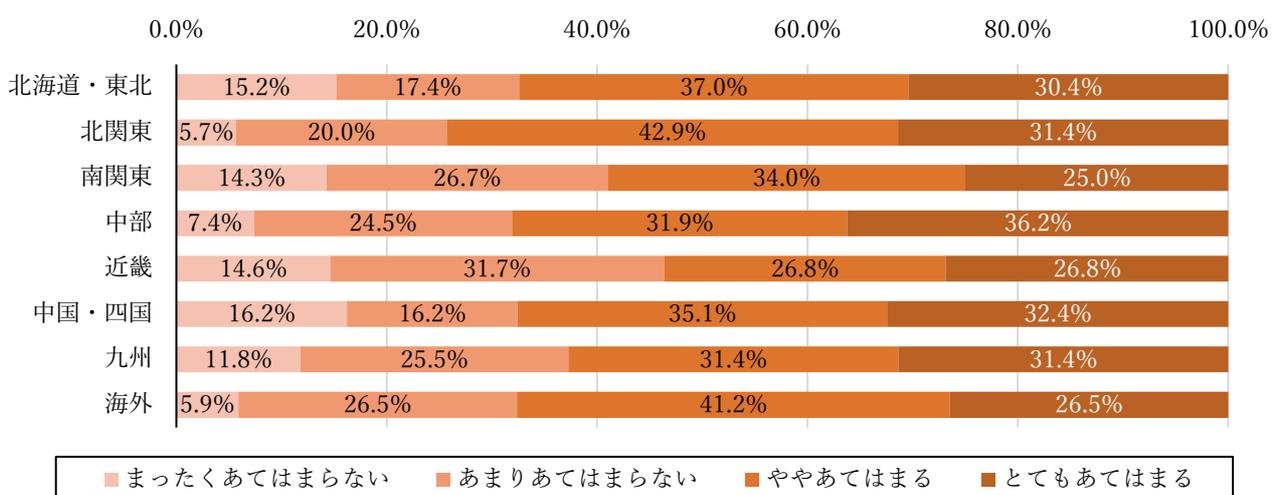


図2-4 受験理由\_将来の希望する職業分野を勉強できるから (地域ブロック別)

・資格の取得が有利であるから

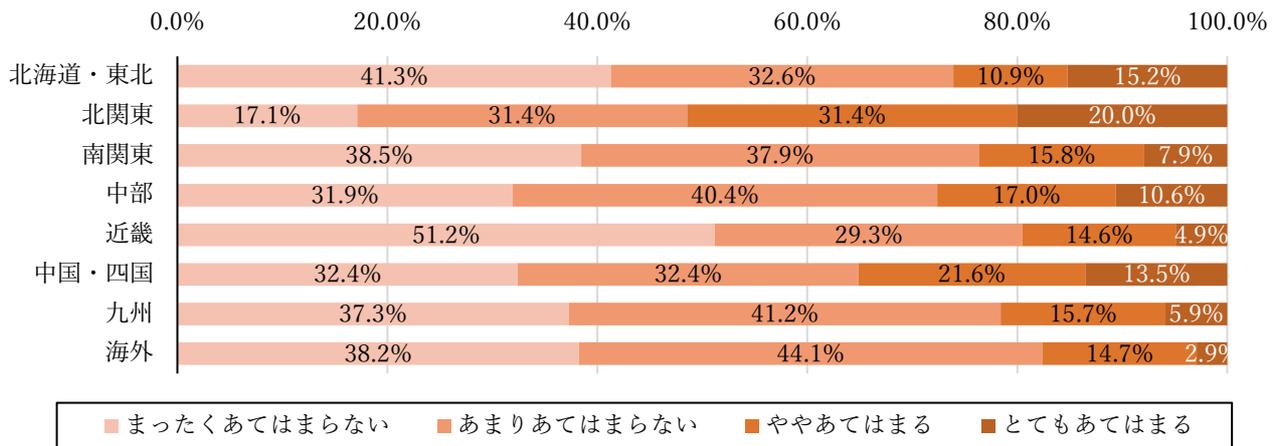


図 2-5 受験理由\_資格の取得が有利であるから (地域ブロック別)

・指導してほしい教員がその学部にいるから

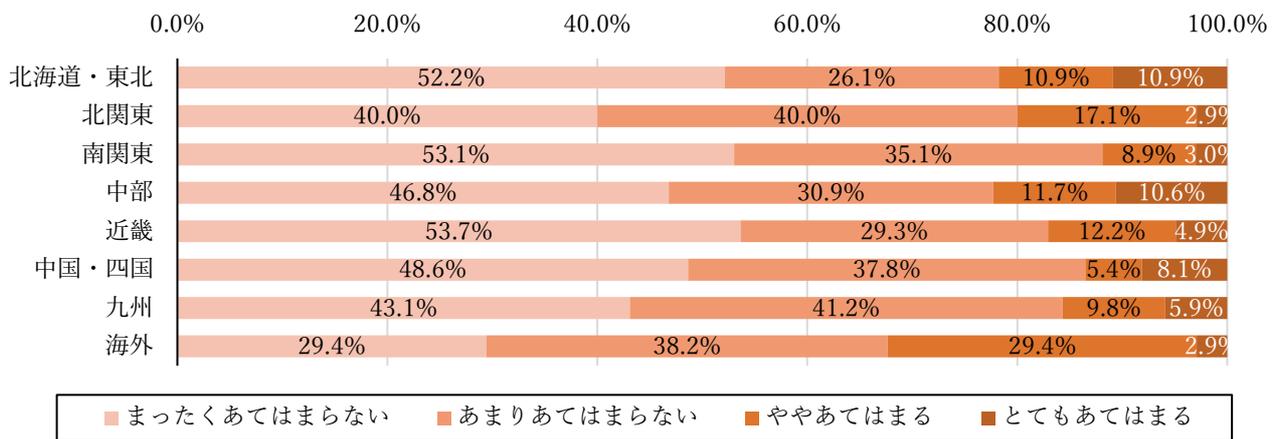


図 2-6 受験理由\_指導してほしい教員がその学部にいるから (地域ブロック別)

・学力(偏差値など)が適当であったから

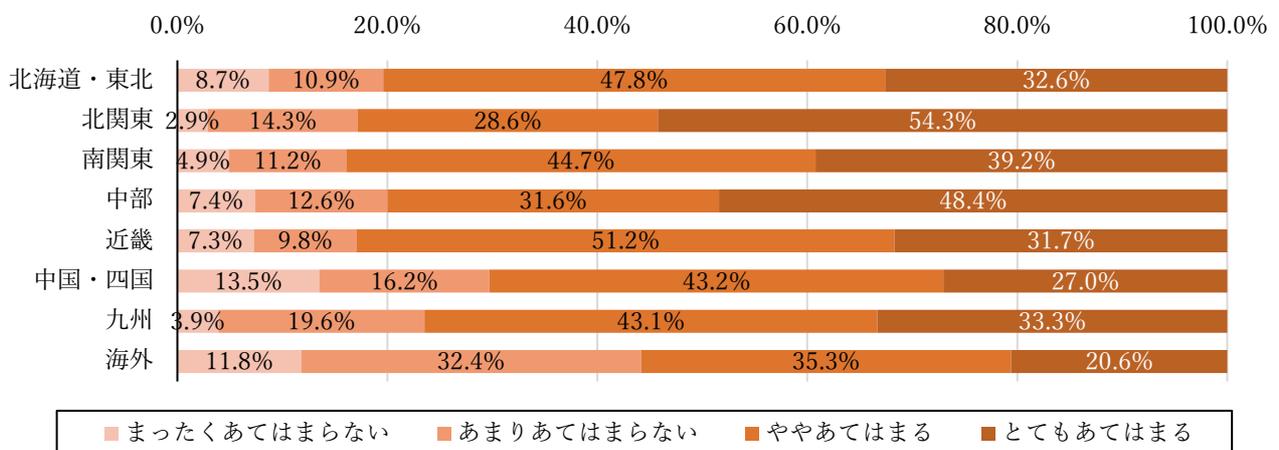


図 2-7 受験理由\_学力(偏差値など)が適当であったから (地域ブロック別)

・進路選択の幅が広い学部を選択した

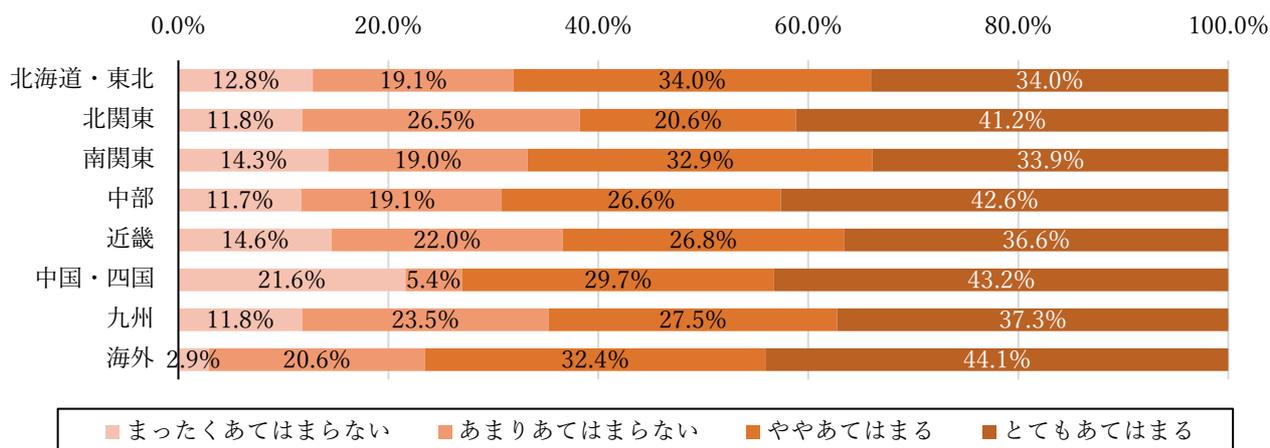


図 2-8 受験理由\_進路選択の幅が広い学部を選択した (地域ブロック別)

・高校の先生や家族または塾などで勧められたから

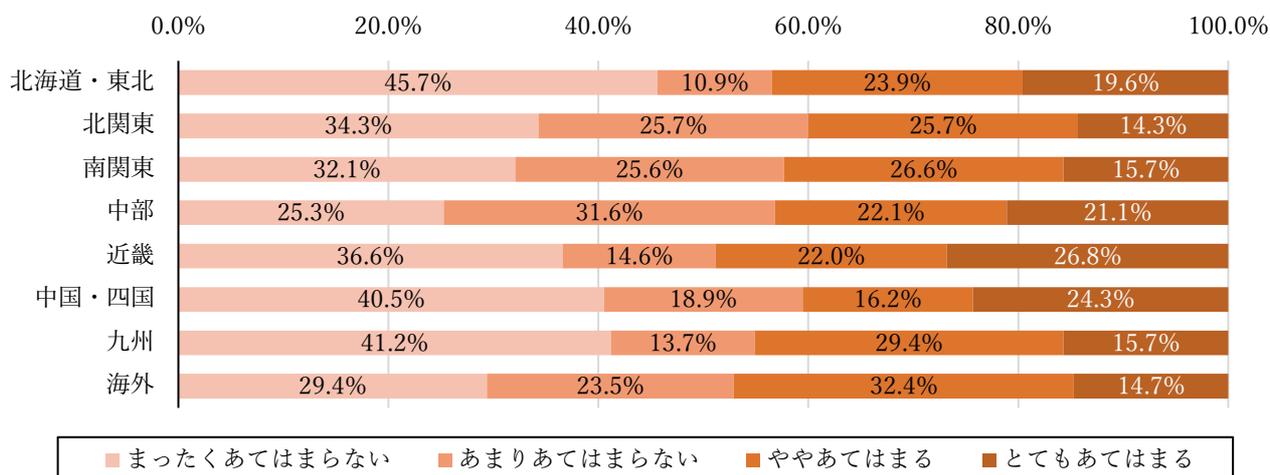


図 2-9 受験理由\_高校の先生や家族または塾などで勧められたから (地域ブロック別)

・伝統・校風が好きだから

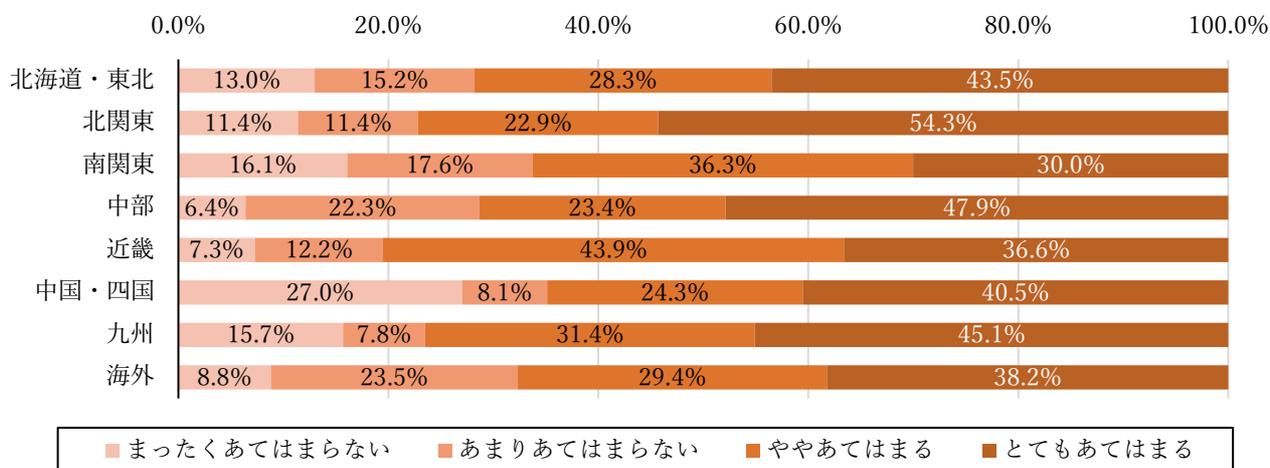


図 2-10 受験理由\_伝統・校風が好きだから (地域ブロック別)

・国際化が進んでいるから

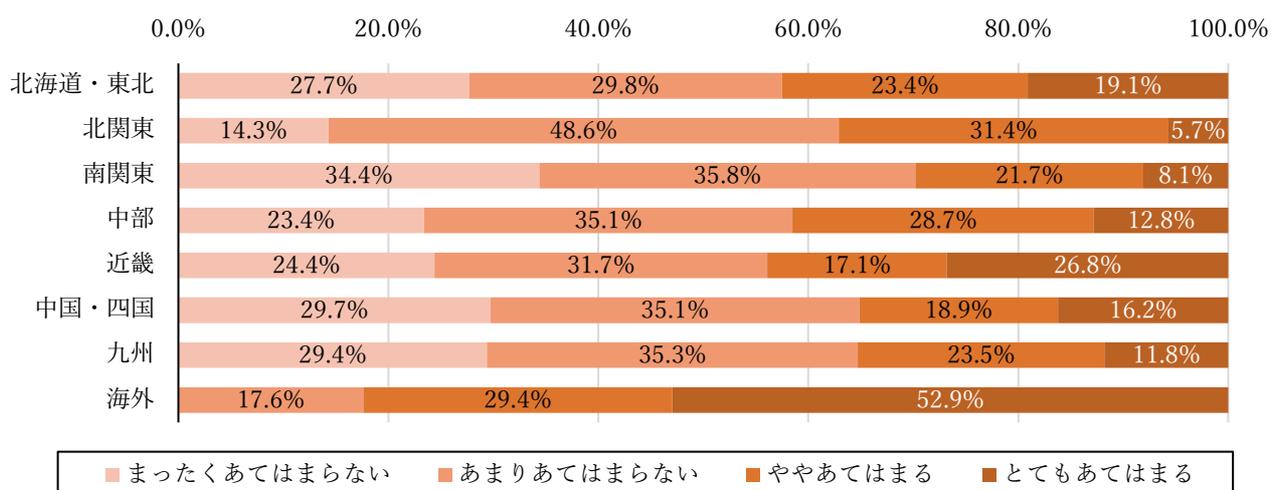


図 2-11 受験理由\_国際化が進んでいるから (地域ブロック別)

## 2-3. スループット

### ・専門科目

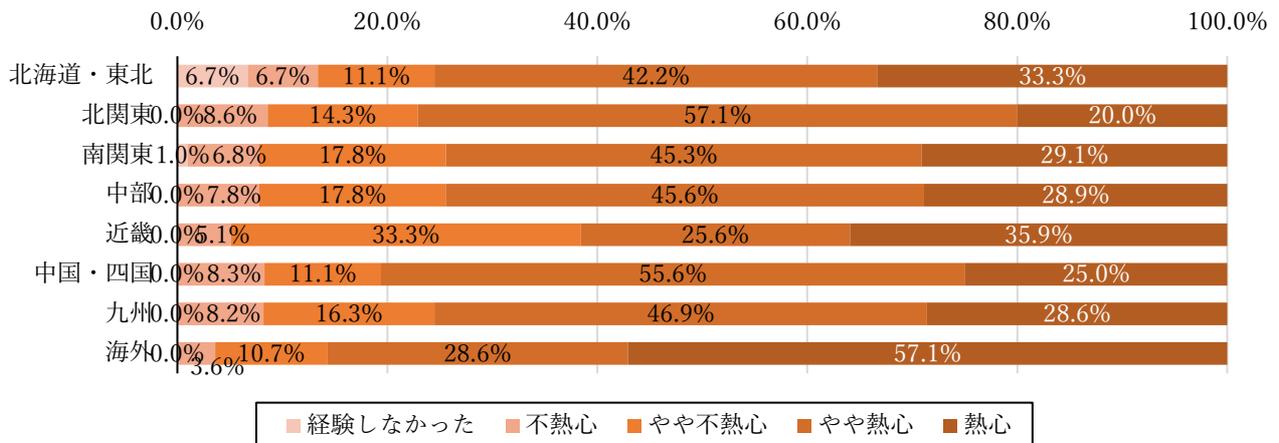


図2-12 在学時の活動の熱心さ\_\_専門科目（地域ブロック別）

### ・一般教育科目

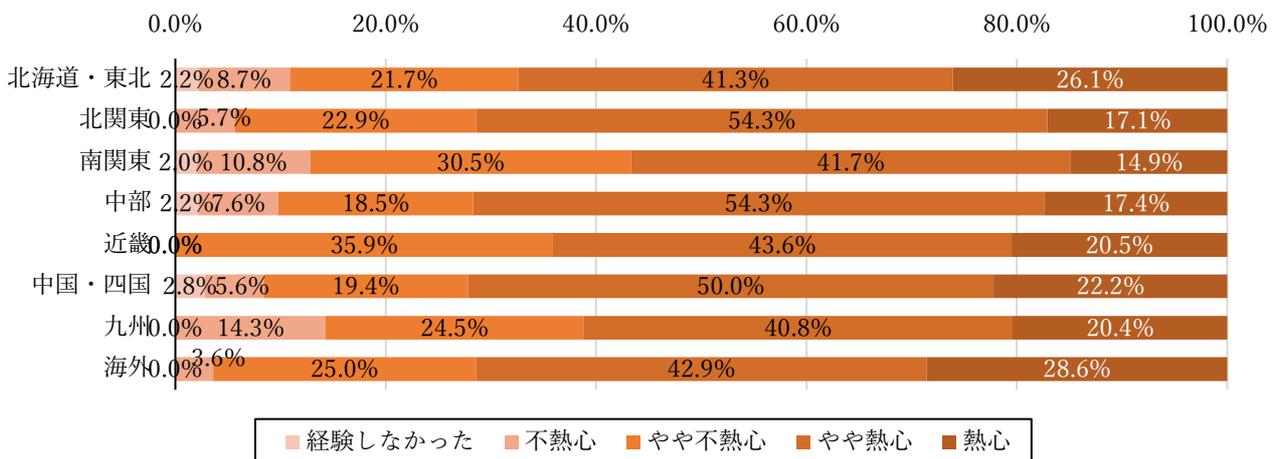


図2-13 在学時の活動の熱心さ\_\_一般教育科目（地域ブロック別）

### ・ゼミ

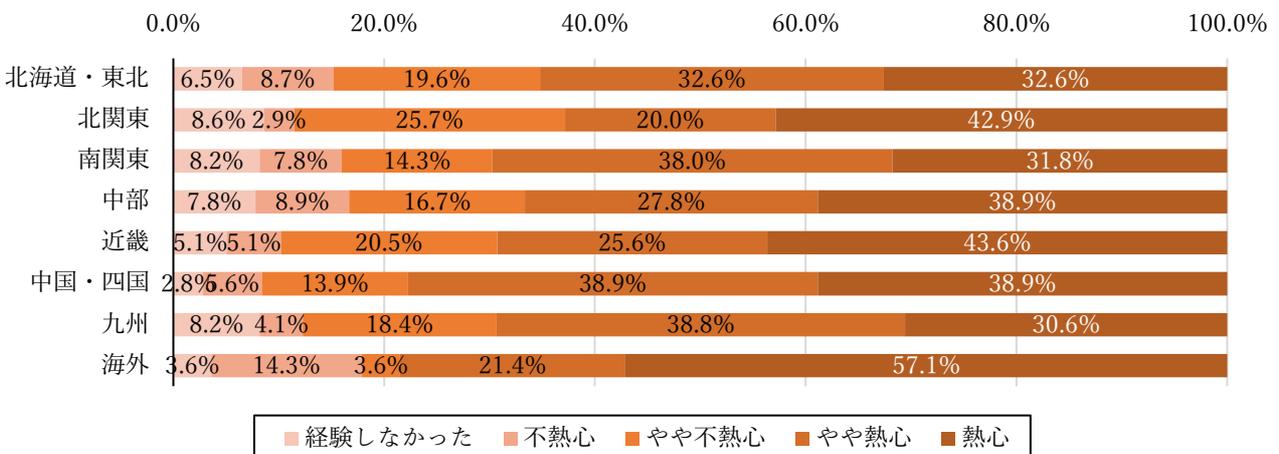


図2-14 在学時の活動の熱心さ\_\_ゼミ（地域ブロック別）

・卒業論文作成

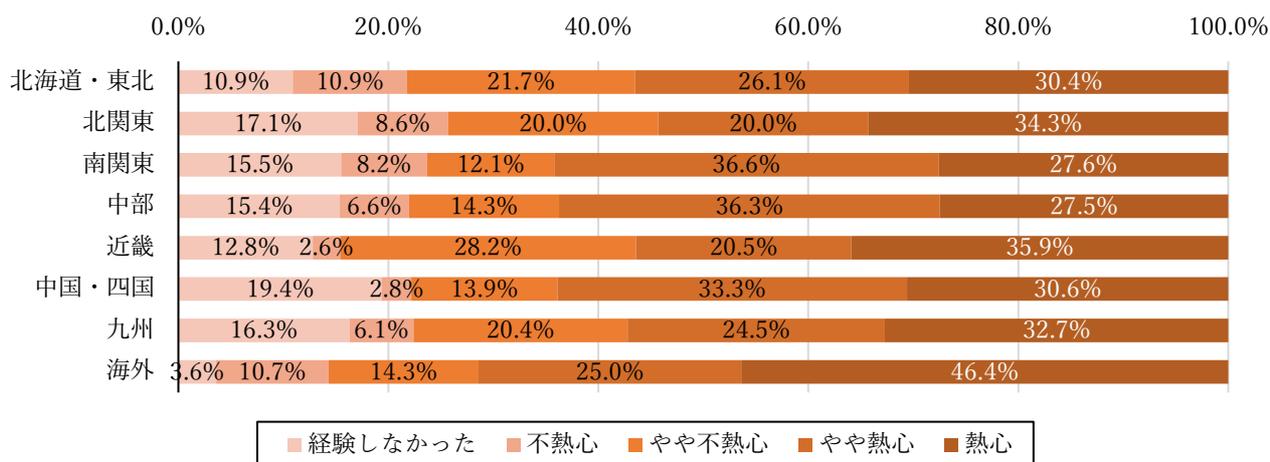


図 2-15 在学時の活動の熱心さ\_\_卒業論文作成 (地域ブロック別)

・部活動、サークル活動

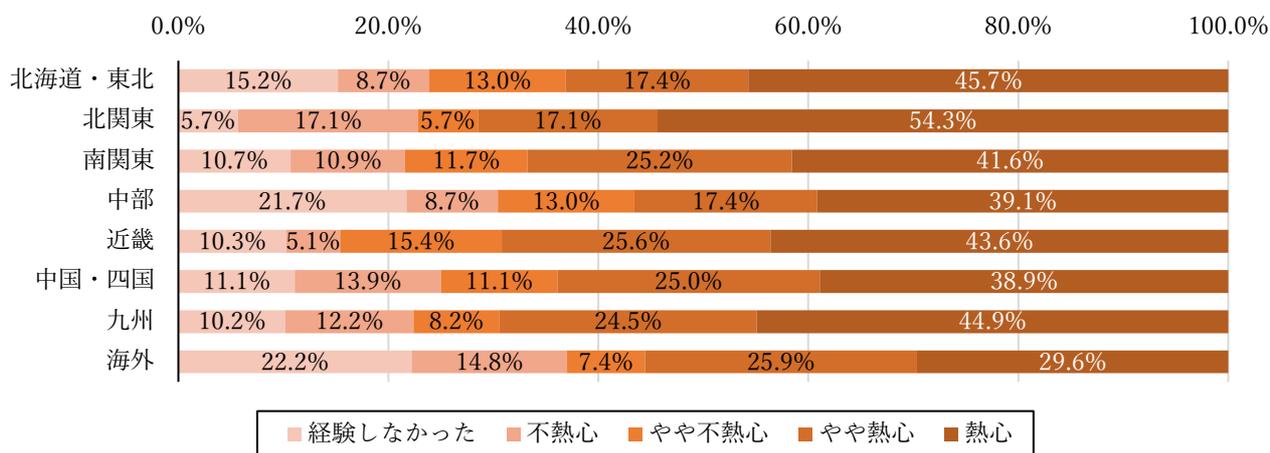


図 2-16 在学時の活動の熱心さ\_\_部活動、サークル活動 (地域ブロック別)

・学内のアルバイト

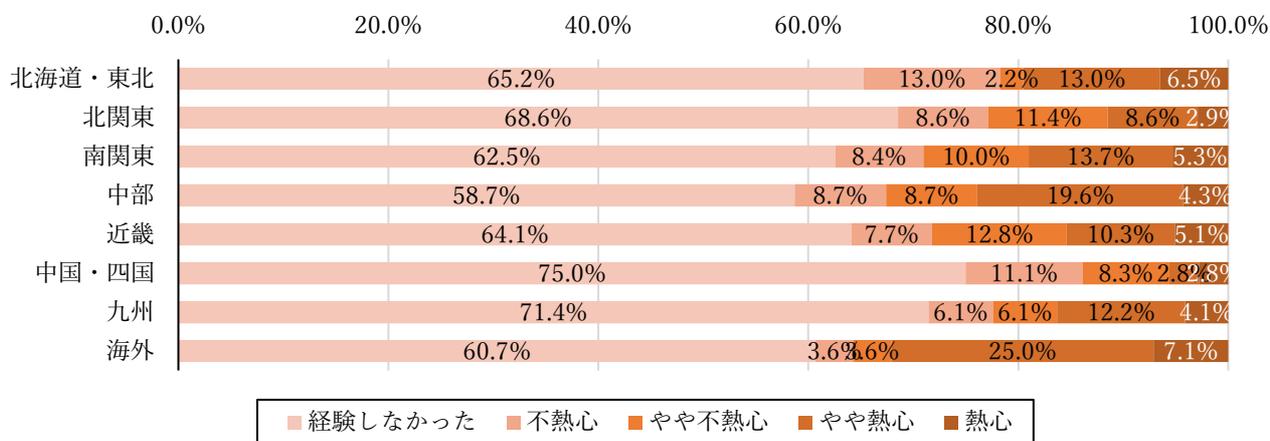


図 2-17 在学時の活動の熱心さ\_\_学内のアルバイト (地域ブロック別)

・学外のアパート・定職

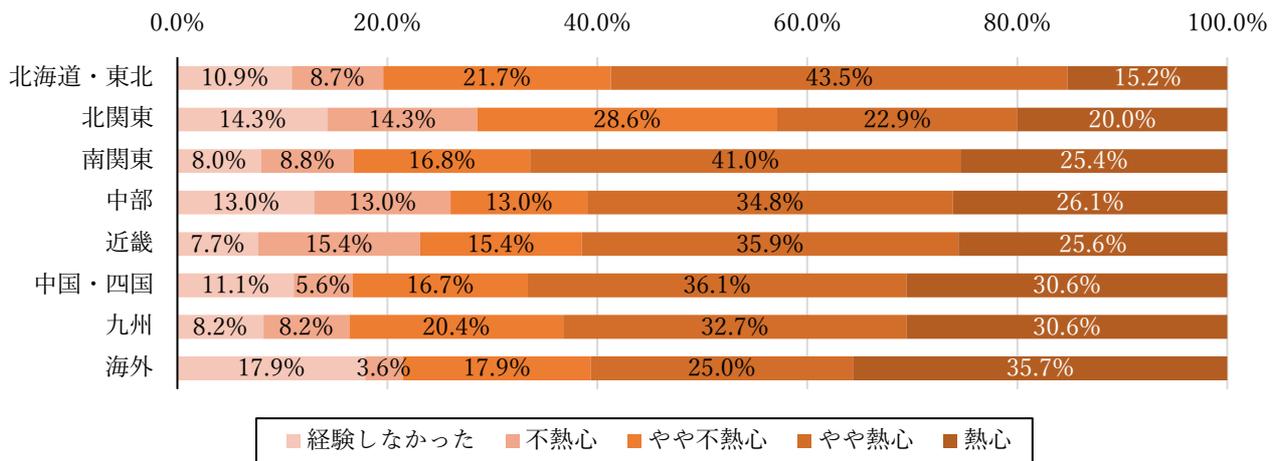


図 2-18 在学時の活動の熱心さ\_\_学外のアパート・定職 (地域ブロック別)

・ボランティア

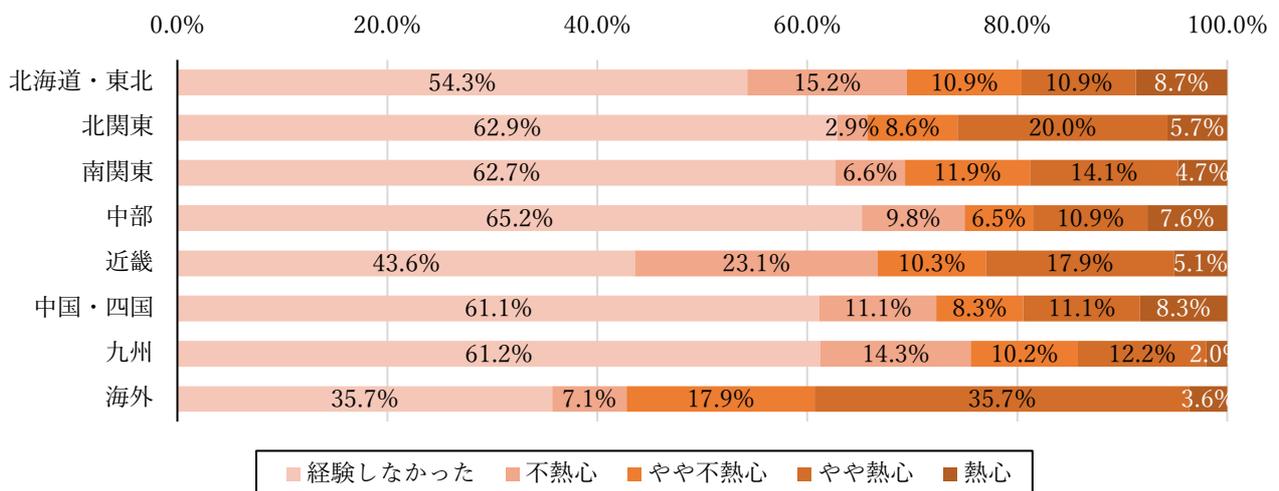


図 2-19 在学時の活動の熱心さ\_\_ボランティア (地域ブロック別)

・インターンシップ

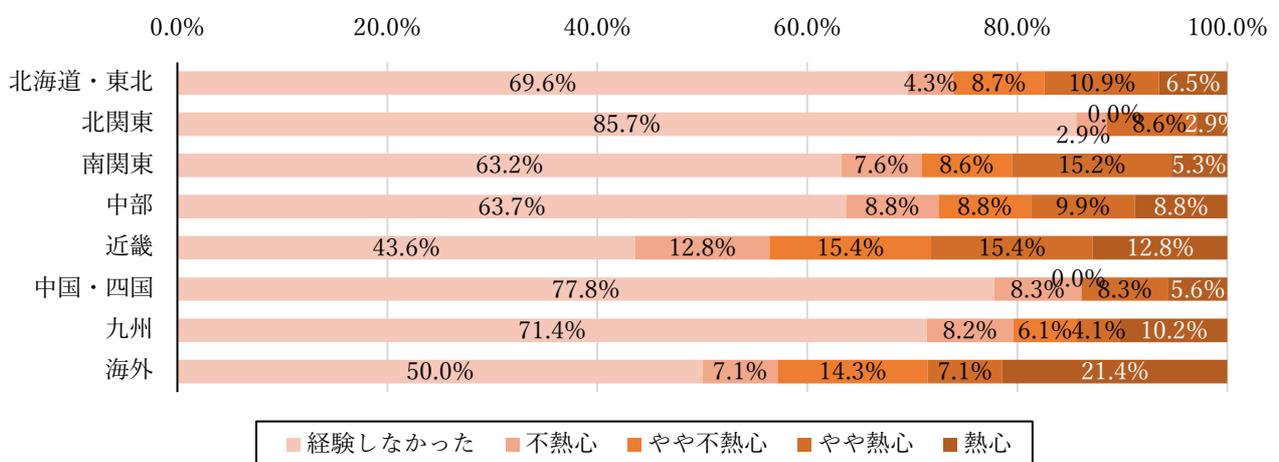


図 2-20 在学時の活動の熱心さ\_\_インターンシップ (地域ブロック別)

・早稲田大学以外での勉強

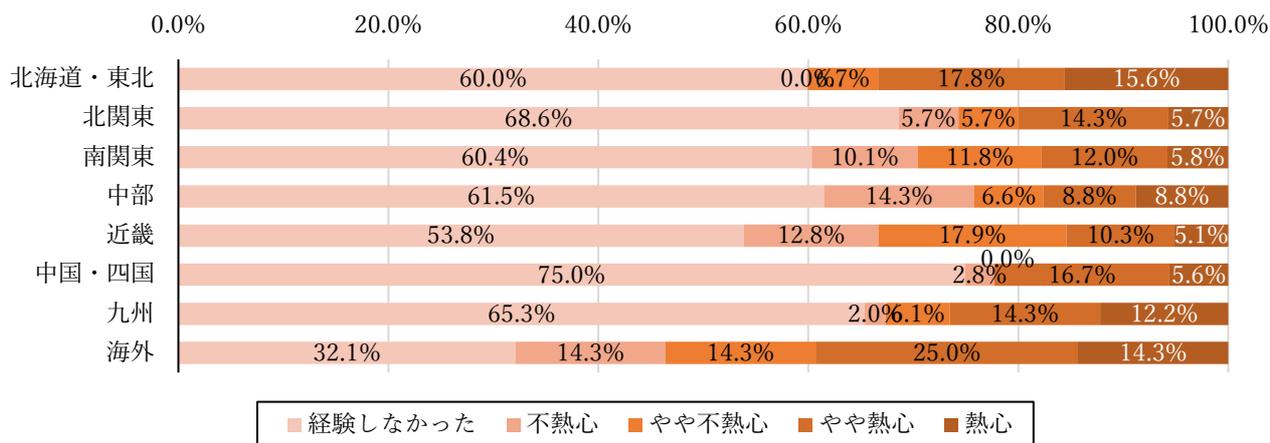


図 2-21 在学時の活動の熱心さ\_\_早稲田大学以外での勉強（地域ブロック別）

・資格取得や教職、国家試験勉強

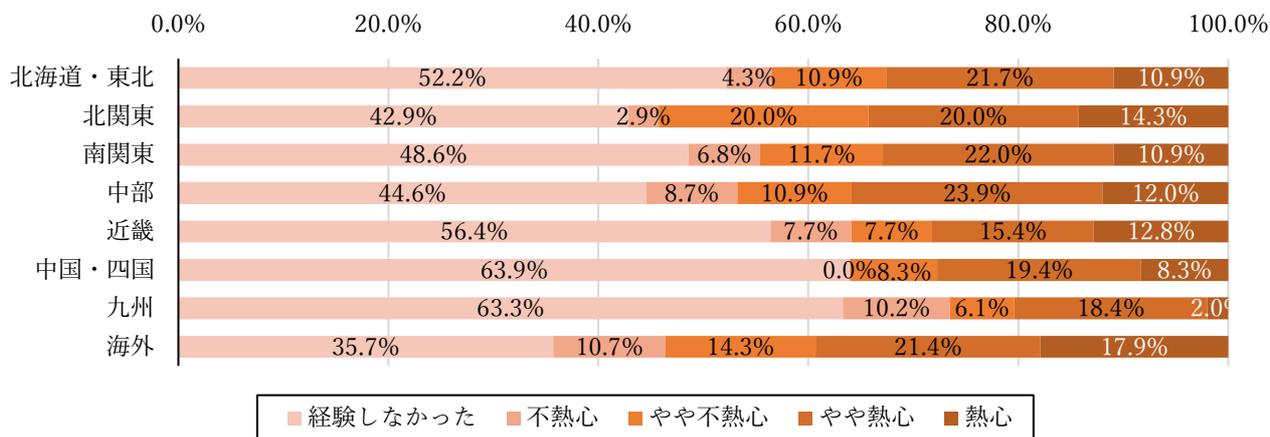


図 2-22 在学時の活動の熱心さ\_\_資格取得や教職、国家試験勉強（地域ブロック別）

・大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）

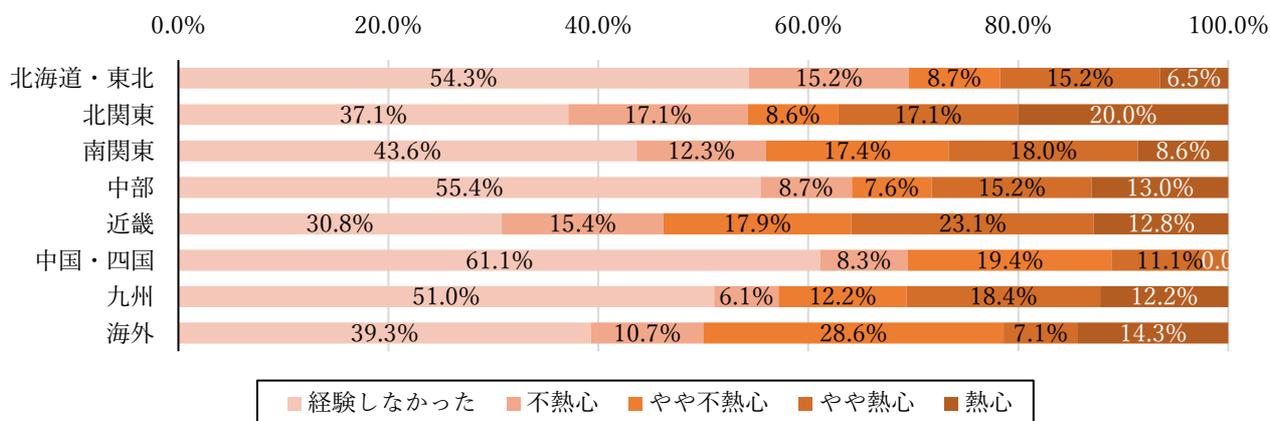


図 2-23 在学時の活動の熱心さ\_\_大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）（地域ブロック別）

・図書館を利用した

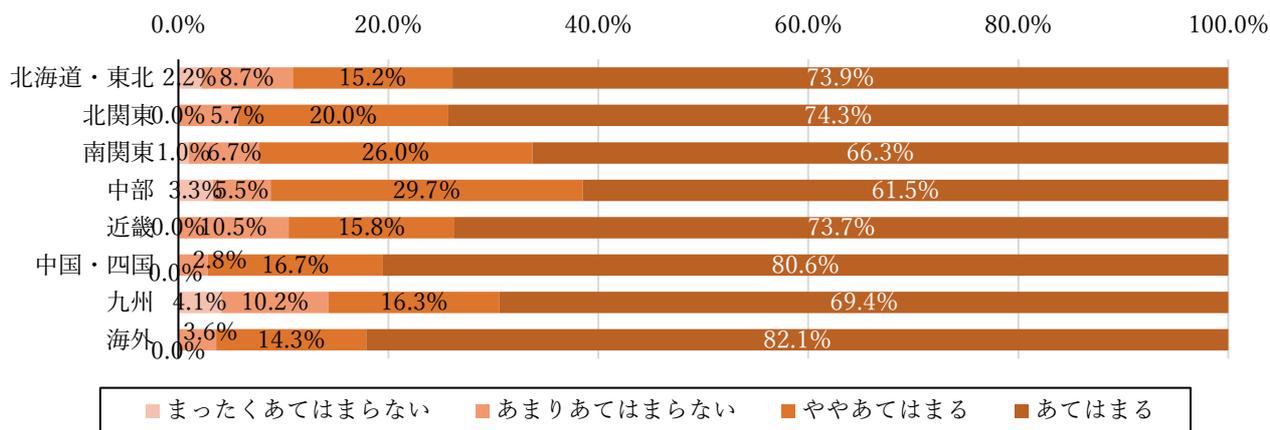


図 2-24 在学時の活動\_図書館の利用 (地域ブロック別)

・読書 (漫画や雑誌を除く) をした

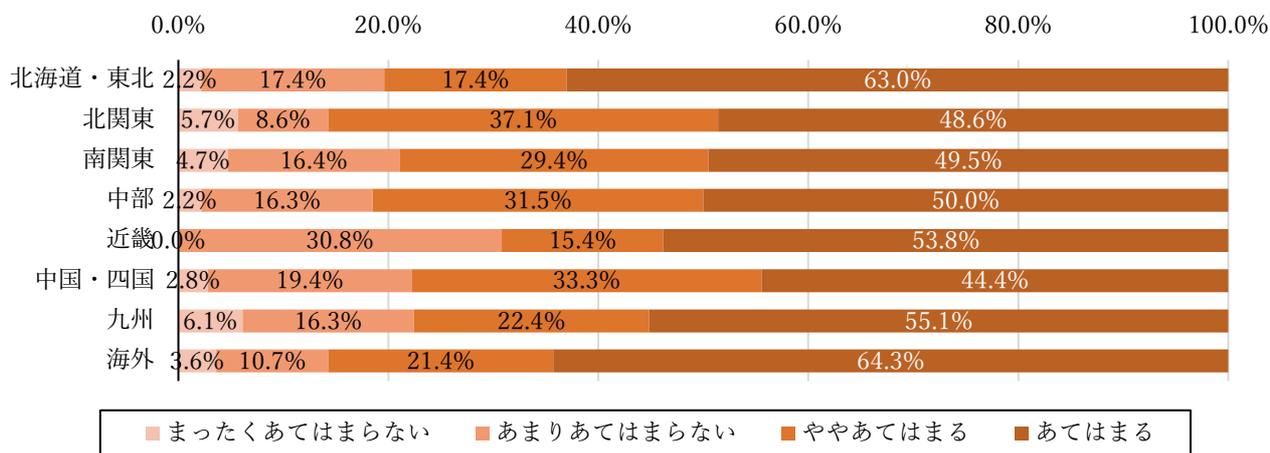


図 2-25 在学時の活動\_読書 (地域ブロック別)

・自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした

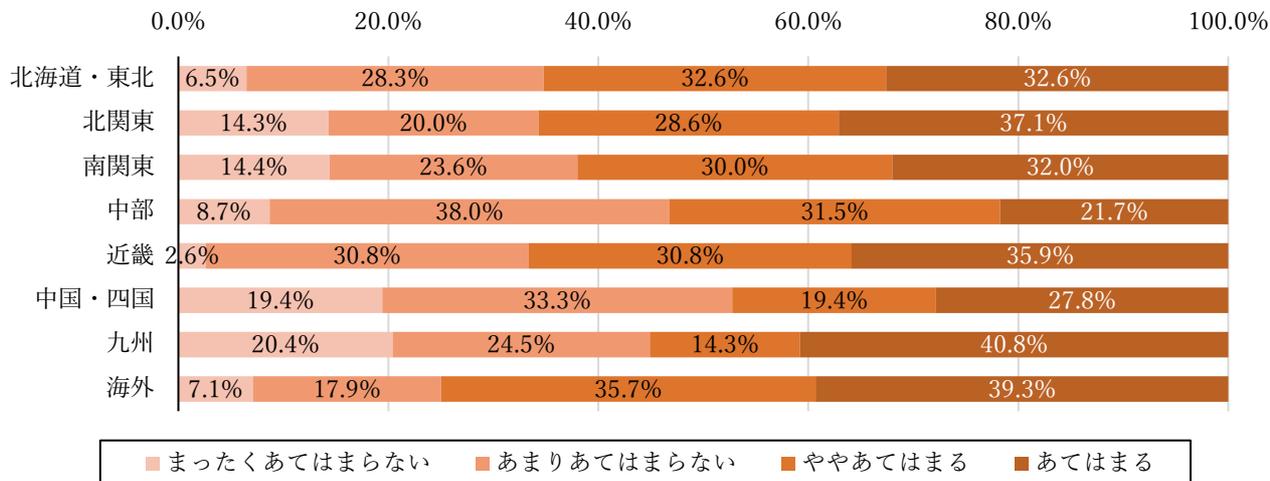


図 2-26 在学時の活動\_研究・発表 (地域ブロック別)

・授業内容について、他の学生と議論した

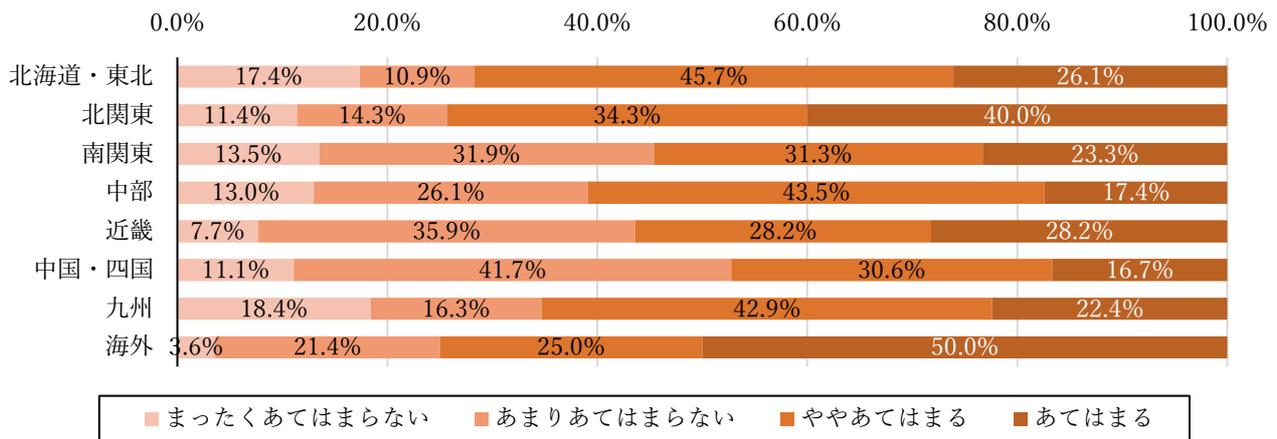


図2-27 在学時の活動\_授業内容についての学生との議論（地域ブロック別）

・授業内容について、教員と議論した

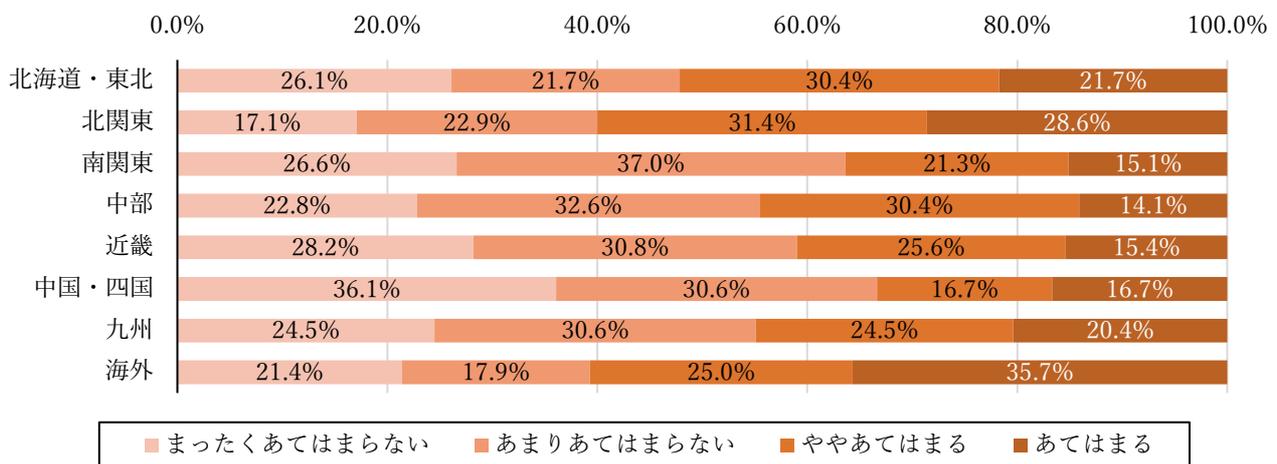


図2-28 在学時の活動\_授業内容についての教員との議論（地域ブロック別）

・語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした

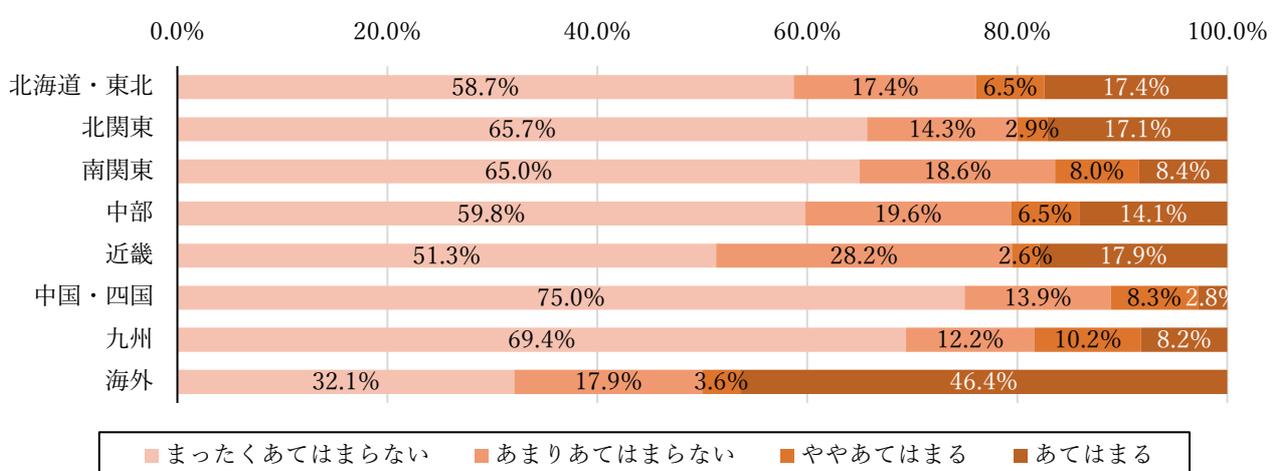


図2-29 在学時の活動\_外国語での議論や発表（語学の授業以外）（地域ブロック別）

・留学生と一緒に学んだ

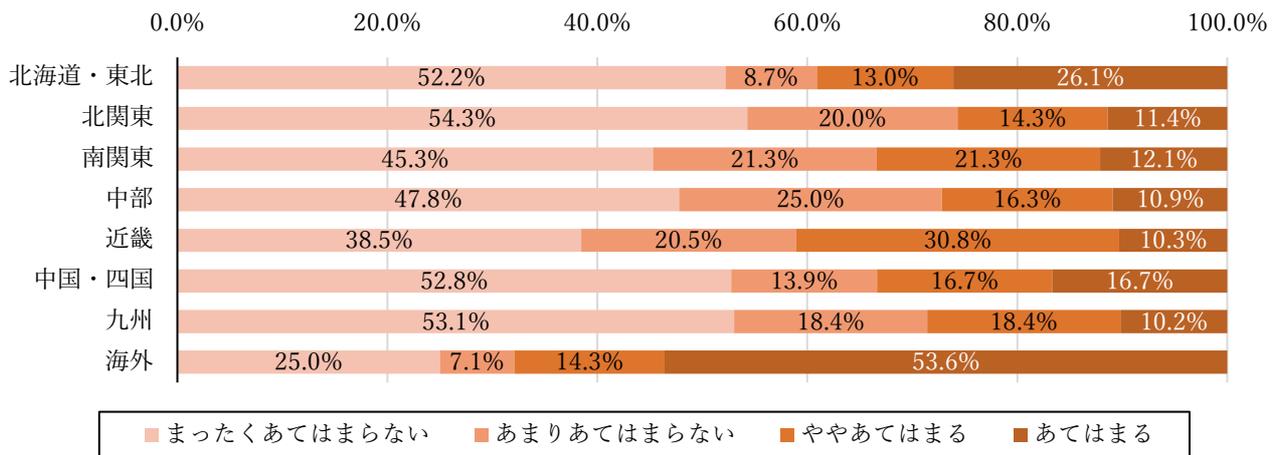


図 2-30 在学時の活動\_留学生との学習 (地域ブロック別)

・授業の一環として大学外で学んだ (フィールドワーク等)

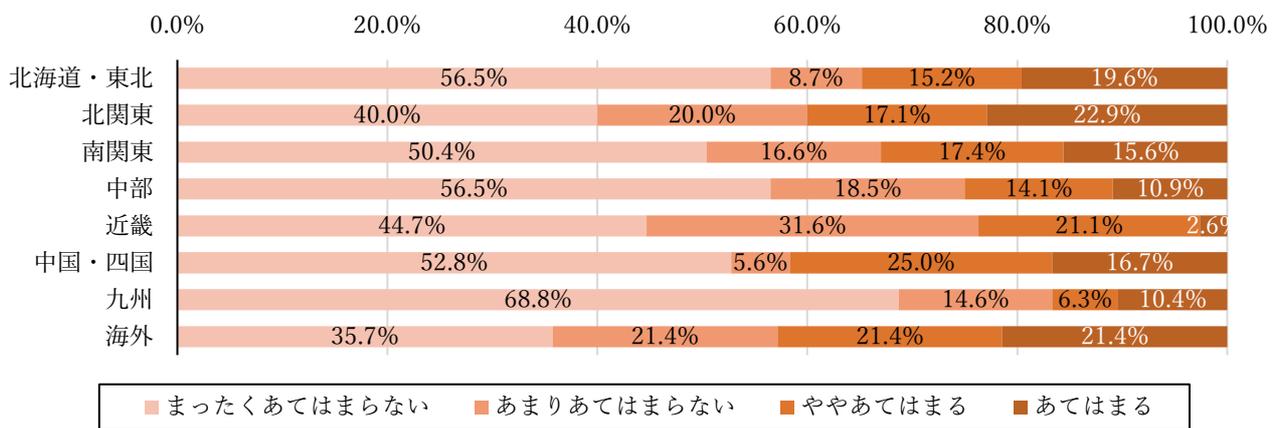


図 2-31 在学時の活動\_授業の一環としての大学外での学び (地域ブロック別)

・特別な理由なく授業を欠席した

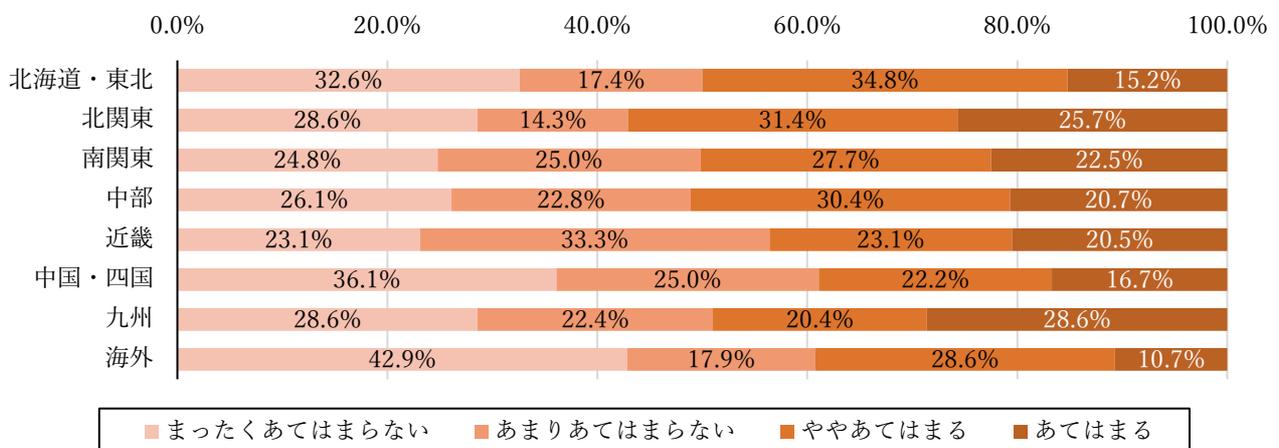


図 2-32 在学時の活動\_特別な理由のない授業の欠席 (地域ブロック別)

・よい教員に巡り合えた

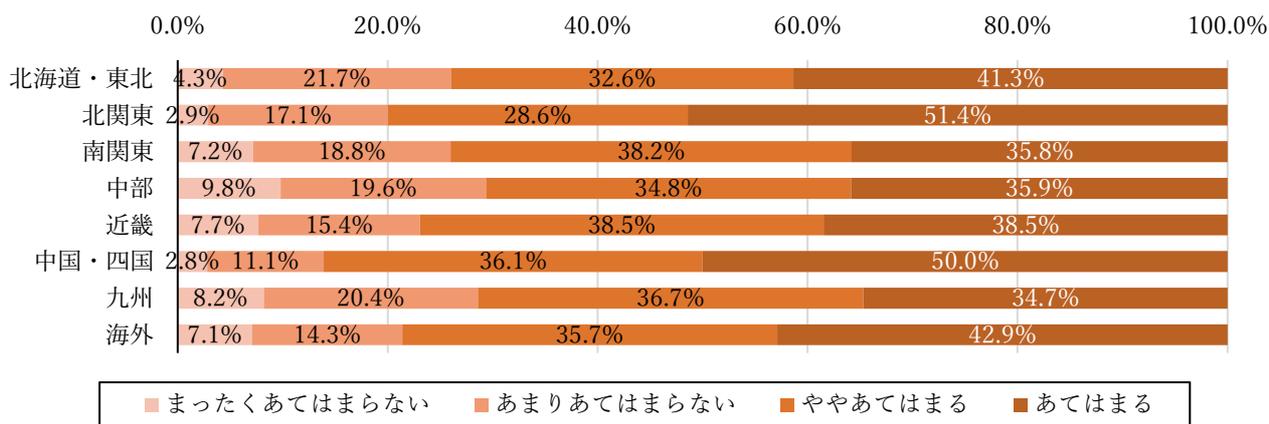


図 2-33 在学時の活動\_よい教員との出会い (地域ブロック別)

・大学 (学部) 在学中に留学をしたことはありますか。

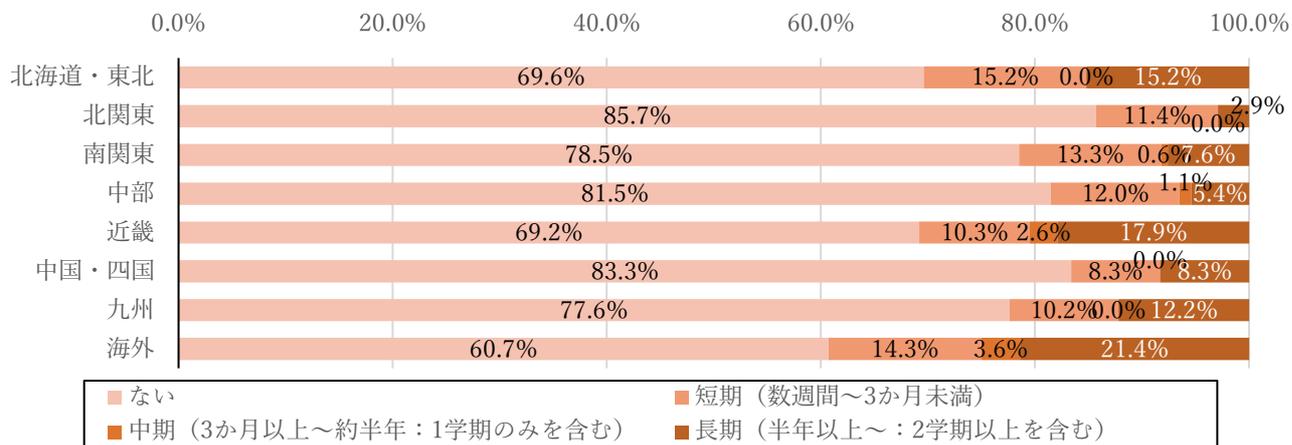


図 2-34 留学経験 (地域ブロック別)

・学部の成績 (1~2年)

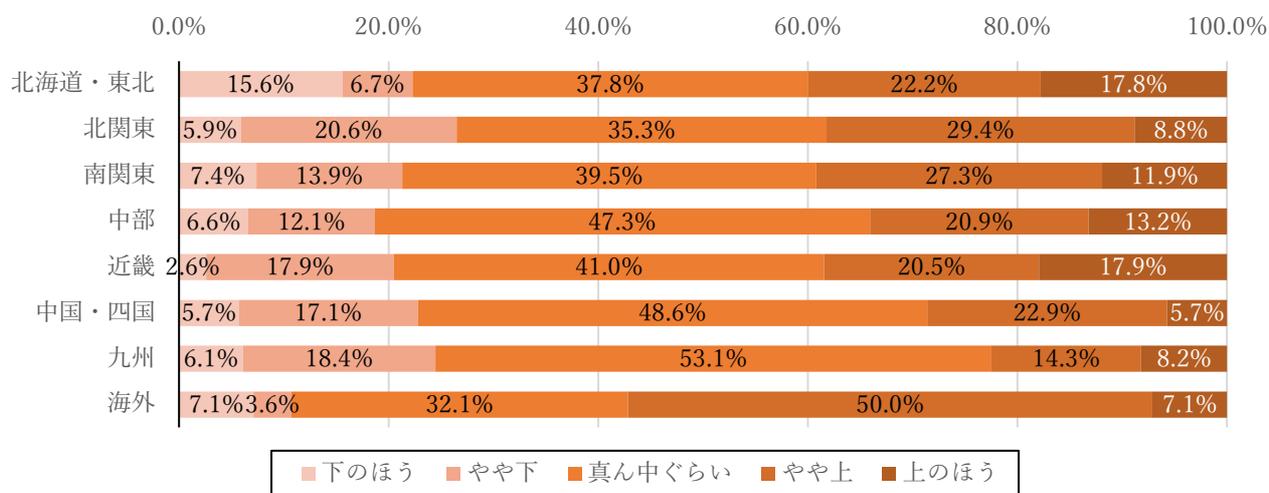


図 2-35 在学時の成績 (1~2年) (地域ブロック別)

・学部の成績（3～4年）

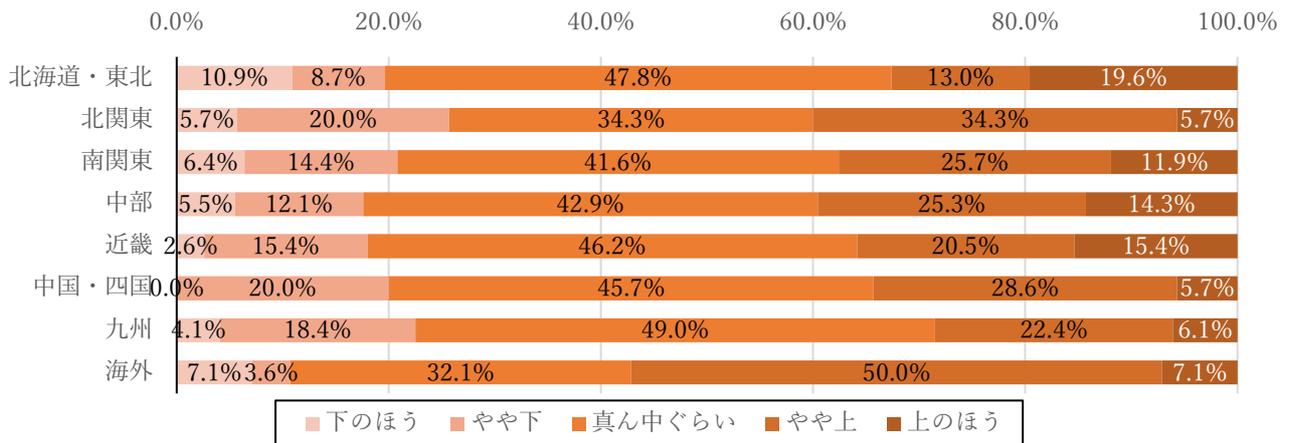


図2-36 在学時の成績（3～4年）（地域ブロック別）

2-4. アウトプット

・既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる

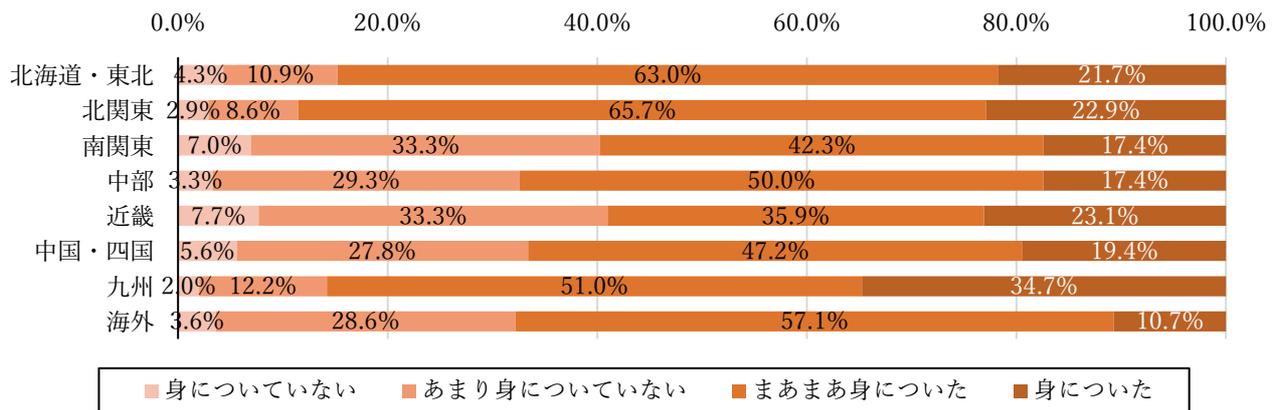


図2-37 学部で身につけたもの\_アイデア創出力（地域ブロック別）

・物事を論理的に考えることができる

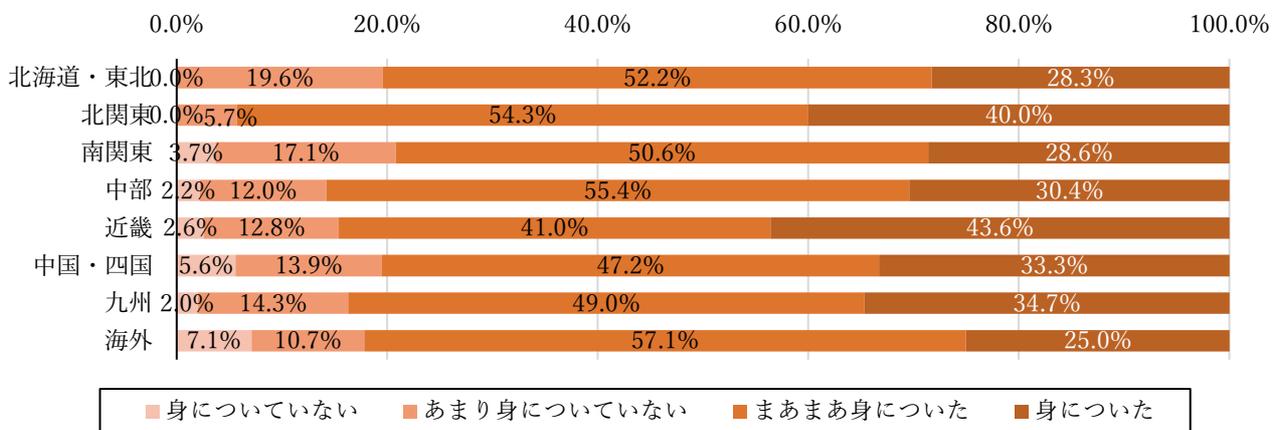


図2-38 学部で身につけたもの\_論理的思考力（地域ブロック別）

- ・課題の解決方法を提案できる

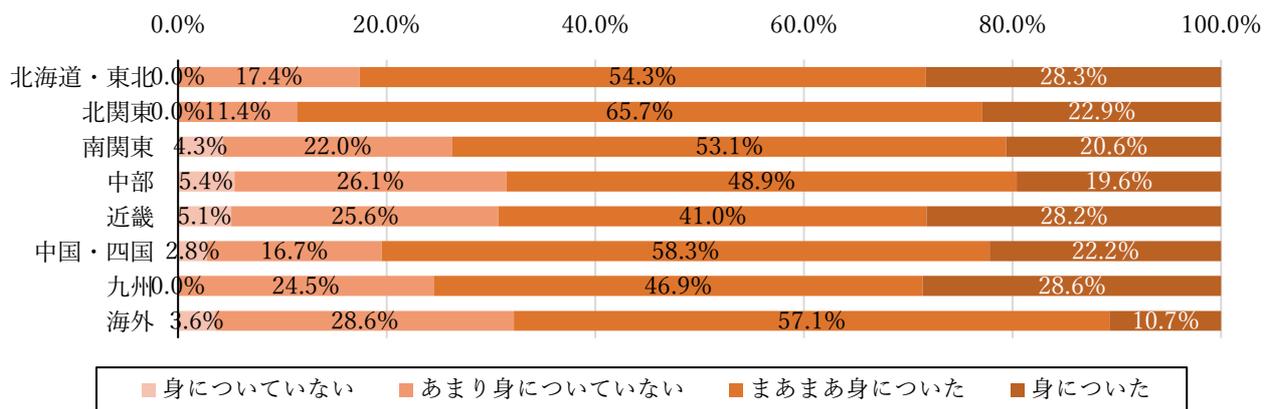


図 2-39 学部で身につけたもの\_\_課題解決力（地域ブロック別）

- ・自分の考えを分かりやすく表現できる

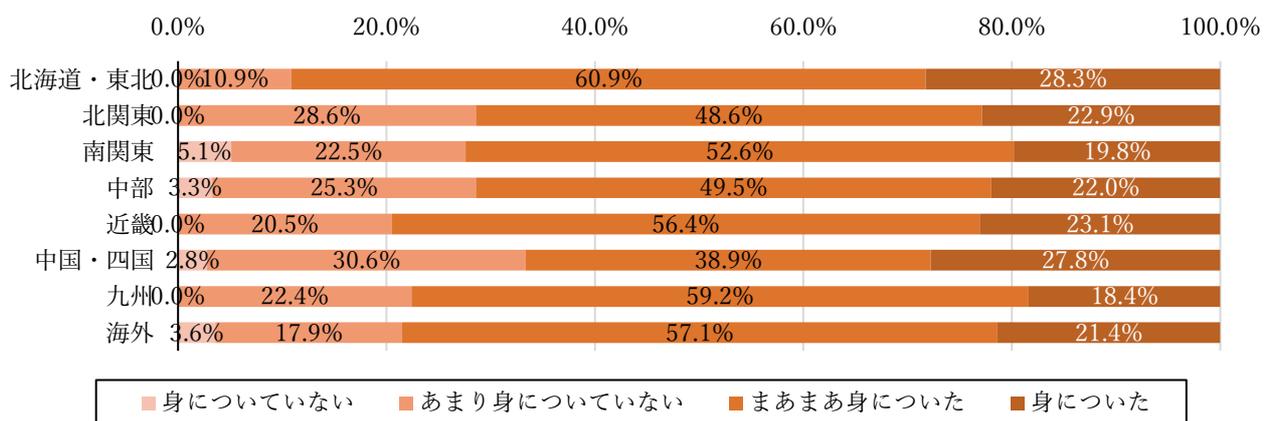


図 2-40 学部で身につけたもの\_\_表現力・プレゼンテーション能力（地域ブロック別）

- ・相手の状況や考え方を尊重できる

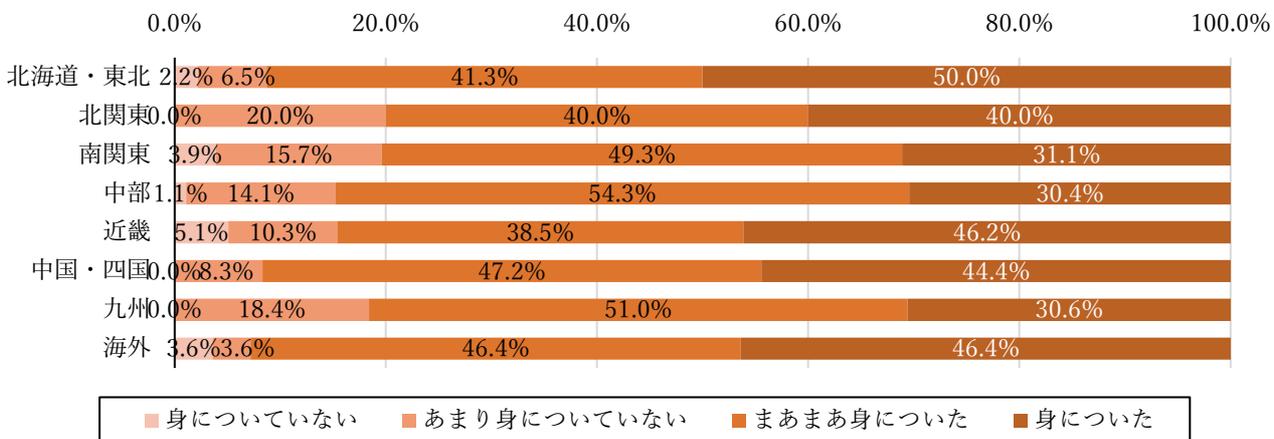


図 2-41 学部で身につけたもの\_\_相手の状況や考え方を尊重できる（地域ブロック別）

・物事を多面的に考えることができる

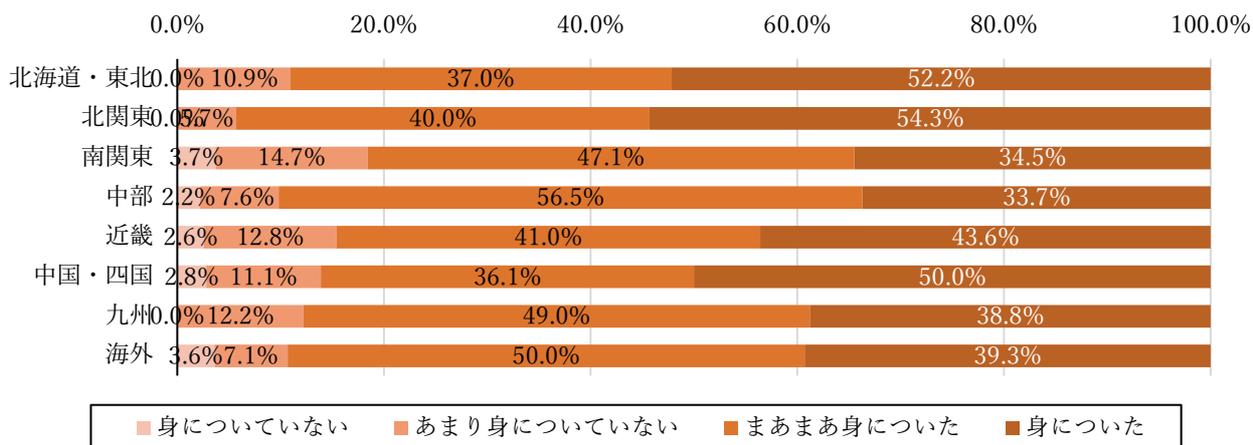


図 2-42 学部で身につけたもの\_\_物事を多面的に考えることができる (地域ブロック別)

・健全に批判することができる

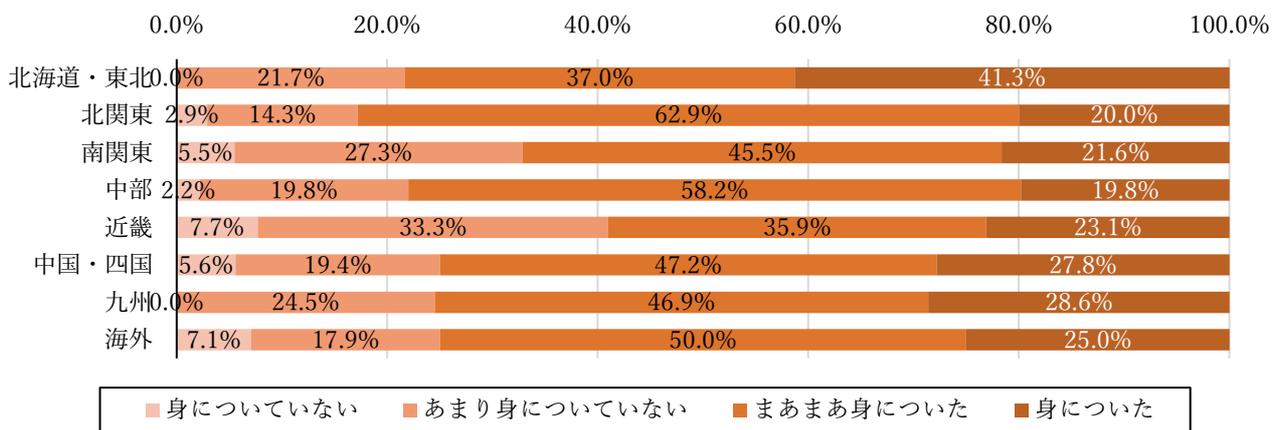


図 2-43 学部で身につけたもの\_\_健全に批判することができる (地域ブロック別)

・多様性を受け入れられる

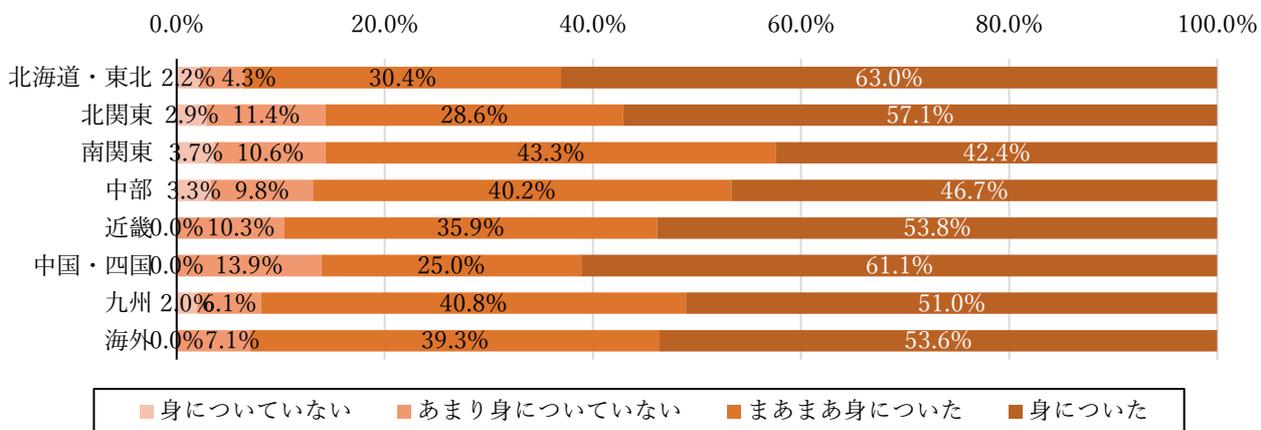


図 2-44 学部で身につけたもの\_\_多様性を受け入れられる (地域ブロック別)

・異文化を理解できる

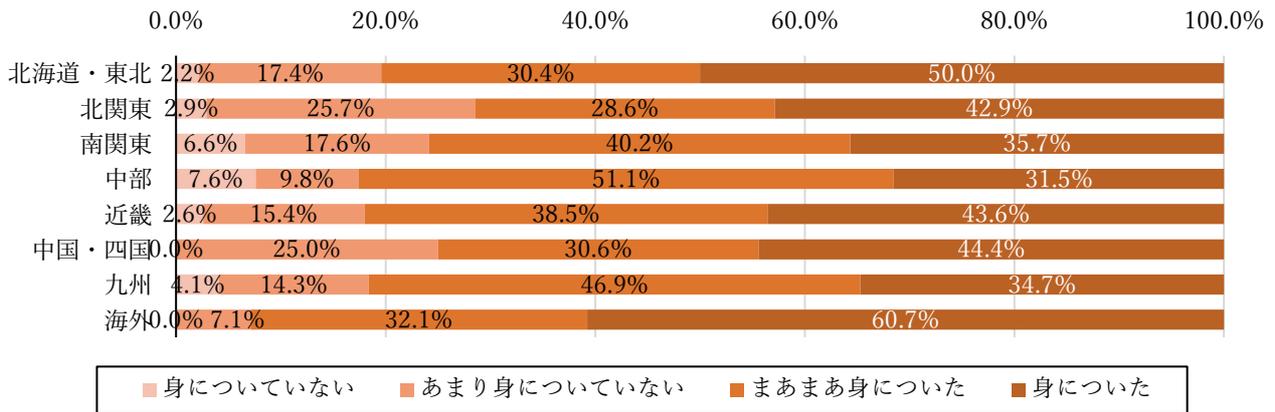


図2-45 学部で身につけたもの\_\_異文化を理解できる (地域ブロック別)

・外国語を理解し、話せる

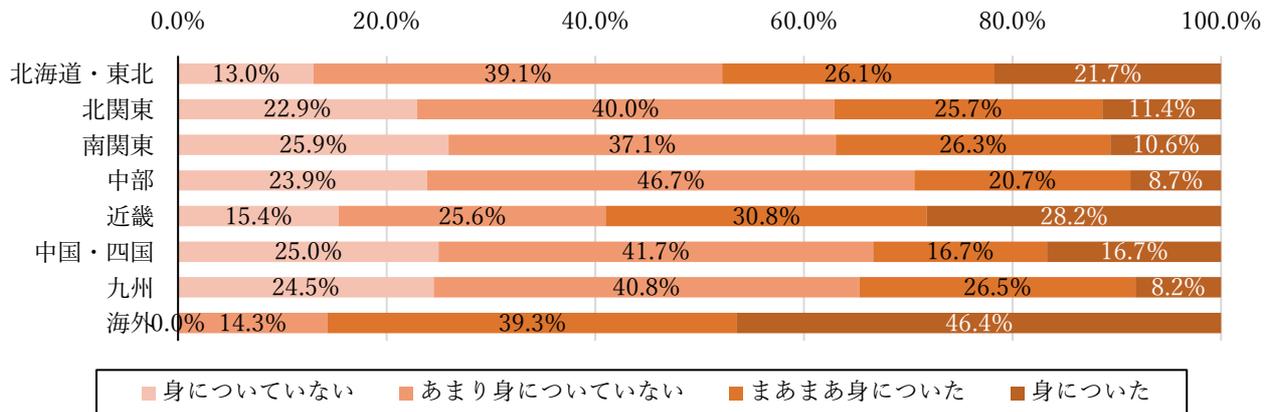


図2-46 学部で身につけたもの\_\_外国語を理解し、話せる (地域ブロック別)

## 2-5. 役立ち度

### ・専門科目

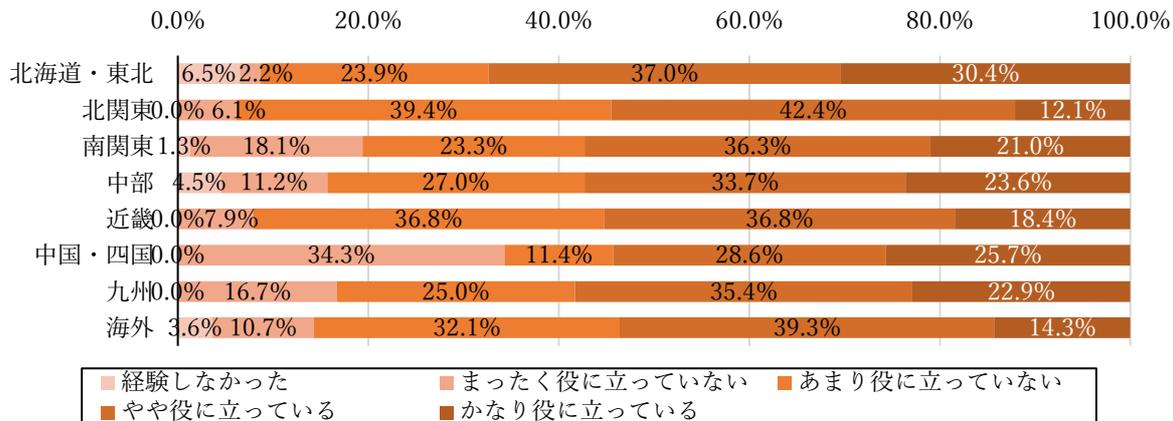


図2-47 教育経験の役立ち度\_専門科目 (国際タイプ別)

### ・一般教育科目

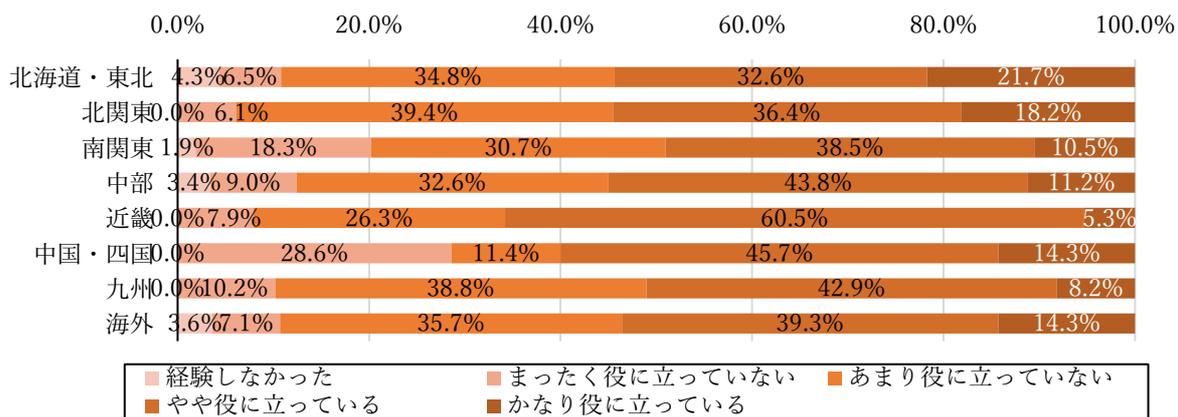


図2-48 教育経験の役立ち度\_一般教育科目 (地域ブロック別)

### ・ゼミ

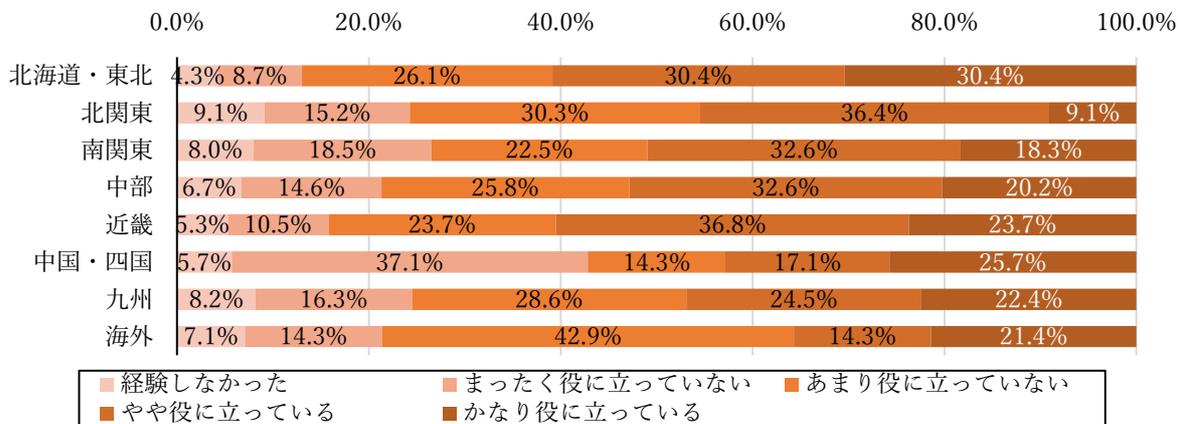


図2-49 教育経験の役立ち度\_ゼミ (国際タイプ)

・卒業論文作成

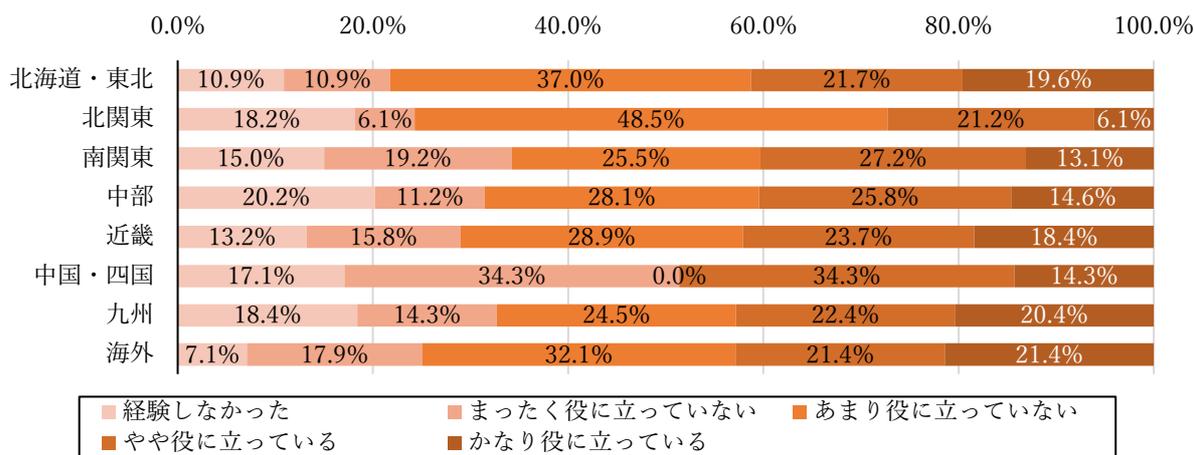


図 2-50 教育経験の役立ち度\_卒業論文作成 (地域ブロック別)

・部活動、サークル活動

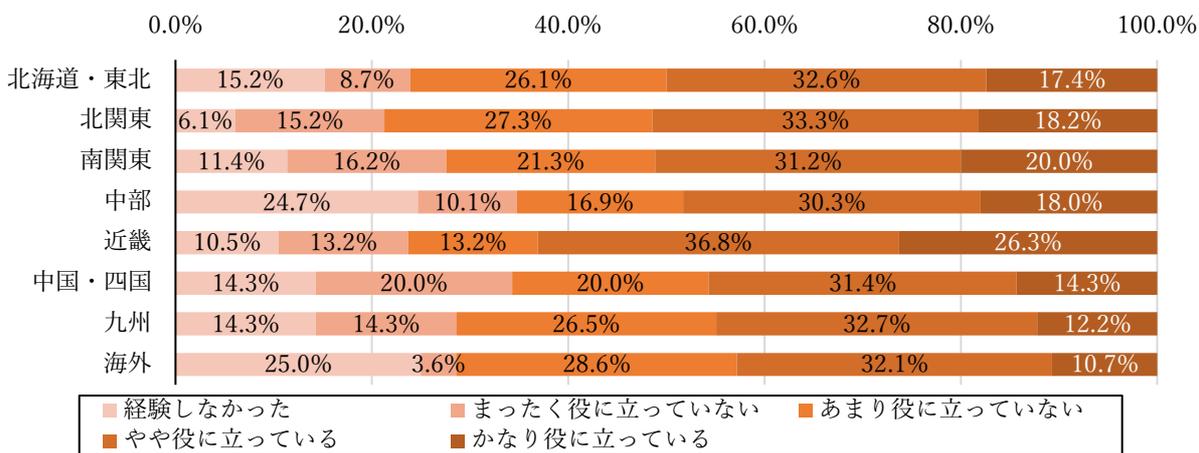


図 2-51 大学時の経験の役立ち度\_部活動、サークル活動 (地域ブロック別)

・学内のアルバイト

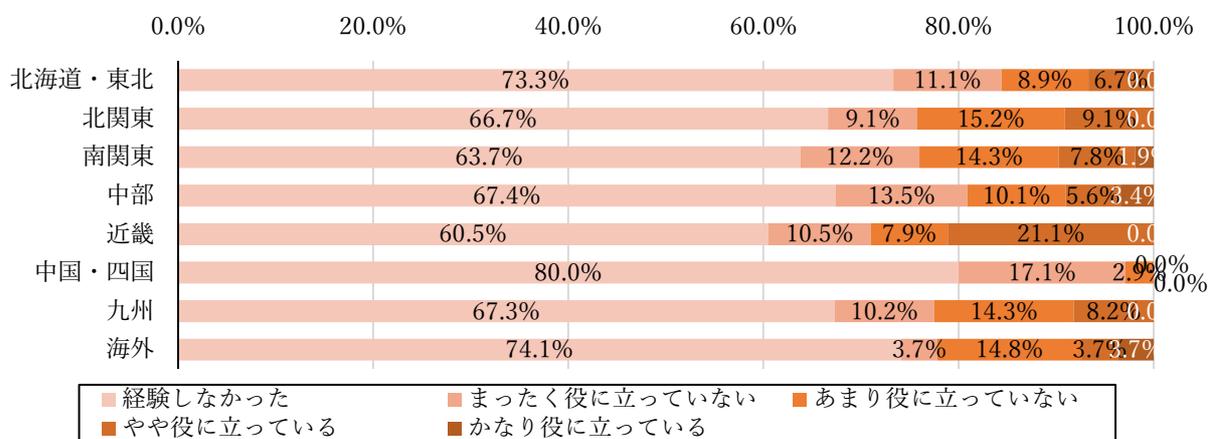


図 2-52 大学時の経験の役立ち度\_学内のアルバイト (地域ブロック別)

・学外のアルバイト

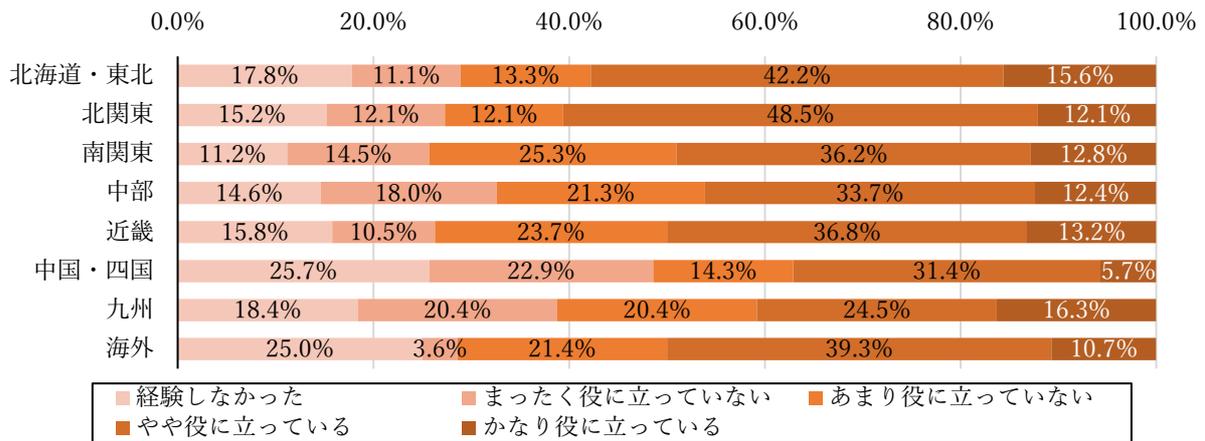


図 2-53 大学時の経験の役立ち度\_学外のアルバイト (地域ブロック別)

・留学

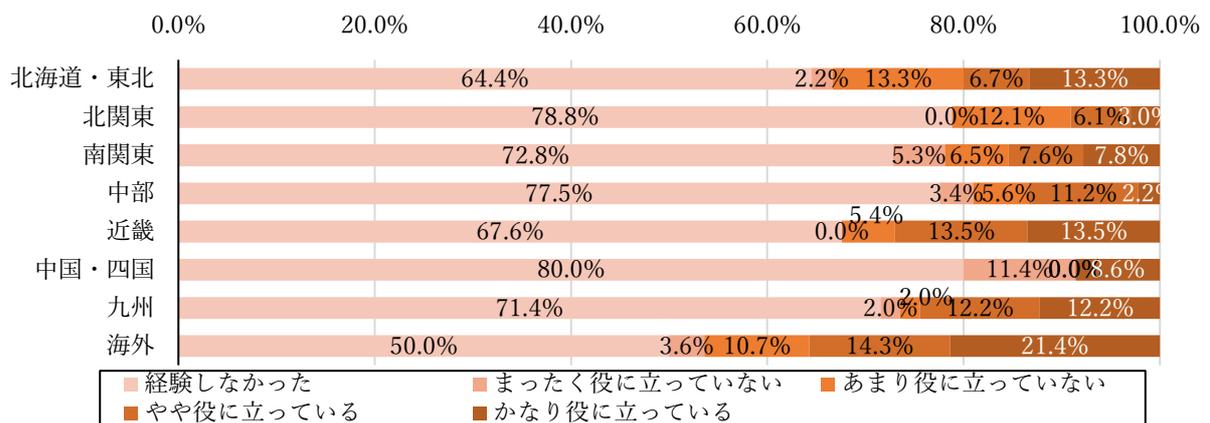


図 2-54 大学時の経験の役立ち度\_留学 (地域ブロック別)

・ボランティア

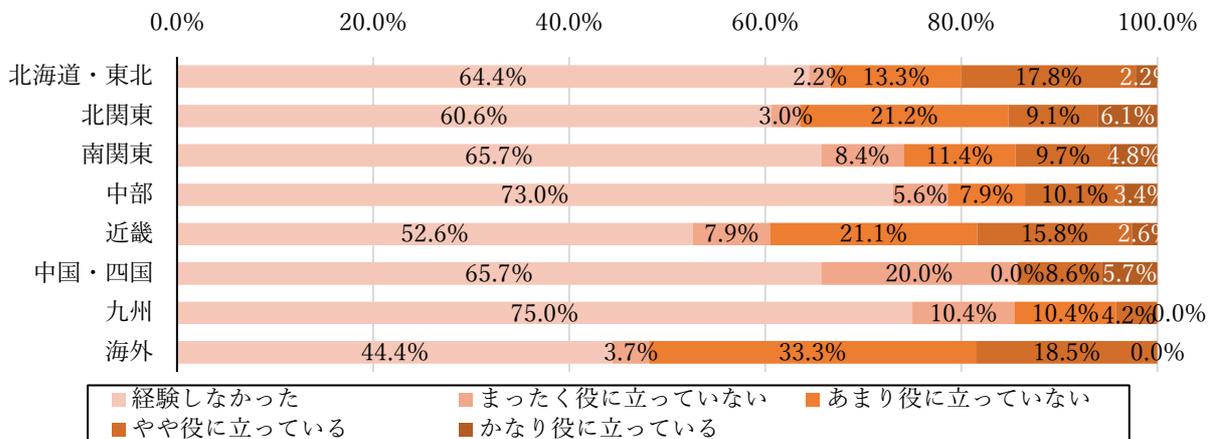


図 2-55 大学時の経験の役立ち度\_ボランティア (地域ブロック別)

・インターンシップ

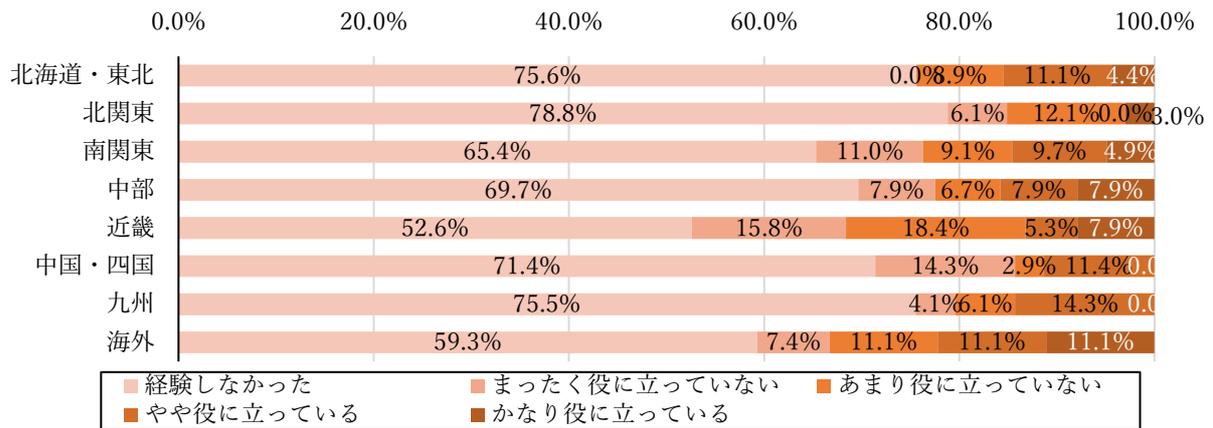


図 2-56 大学時の経験の役立ち度\_\_インターンシップ (地域ブロック別)

・早稲田大学以外での勉強

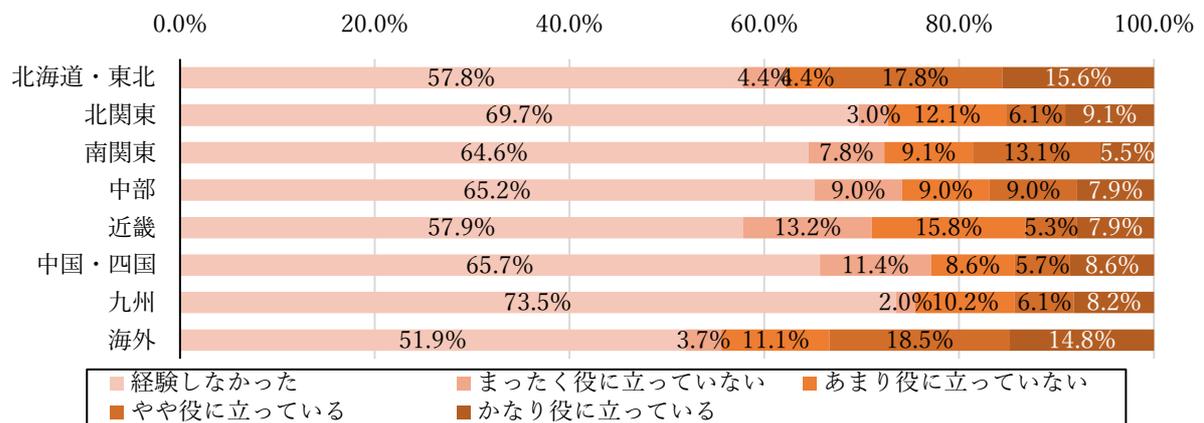


図 2-57 大学時の経験の役立ち度\_\_早稲田大学以外での勉強 (地域ブロック別)

・資格取得や教職、国家試験勉強

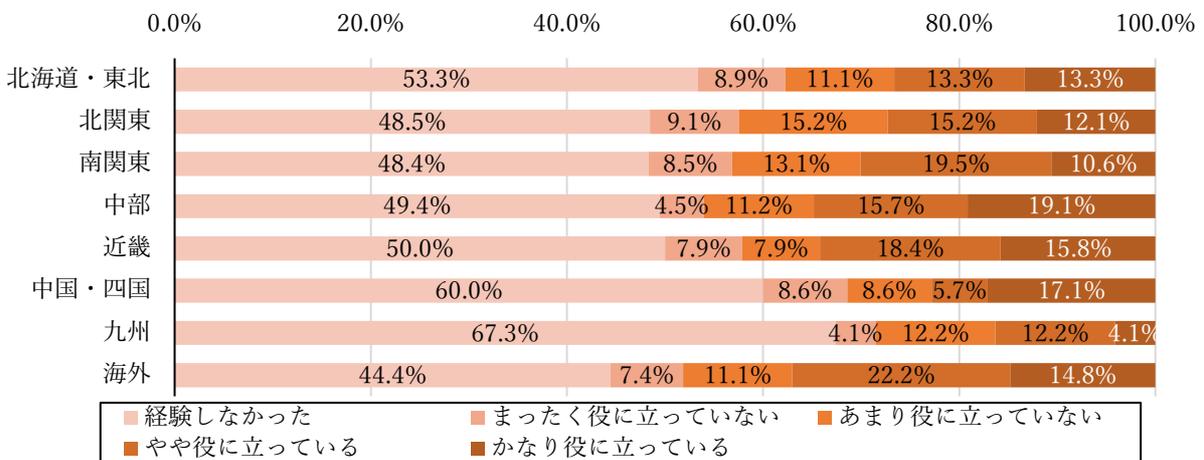


図 2-58 大学時の経験の役立ち度\_\_資格取得や教職、国家試験勉強 (地域ブロック別)

## 第3章 校友関係の分析

### 3-1. 本章の目的

本章では、校友関係の質問項目の分析を行う。本調査では校友関係の質問項目を設定しており、校友関係の変数と、入学時・在学時に関する質問項目や卒業後に関する質問項目との関連を明らかにすることが本章の目的である。まず第2節で、校友関係の質問項目の整理をし、本章で用いる校友関係の変数としてまとめる。続いて第3節では入学・在学時に関する質問項目と校友関係の変数との関連を、第4節では卒業後に関する質問項目と校友関係の変数との関連を、第5節では入学・在学時及び卒業後に関する全ての質問項目との関連を分析し、第6節はまとめである。

本章では校友関係の変数を目的変数とした重回帰分析を実施し、モデル（説明変数）の選択においてステップワイズ法を用いる。本調査のように仮説検証型ではなく、大量の調査項目を用いながら意味のある回帰式を得ようとする場合、ルールに従って独立変数の選別をするステップワイズ法によるモデルの選択は有効である。そのうえで本章では、変数減少法による重回帰分析も実施し、AIC（赤池情報量規準）、BIC（バイズ情報量基準）、Mallows の  $C_p$  といった、モデルの当てはまりの良さを評価するための指標も確認しながら、検討の余地のある説明変数に関しては適宜言及する。

### 3-2. 校友関係の変数

校友に関する質問は3つの大問からなり、「早稲田大学の校友として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか」、「早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時はどのような時ですか」、「早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか」であり、それぞれ複数選択式であった。

表3-1は、校友関係の質問項目の、各選択肢を選択した度数である。「早稲田大学の校友として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか」には9つの選択肢があり、特に選択の割合が高かったのは「『早稲田学報』を読んでいる」(48.5%)、「大学時代の友人と定期的に関わっている」(47.1%)であった。一方で「普段、早稲田大学と関わることはない」は10.4%であった。

「早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時はどのような時ですか」には13の選択肢があり、特に選択の割合が高かったのは、「早稲田大学の校友や在学生の活躍を知った時」(48.8%)、「早稲田スポーツの活躍を知った時」(38.9%)、「学生時代に過ごした場所を訪れた時（早稲田大学の各キャンパス周辺など）」(35.2%)、「在学中に出会った友人やサークル仲間と会合をもった時」(34.0%)、「早稲田大学の研究・教育活動が社会から評価されていると知った時」（研究：31.2%、教育：31.1%）、「国内外の大学ランキングでの早稲田大学の評価が上がった時」(29.1%)などであった。一方で「誇りに思う時はない」は5.9%であった。

「早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか」には10の選択肢があり、特に選択の割合が高かったのは、「校友会広報誌「早稲田学報」」(51.8%)、「メディア（テレ

び、新聞、ネット等)」(37.9%)、「家族、友人、職場の同僚等との日常的な会話」(28.8%)、「大学時代の友人や教職員との会合」(28.4%)、「早稲田大学や校友会からのメールマガジン」(26.1%)であった。一方で「触れる機会は特にない」は4.3%であった。

表 3-1 校友関係の質問項目の選択肢のまとめ

	全体	選択	%
早稲田大学の校友として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか			
早稲田大学に寄付をしている	965	66	6.8
早稲田大学校友会の活動に参加している	965	49	5.1
『早稲田学報』を読んでいる	965	468	48.5
早稲田大学の学部、大学院、エクステンションセンター等の社会人教育機関に通っている	965	8	0.8
キャンパス近隣に居住し、現在の在学生や教職員と多様な形で関わっている	965	10	1.0
仕事を通じて、現在の在学生や教職員と多様な形で関わっている	965	67	6.9
大学時代の友人と定期的に関わっている	965	454	47.1
普段、早稲田大学と関わることはない	965	100	10.4
その他（具体的に）	965	43	4.5
早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時はどのような時ですか			
早稲田大学の校友や在学生の活躍を知った時	965	471	48.8
早稲田スポーツの活躍を知った時	965	375	38.9
早稲田大学の教育活動が社会から評価されていると知った時	965	300	31.1
早稲田大学の研究活動が社会から評価されていると知った時	965	301	31.2
国内外の大学ランキングでの早稲田大学の評価が上がった時	965	281	29.1
早稲田大学での学習・研究が現在でも意義のあるものだと感じた時	965	237	24.6
早稲田大学での学習・研究以外の活動が現在でも意義のあるものだと感じた時	965	155	16.1
校友会など、同窓会活動の運営へ参加した時	965	47	4.9
在学中に出会った友人やサークル仲間と会合をもった時	965	328	34.0
在学中のゼミのOB/OG会に出席した時	965	96	10.0
学生時代に過ごした場所を訪れた時（早稲田大学の各キャンパス周辺など）	965	340	35.2
誇りに思う時はない	965	57	5.9
その他（具体的に）	965	28	2.9

早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか			
早稲田大学や校友会からのメールマガジン	965	252	26.1
早稲田大学や校友会 Web サイトからのお知らせ・情報提供	965	76	7.9
早稲田大学や校友会の SNS (Facebook、Twitter 等)	965	87	9.0
校友会広報誌「早稲田学報」	965	500	51.8
大学広報誌「西北の風」	965	21	2.2
メディア (テレビ、新聞、ネット等)	965	366	37.9
家族、友人、職場の同僚等との日常的な会話	965	278	28.8
大学時代の友人や教職員との会合	965	274	28.4
触れる機会は特にない	965	41	4.3
その他 (具体的に)	965	3	0.3

これら校友関係の3つの質問に関して、回答者が選択した数を合計し、それぞれ「早稲田大学関わり行動」、「早稲田大学誇り」、「早稲田大学情報収集」という変数を作成した。その際「特にない」のような質問は含めなかった。表3-2は、校友関係の質問を合計した3つの変数の記述統計である。相関係数( $r$ )を算出すると、「早稲田大学関わり行動」と「早稲田大学誇り」の相関は $r=.564$ 、「早稲田大学関わり行動」と「早稲田大学情報収集」との相関は $r=.648$ 、そして「早稲田大学誇り」と「早稲田大学情報収集」との相関は $r=.681$ であった。3変数共に正の相関があり、相関係数はある程度の大きさであるため、それぞれ校友に関する異なる変数として用いることにした。

表3-2 校友関係の質問項目を合計した変数の記述統計

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
早稲田大学関わり行動	965	0	6	1.21	1.06
早稲田大学誇り	965	0	12	3.07	2.86
早稲田大学情報収集	965	0	8	1.92	1.71

### 3-3. 校友関係の変数と在学・入学時の項目との関係

前節で作成した3つの校友関係の変数の個人差を説明・予測する、在学時や入学時の要因について調べていく。ここでは現在の校友関係の変数と時間的に前後関係のある、入学時・在学時に関する項目に注目する。重回帰分析を用いて、卒業生の校友関係の3つの変数と、早稲田の受験理由、在学時の経験や熱心な学修行動、早稲田大学で身につけたことなどの質問項目の点数との関連を調べた。分析に投入した変数は章末資料(資料3-1)に添付した。なお回答者数が極端に少ない質問項目や、目的変数との関連の解釈が難しい質問項目は本分析から省いた。

表3-3は「早稲田大学関わり行動」を目的変数とした、ステップワイズ法（変数増減法）による重回帰分析の結果である。ステップワイズ法とは、ルールに従って独立変数の選別をする方法であり、本分析で用いた IBM SPSS Statistics Ver.29 のステップワイズ法は、有意確率に基づいて目的変数を選別する。同表の「モデル」の列に掲載されている質問項目は、有意な説明変数として選択された変数であり、例えば「早稲田大学経験：よい教員に巡り合えた」は、本調査の「学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きします。以下のような経験はどのくらいありましたか。 - よい教員に巡り合えた。」という質問項目を意味している。

表内の「標準偏回帰係数 ( $\beta$ )」は、モデルに含まれる各（説明）変数が、「早稲田大学関わり行動」の個人差を説明・予測する程度の強さを示す標準化係数であり、有意確率は偏回帰係数の有意性の判定である。また「相関係数」は、「早稲田大学関わり行動」が、4つの（説明）変数のそれぞれと、どの程度強く関わっているかを示すゼロ次の相関係数である。いずれの係数も、値が正に大きい場合ほど、当該の変数の値が高くなるにつれて、「早稲田大学関わり行動」の程度も高くなる傾向を意味し、逆に負に大きい場合ほど、変数の値が高くなるにつれて、「早稲田大学関わり行動」の度合いは低くなる傾向を意味する。また0に近い場合には、その変数と「早稲田大学関わり行動」は無関係である傾向を意味する。表下段の  $\text{adj. } R^2$  は自由度調整済み決定係数であり、モデル内の4つの説明変数によって、目的変数における個人差（分散）が何%説明できるかを示す指標である。本分析における調整済み  $R^2$  値は.102であり、「早稲田大学関わり行動」は4つの（説明）変数によって、分散の約10%が説明されることを意味する。最下段の  $F$  値が有意であるため、このモデルの回帰式は統計的に意味があると判断できる。

同表の説明変数には、「早稲田大学経験：よい教員に巡り合えた」、「早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから」、「在学中熱心：部活サークル」、「早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる」の4つが含まれた。標準化係数 ( $\beta$ ) の大きさから、よい教員に巡り会えたこと ( $\beta = .189, r = .238$ ) が、現在早稲田大学と関わる行動を取るうえで、相対的に大きな影響を持っていることがわかる。早稲田大学の受験理由に関しては、伝統・校風が好きだということ ( $\beta = .133, r = .185$ ) が目的変数との相関が大きかった。他にも「将来の希望する職業分野を勉強できるから」も比較的相関 ( $r = .107$ ) が大きく、変数減少法で重回帰分析を実施した場合、BIC 基準ではモデルに含まれていた。早稲田大学で身につけたことに関しては、目的変数との相関が最も大きいのが「相手の状況や考え方を尊重できる」であったが ( $\beta = .102, r = .201$ )、他にも「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」も相関 ( $r = .187$ ) が比較的高かった。

表 3-3 「早稲田大学関わり行動」を目的変数とした重回帰分析（説明変数：在学・入学時）

モデル	標準偏回帰係数 ( $\beta$ )	有意確率	相関係数 ( $r$ )
早稲田大学経験：よい教員に巡り合えた	.189	***	.238
早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから	.133	***	.185
在学中熱心：部活サークル	.123	**	.162
早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる	.095	*	.201
adj. $R^2$	.102		
$F$ 値	16.656	***	

$N = 554$

目的変数：早稲田大学関わり行動

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

次に表 3-4 は、「早稲田大学誇り」を目的変数とした、ステップワイズ法による重回帰分析の結果である。調整済み  $R^2$  値は.145 であり、「早稲田大学誇り」は 3 つの（説明）変数によって、分散の約 15% が説明されることを意味する。説明変数には、「早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから」、「早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる」、「早稲田大学身につけた：既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」の 3 つが含まれた。

標準化係数 ( $\beta$ ) の大きさから、早稲田大学の受験理由が、伝統・校風が好きだからということ ( $\beta = .283$ ,  $r = .335$ ) が、現在早稲田大学を誇りと感じるうえで、相対的に大きな影響を持っていることがわかる。モデルに含まれない説明変数の相関係数と見比べた場合も、伝統・校風が好きだという理由が突出して高かった。ちなみに次に相関係数が大きい理由は「将来の希望する職業分野を勉強できるから」( $r = .137$ ) であり、変数減少法で実施した場合の AIC 基準では、モデルに含まれていた。早稲田大学で身につけたことに関しては、「相手の状況や考え方を尊重できる」( $\beta = .119$ ,  $r = .230$ ) と、「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」( $\beta = .117$ ,  $r = .232$ ) が同程度の影響の大きさであった。相関係数だけをみると、他にも「多様性を受け入れられる」( $r = .220$ ) や、「異文化を理解できる」( $r = .206$ ) も大きかった。特に「異文化を理解できる」は、AIC 基準ではこれを含めたモデルが、当てはまりがよかった。ちなみに AIC 基準に当てはまりのよいモデルでは、「早稲田大学経験：授業内容について、他の学生と議論した」( $r = .130$ ) も含まれていた。

表 3-4 「早稲田大学誇り」を目的変数とした重回帰分析（説明変数：在学・入学時）

モデル	標準偏回帰係数 ( $\beta$ )	有意確率	相関係数 ( $r$ )
早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから	.283	***	.335
早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる	.119	**	.230
早稲田大学身につけた：既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	.117	**	.232
adj. $R^2$	.145		
$F$ 値	32.157	***	

$N = 554$

目的変数：早稲田大学誇り

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

次に表 3-5 は、「早稲田大学情報収集」を目的変数とした、ステップワイズ法による重回帰分析の結果である。調整済み  $R^2$  値は.063 であり、「早稲田大学情報収集」は 5 つの（説明）変数によって、分散の約 6% が説明されることを意味する。説明変数には、「早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる」「早稲田大学受験理由：指導してほしい教員がその学部にあったから」「早稲田大学身につけた：物事を論理的に考えることができる」「早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから」「早稲田大学経験：授業内容について、他の学生と議論した」の 5 つが含まれた。

標準化係数 ( $\beta$ ) の大きさから、早稲田大学の受験理由が、指導してほしい教員がその学部にあったからということ ( $\beta = .099, r = .151$ ) が、現在早稲田大学の情報収集をするうえで、相対的に大きな影響を持っていることがわかる。また早稲田大学の受験理由が、伝統・校風が好きだからということ ( $\beta = .094, r = .149$ ) も、同等の影響を持つようである。モデルに含まれない説明変数の相関係数と見比べた場合も、この 2 つの理由が高く、3 番目は「勉強したい分野がその学部にあったから」( $r = .125$ ) であった。変数減少法で実施した場合の AIC 基準では、「学力（偏差値など）が適当であったから」( $r = -.063$ ) がモデルに含まれていた。早稲田大学で身につけたことに関しては、「相手の状況や考え方を尊重できる」( $\beta = .092, r = .169$ ) の影響が大きく、次いで「物事を論理的に考えることができる」( $\beta = .086, r = .167$ ) であった。相関係数だけをみると、他にも「新しいアイデアを生み出せる」( $r = .153$ ) や、「異文化を理解できる」( $r = .151$ ) も大きかった。早稲田大学での経験に関しては、「授業内容について、他の学生と議論した」( $\beta = .086, r = .147$ ) がモデルに含まれていた。相関係数だけみると、他にも「よい教員に巡り合えた」( $r = .157$ ) が高かった。

表 3-5 「早稲田大学情報収集」を目的変数とした重回帰分析（説明変数：在学・入学時）

モデル	標準偏回帰係数 ( $\beta$ )	有意確率	相関係数 ( $r$ )
早稲田大学受験理由：指導してほしい教員がその学部 いたから	.099	*	.151
早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから	.094	*	.149
早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重でき る	.092	*	.169
早稲田大学身につけた：物事を論理的に考えることがで きる	.086	†	.167
早稲田大学経験：授業内容について、他の学生と議論し た	.086	*	.147
adj. $R^2$	.063		
F 値	8.408	***	

$N = 554$

目的変数：早稲田大学情報収集

\*\*\*  $p < .001$ , \*  $p < .05$ , †  $p < .10$

### 3-4. 校友関係の変数と卒業後の項目との関係

次に3つの校友関係の変数の個人差を説明・予測する、卒業後の要因について調べていく。重回帰分析を用いて、卒業生の校友関係の3つの変数と、卒業後の仕事に関する項目、現在の学習行動に関する項目、現在の生活・仕事の満足度、早稲田大学での経験で仕事に役立ったことに関する項目などとの関連を調べた。なお目的変数である校友関係の変数と投入される説明変数は、いずれも卒業後に関する設問であり、前節の入学時・在学時の変数との関係のように、時間的に前後関係のある分析ではない。したがって、目的変数と説明変数の関係は、単なる相関関係である可能性がある点に、解釈上注意が必要である。分析に投入した変数は章末資料（資料3-2）に添付した。なお回答者数が極端に少ない質問項目や、目的変数との関連の解釈が難しい質問項目は本分析から省いた。

表3-6は、「早稲田大学関わり行動」を目的変数とした、ステップワイズ法による重回帰分析の結果である。調整済み  $R^2$  値は.070であり、3つの（説明）変数によって、分散の約7%が説明されることを意味する。説明変数には、「早稲田大学経験仕事役立ち：部活・サークル」「現在学習行動：講座・セミナー・勉強会」「早稲田大学経験仕事役立ち：ゼミ」の3つが含まれた。標準化係数 ( $\beta$ ) の大きさから、早稲田大学での部活・サークルの経験が仕事に役立ったと感じていること ( $\beta = .187, r = .222$ ) が、早稲田大学と関わる行動をするうえで、相対的に大きな影響を持っていることがわかる。またゼミの経験 ( $\beta = .104,$

$r=.174$ )も、影響が認められた。また相関係数だけを見ると、「一般教育科目」の経験 ( $r=.179$ )、「卒論」の経験 ( $r=.171$ )も同等の相関の大きさであった。また現在の学習活動として、「講座・セミナー・勉強会に参加」すること ( $\beta=.107, r=.153$ )も、影響を持つようである。また相関係数だけを見ると、現在の学習行動の「本を読む」( $r=.153$ )も同等の相関の大きさであった。また変数減少法による AIC 基準では、現在の学習活動として、「勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する」( $r=.138$ )、「学校に通う」( $r=.126$ )を含めたモデルが、当てはまりがよかった。またほぼ同程度の AIC 基準のモデルでは、「退職歴」( $r=.153$ )が含まれており、退職歴の有無との正の相関、つまり退職経験があることと、早稲田大学関わり行動との関連が示唆されていた。

表 3-6 「早稲田大学関わり行動」を目的変数とした重回帰分析（説明変数：卒業後）

モデル	標準偏回帰係数 ( $\beta$ )	有意確率	相関係数 ( $r$ )
早稲田大学経験仕事役立ち：部活・サークル	.187	***	.222
現在学習行動：講座・セミナー・勉強会	.107	*	.153
早稲田大学経験仕事役立ち：ゼミ	.104	*	.174
adj. $R^2$	.070		
$F$ 値	13.383	***	

$N = 492$

目的変数：早稲田大学関わり行動

\*\*\*  $p < .001$ , \*  $p < .05$

表 3-7 は、「早稲田大学誇り」を目的変数とした、ステップワイズ法による重回帰分析の結果である。調整済み  $R^2$  値は.074 であり、4つの（説明）変数によって、分散の約 7%が説明されることを意味する。説明変数には、「現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する」「早稲田大学経験仕事役立ち：部活・サークル」「早稲田大学経験仕事役立ち：一般教育科目」「生活満足度（仕事を除く）」の4つが含まれた。標準化係数 ( $\beta$ ) の大きさから、現在の学習行動として職場の教育・研修プログラムに参加すること ( $\beta=.128, r=.179$ ) が、早稲田大学に誇りを感じるうえで、相対的に大きな影響を持っていることがわかる。次に早稲田大学での部活・サークルの経験が仕事に役立ったと感じていること ( $\beta=.123, r=.188$ ) と、一般教育科目が仕事に役立ったと感じていること ( $\beta=.125, r=.187$ ) も、影響が認められた。また「生活満足度（仕事を除く）」( $\beta=.091, r=.140$ )も影響があり、例えば「仕事の満足度」との相関 ( $r=.85$ ) と比べても、「生活満足度（仕事を除く）」の影響があるようである。ちなみに変数減少法を用いた AIC・BIC・Mallows の  $C_p$  の基準では、「現在の職場の勤務年数」( $r=.075$ )を含めたモデルが最も当てはまりがよかった。

表 3-7 「早稲田大学誇り」を目的変数とした重回帰分析（説明変数：卒業後）

モデル	標準偏回帰係数 ( $\beta$ )	有意確率	相関係数 ( $r$ )
現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する	.128	**	.179
早稲田大学経験仕事役立ち：一般教育科目	.125	**	.187
早稲田大学経験仕事役立ち：部活・サークル	.123	**	.188
生活満足度（仕事を除く）	.091	*	.140
adj. $R^2$	.074		
$F$ 値	10.875	***	

$N = 492$

目的変数：早稲田大学誇り

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

表 3-8 は、「早稲田大学情報収集」を目的変数とした、ステップワイズ法による重回帰分析の結果である。調整済み  $R^2$  値は.052 であり、3つの（説明）変数によって、分散の約 5% が説明されることを意味する。説明変数には、「早稲田大学経験仕事役立ち：一般教育科目」「現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する」「生活満足度（仕事を除く）」の 3つが含まれた。標準化係数 ( $\beta$ ) の大きさから、一般教育科目が仕事に役立ったと感じていること ( $\beta = .143, r = .170$ ) が、早稲田大学に関する情報を収集するうえで、相対的に大きな影響を持っていることがわかる。次に現在の学習行動として職場の教育・研修プログラムに参加すること ( $\beta = .126, r = .163$ ) も、影響が認められた。また「生活満足度（仕事を除く）」 ( $\beta = .097, r = .134$ ) も影響があり、例えば「仕事の満足度」との相関 ( $r = .45$ ) と比べても、「生活満足度（仕事を除く）」の影響は大きいようである。ちなみに変数減少法を用いた BIC・Mallows の  $C_p$  の基準では、ステップワイズ法と同様のモデルが当てはまりがよかったが、AIC 基準では「現在学習行動：学校に通う」 ( $r = .102$ ) を含めたモデルの当てはまりがよかった。ただし早稲田大学の情報を集めることと、現在の学習行動として学校に通うこととの関連としては、情報収集をして早稲田大学に通っている (e.g. エクステンションセンターや大学院)、という影響が自然とも思われる。この点は卒業後のデータを一時点で取得する、横断的調査の限界である。

表 3-8 「早稲田大学情報収集」を目的変数とした重回帰分析（説明変数：卒業後）

モデル	標準偏回帰係数 ( $\beta$ )	有意確率	相関係数 ( $r$ )
早稲田大学経験仕事役立ち：一般教育科目	.143	**	.170
現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する	.126	**	.163
生活満足度（仕事を除く）	.097	*	.134
adj. $R^2$	.052		
$F$ 値	9.992	***	

$N = 492$

目的変数：早稲田大学情報収集

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

### 3-5. 校友関係の変数と在学・入学時及び卒業後の項目との関係

最後に第3節と第4節で用いた、入学時・在学時の変数と卒業後の変数を全て説明変数として投入し、校友関係の3つの変数の個人差を説明・予測する要因を調べるために、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。現在の校友関係の項目と、時間的に前後関係のある在学時の項目と、同時点である卒業後の項目を一律に扱うため解釈が難しくなるが、校友関係の項目に影響を及ぼす変数の全体を捉えるために実施する。また第3節・第4節と同じ変数同士の相関係数（ゼロ次）が異なるのは、回答の欠損値の関係でサンプル（数）が若干異なるためである。分析に投入した変数は章末資料（資料3-3）に添付した。なお回答者数が極端に少ない質問項目や、目的変数との関連の解釈が難しい質問項目は本分析から省いた。

表3-9は、「早稲田大学関わり行動」を目的変数とした、ステップワイズ法による重回帰分析の結果である。調整済み  $R^2$  値は.123であり、5つの（説明）変数によって、分散の約12%が説明されることを意味する。説明変数には、「早稲田大学経験：よい教員に巡り合えた」「早稲田大学経験仕事役立ち：部活・サークル」「早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから」「現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する」「早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる」の5つが含まれた。入学時期から順を追ってみると、まず早稲田大学の受験理由が伝統・校風が好きだったこと ( $\beta = .130, r = .195$ ) が、早稲田大学との関わりを持つ行動に影響があることがわかった。そして早稲田大学でよい教員に巡り会えた経験 ( $\beta = .178, r = .215$ ) や、相手の状況や考え方を尊重できることを身につけたこと ( $\beta = .099, r = .214$ ) も、早稲田大学と関わりを持つ行動への影響が認められた。さらに卒業後に早稲田大学での部活・サークルが仕事に役立ったと感じていること ( $\beta = .161, r = .206$ )、そして現在の学習行動として職場の教育・研修プログラムに参加すること ( $\beta = .095, r = .155$ ) も影響があるようである。また変数減少法を用いたAIC基準では、これらの他に「現在学習行動：本を読む」( $r = .172$ )、「現在の年収」( $r = .084$ )が

含まれたモデルが、当てはまりがよかった。

表 3-9 「早稲田大学関わり行動」を目的変数とした重回帰分析（説明変数：在学・入学時・卒業後）

モデル	標準偏回帰係数 ( $\beta$ )	有意確率	相関係数 ( $r$ )
早稲田大学経験：よい教員に巡り合えた	.178	***	.215
早稲田大学経験仕事役立ち：部活・サークル	.161	***	.206
早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから	.130	**	.195
早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる	.099	*	.214
現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する	.095	*	.155
adj. $R^2$	.123		
$F$ 値	13.865	***	

$N = 459$

目的変数：早稲田大学関わり行動

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

表 3-10 は、「早稲田大学誇り」を目的変数とした、ステップワイズ法による重回帰分析の結果である。調整済み  $R^2$  値は.172 であり、4つの（説明）変数によって、分散の約 17%が説明されることを意味する。説明変数には、「早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから」「早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる」「現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する」「早稲田大学身につけた：既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」の4つが含まれた。入学時期から順を追ってみると、まず早稲田大学の受験理由が伝統・校風が好きだったこと ( $\beta = .271, r = .344$ ) が、早稲田大学を誇りに感じることに影響があり、標準化係数 ( $\beta$ ) の大きさからも、特に影響があることがわかった。そして早稲田大学で相手の状況や考え方を尊重できることを身につけたこと ( $\beta = .130, r = .249$ ) や、既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せることを身につけたこと ( $\beta = .115, r = .239$ ) も、早稲田大学を誇りに感じることへの影響が認められた。さらに現在の学習行動として職場の教育・研修プログラムに参加すること ( $\beta = .129, r = .199$ ) も影響があるようである。また変数減少法を用いた AIC・BIC・Mallows の  $C_p$  の基準では、これらの他に「現在学習行動：講座・セミナー・勉強会」( $r = .055$ )、「現在の職場の勤務年数」( $r = .097$ )、「早稲田大学経験仕事役立ち：専門科目」( $r = .128$ ) が含まれたモデルが、当てはまりがよかった。

表 3-10 「早稲田大学誇り」を目的変数とした重回帰分析（説明変数：在学・入学時・卒業後）

モデル	標準偏回帰係数 ( $\beta$ )	有意確率	相関係数 ( $r$ )
早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから	.271	***	.344
早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる	.130	**	.249
現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する	.129	**	.199
早稲田大学身につけた：既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	.115	*	.239
adj. $R^2$	.172		
$F$ 値	24.744	***	

$N = 459$

目的変数：早稲田大学誇り

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

表 3-11 は、「早稲田大学情報収集」を目的変数とした、ステップワイズ法による重回帰分析の結果である。調整済み  $R^2$  値は.084 であり、5つの（説明）変数によって、分散の約 8% が説明されることを意味する。説明変数には、「早稲田大学身につけた：物事を論理的に考えることができる」「現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する」「早稲田大学受験理由：指導してほしい教員がその学部にいるから」「生活満足度（仕事を除く）」「早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから」の 5つが含まれた。入学時期から順を追ってみると、まず早稲田大学の受験理由が、指導してほしい教員がその学部にいること ( $\beta = .116, r = .147$ )、そして伝統・校風が好きだからということ ( $\beta = .107, r = .170$ ) が、早稲田大学の情報収集をすることに影響があるようである。そして早稲田大学で物事を論理的に考えることができることを身につけたこと ( $\beta = .132, r = .175$ ) も、早稲田大学を誇りに感じることへの影響が認められた。さらに現在の学習行動として職場の教育・研修プログラムに参加すること ( $\beta = .118, r = .167$ ) や、現在の仕事以外の生活満足度 ( $\beta = .112, r = .139$ ) も、影響があるようである。

また変数減少法を用いた BIC 基準では、これらの他に「早稲田大学受験理由：学力（偏差値など）が適当であったから」( $r = -.022$ )、「早稲田大学経験：授業内容について、他の学生と議論した」( $r = .161$ )、「早稲田大学経験：特別な理由なく授業を欠席した」( $r = .052$ )、「早稲田大学身につけた：相手の状況や考え方を尊重できる」( $r = .175$ )、「早稲田大学身につけた：物事を多面的に考えることができる」( $r = .108$ )、「在学中熱心：一般教育」( $r = .116$ ) が含まれたモデルが、当てはまりがよかった。

表 3-11 「早稲田大学情報収集」を目的変数とした重回帰分析（説明変数：在学・入学時・卒業後）

モデル	標準偏回帰係数 ( $\beta$ )	有意確率	相関係数 ( $r$ )
早稲田大学身につけた：物事を論理的に考えることができる	.132	**	.175
現在学習行動：職場の教育・研修プログラムに参加する	.118	**	.167
早稲田大学受験理由：指導してほしい教員がその学部からいたから	.116	***	.147
生活満足度（仕事を除く）	.112	**	.139
早稲田大学受験理由：伝統・校風が好きだから	.107	*	.170
adj. $R^2$	.084		
$F$ 値	9.387	***	

$N = 459$

目的変数：早稲田大学情報収集

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

### 3-6. まとめ

本章では早稲田大学の校友関係の質問項目に関して、入学・在学時及び卒業後に関する質問項目との関係を分析した。まず第2節で、本調査で設定した校友関係の質問項目を合計し、「早稲田大学関わり行動」「早稲田大学誇り」「早稲田大学情報収集」の3つの変数にまとめた。第3節ではこれら3つの校友関係の変数と、入学・在学時に関する質問項目との関係を、また第4節では卒業後に関する質問項目との関係を、そして第5節ではそれら入学・在学時及び卒業後に関する全ての変数との関係を、ステップワイズ法による重回帰分析を用いて分析した。本章の分析で用いた IBM SPSS Statistics Ver.29 では、ステップワイズ法は説明変数の回帰係数の有意差の検定に基づいている。本章ではステップワイズ法を用いつつ、変数減少法による AIC・BIC・Mallows の Cp を確認しながら、検討の余地のある説明変数について適宜言及した。

全体的に、早稲田大学の受験理由として「伝統・校風が好きだから」ということが、卒業後の校友関係の変数への影響が大きく、特に早稲田大学を誇りに感じることにに関して、標準化係数 ( $\beta$ ) が大きかった。また早稲田大学で「相手の状況や考え方を尊重できる」ことを身につけたことも、校友関係の変数に全体的に影響が認められた。また現在の学習行動として、「職場の教育・研修プログラムに参加する」ということも、校友関係の変数全体と関連していたが、現在の学習行動であるため、現在の校友関係の変数との間には相関関係があるという解釈にとどめた方が良さだろう。

3つの校友関係の変数に関して、「早稲田大学関わり行動」は、早稲田大学で「よい教員に巡り合えた」

という経験をしていることが、影響が大きいようであった。また「早稲田大学誇り」に関しては、早稲田大学の受験理由が「伝統・校風が好きだから」ということが、影響が大きかった。「早稲田大学情報収集」に関しては、若干モデルが一貫しなかったが、早稲田大学で「物事を論理的に考えることができる」ことを身につけたことや、一般教育科目が仕事に役立ったことが、影響が大きかったといえる。

本章の分析により、校友関係の行動などに積極的な卒業生像として、早稲田大学の伝統・好風が好きで受験し、大学でよい教員に巡り合うことができ、論理的思考や他者への配慮を身につけ、大学で学んだことが現在の仕事に役立ったという実感を持ち、現在も自分自身の学びに興味のある卒業生、という姿が見えてきたといえる。

### 3-7. 資料

第3節の分析では、入学・在学時に関する質問項目（資料3-1）を投入し、第4節の分析では、卒業後に関する質問項目（資料3-2）を投入し、第5節の分析では、入学・在学時及び卒業後の質問項目（資料3-3）を投入した。資料には記述統計も付記した。資料3-1及び資料3-2に対し資料3-3の統計量が異なるのは、回答の欠損値の関係でサンプル（数）が異なるためである。また回答者数が極端に少ない質問項目や、目的変数との関連の解釈が難しい質問項目は、本章の分析から省いている。

資料3-1 第3節で用いた目的変数（校友関係3変数）と説明変数（入学・在学時に関する質問項目）の記述統計

質問項目・変数	平均値	標準偏差	度数
早稲田関わり行動	1.51	1.03	554
早稲田誇り	3.84	2.79	554
早稲田情報収集	2.38	1.66	554
本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。			
勉強したい分野がその学部にあったから	3.37	0.77	554
就職に有利であると思ったから	2.89	1.00	554
将来の希望する職業分野を勉強できるから	2.77	0.99	554
資格の取得が有利であるから	1.96	0.95	554
指導してほしい教員がその学部 にいたから	1.72	0.86	554
学力（偏差値など）が適当であったから	3.14	0.86	554
進路選択の幅が広い学部を選択した	2.92	1.06	554
高校の先生や家族または塾などで勧められたから	2.31	1.11	554
伝統・校風が好きだから	2.89	1.05	554
学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きします。以下のような経験はどのくらいありました			

か。

読書（漫画や雑誌を除く）をした	3.27	0.86	554
自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	2.93	0.97	554
授業内容について、他の学生と議論した	2.78	0.94	554
授業内容について、教員と議論した	2.41	1.04	554
特別な理由なく授業を欠席した	2.50	1.09	554
よい教員に巡り合えた	3.16	0.86	554
早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。			
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	2.86	0.82	554
物事を論理的に考えることができる	3.10	0.75	554
課題の解決方法を提案できる	2.97	0.75	554
自分の考えを分かりやすく表現できる	2.94	0.75	554
相手の状況や考え方を尊重できる	3.18	0.76	554
物事を多面的に考えることができる	3.26	0.73	554
健全に批判することができる	2.94	0.81	554
多様性を受け入れられる	3.34	0.74	554
異文化を理解できる	3.13	0.86	554
外国語を理解し、話せる	2.30	0.95	554
第一志望（大学）ダミー	0.69	0.46	554
熱心専門	2.97	0.87	554
熱心一般教育	2.64	0.87	554
熱心ゼミ	3.05	0.90	554
熱心卒論	2.97	0.94	554
熱心部活サークル	3.10	1.05	554

資料3-2 第4節で用いた目的変数（校友関係3変数）と説明変数（卒業後に関する質問項目）の記述統計

質問項目・変数	平均値	標準偏差	度数
早稲田関わり行動	2.47	1.63	492
早稲田誇り	4.01	2.79	492
早稲田情報収集	2.47	1.63	492
学部・大学院等の卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。	6.16	3.17	492
現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該	3.41	0.91	492

当するものを一つだけお選びください。

現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。

勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する	2.82	0.97	492
単発の講座、セミナー、勉強会に参加する	2.46	1.04	492
学校に通う	1.49	0.87	492
本を読む	3.15	0.88	492
あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。人数をご記入ください。	11.04	135.17	492
あなたの現在の仕事の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。	7.04	2.09	492
あなたの生活(仕事を除く)の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。	7.76	1.83	492
最初の職場年数	6.01	3.17	492
現在の職場年数	5.87	3.27	492
現在年収	33.51	159.24	492
退職歴ダミー	0.49	0.50	492
早大経験仕事役立ち：専門科目	2.68	1.00	492
早大経験仕事役立ち：一般教育科目	2.48	0.90	492
早大経験仕事役立ち：ゼミ	2.61	1.02	492
早大経験仕事役立ち：卒論	2.46	0.99	492
早大経験仕事役立ち：部活サークル	2.62	1.00	492

資料3-3 第5節で用いた目的変数（校友関係3変数）と説明変数（入学・在学時と卒業後に関する質問項目）の記述統計

質問項目・変数	平均値	標準偏差	度数
早稲田関わり行動	1.58	1.01	459
早稲田誇り	4.04	2.78	459
早稲田情報収集	2.48	1.64	459
本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。			
勉強したい分野がその学部にあったから	3.40	0.76	459
就職に有利であると思ったから	2.90	0.98	459
将来の希望する職業分野を勉強できるから	2.80	0.97	459
資格の取得が有利であるから	1.97	0.96	459

指導してほしい教員がその学部にいるから	1.72	0.86	459
学力（偏差値など）が適当であったから	3.18	0.83	459
進路選択の幅が広い学部を選択した	2.92	1.04	459
高校の先生や家族または塾などで勧められたから	2.30	1.10	459
伝統・校風が好きだから	2.89	1.03	459
学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きします。以下のような経験はどのくらいありましたか。			
読書（漫画や雑誌を除く）をした	3.29	0.83	459
自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	2.97	0.95	459
授業内容について、他の学生と議論した	2.80	0.94	459
授業内容について、教員と議論した	2.40	1.03	459
特別な理由なく授業を欠席した	2.49	1.09	459
よい教員に巡り合えた	3.17	0.83	459
早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。			
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	2.88	0.80	459
物事を論理的に考えることができる	3.14	0.74	459
課題の解決方法を提案できる	2.98	0.73	459
自分の考えを分かりやすく表現できる	2.97	0.74	459
相手の状況や考え方を尊重できる	3.19	0.74	459
物事を多面的に考えることができる	3.28	0.73	459
健全に批判することができる	2.98	0.77	459
多様性を受け入れられる	3.35	0.72	459
異文化を理解できる	3.14	0.84	459
外国語を理解し、話せる	2.32	0.93	459
第一志望（大学）ダミー	0.68	0.47	459
熱心専門	3.00	0.87	459
熱心一般教育	2.67	0.85	459
熱心ゼミ	3.08	0.89	459
熱心卒論	3.00	0.93	459
熱心部活サークル	3.15	1.02	459
学部・大学院等の卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。	6.12	3.19	459

現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。	3.42	0.90	459
現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください			
勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する	2.84	0.97	459
単発の講座、セミナー、勉強会に参加する	2.49	1.03	459
学校に通う	1.49	0.87	459
本を読む	3.16	0.86	459
あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。人数をご記入ください。	11.54	139.94	459
あなたの現在の仕事の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。	7.08	2.05	459
あなたの生活(仕事を除く)の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。	7.80	1.77	459
最初の職場年数	5.99	3.19	459
現在の職場年数	5.89	3.27	459
現在年収	35.36	164.72	459
退職歴	0.49	0.50	459
早大経験仕事役立ち：専門科目	2.70	0.98	459
早大経験仕事役立ち：一般教育科目	2.52	0.88	459
早大経験仕事役立ち：ゼミ	2.64	1.01	459
早大経験仕事役立ち：卒論	2.49	0.98	459
早大経験仕事役立ち：部活サークル	2.64	0.99	459

## 第4章 在学時の経験の卒業後に生きた経験の分析

### 4-1. 本章の目的

本章では、自由回答記述の分析を通して、大学在学時のいかなる学びから得た知識やスキル・経験が卒業後に生かされているのかについて検討する。

本調査では、【Q6.1「あなたが本学での学びから得た知識やスキル・経験は、卒業後どのような形で生かされていますか。仕事、私生活、いずれでも結構ですので具体的に教えてください。」】という自由回答記述の質問項目を設定している。そこで、まずこの自由回答記述のテキスト分析を行い、特徴を明らかにする(4-2)。ついで回答者の属性ごと(4-3)、および他の変数の関係性を検討し(4-4)、在学時・卒業時にどのような経験をしている/した人が、「卒業後生きたこと」にどのような語彙を用いて記述しているかを明らかにする。これらを通して、大学在学時の経験がいかなる形で卒業後に生かされているかを、在学時の経験といった変数と絡めてテキストデータから多面的に検討することが本章の目的である。

検討にあたっては、計量テキスト分析の手法を活用し、分析ツールとして KH Coder を利用する。計量テキスト分析は「質的データ(文字データ)をコーディングによって数値化し、計量的分析手法を適用して、データを整理、分析、理解する」<sup>5</sup>ための手法であり、それを通してテキストデータに潜む論理を探ることができる。そして KH Coder はその計量テキスト分析を行うツールとして開発されたものであり、分析者の設定したコーディングルールによって分類を行う分析と、多変量解析を用いて客観的に分類する分析の二つを一つのツールで行うことができるように設計されている<sup>6</sup>。本章は、「卒業後に生かされていると記述されている内容がいかなる形で構成され、いかなる論理がそこに通底しているのか」、「それは在学時の経験によって影響を受けているのか」という分析視角の異なる問いを重ねて検討しようとする試みのものであり、上記の分析手法およびツールの活用が最も適切と判断した。以下、主に「抽出語リスト」による頻出語彙の把握や、語と語の結びつきを探る「共起ネットワーク」、在学時の経験といった外部変数との関係性の分析を通して、上記の質問項目に対する回答の傾向や分類を行っていく。

なお、該当項目である Q6.1 の自由回答記述に該当する文章数は 675 であり、分析に当たって十分な分量だと判断した。

### 4-2. 自由回答記述のテキスト分析

まず、多変量解析によってデータを要約し全体の傾向を把握するために、Q6.1 の回答の抽出語リストの作成を行った。その結果を表 4-1 に示す。なお、動詞の「思う」はすべての要素に共通する語彙であると判断し、「思う」「おもう」は抽出から除外している。

傾向としては、まず「仕事」の抽出率が最も高く、卒業後生かされたことを記述する上で仕事に関する

---

<sup>5</sup> 樋口耕一、2020、『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して 第2版』ナカニシヤ出版、p.13.

<sup>6</sup> 同上、pp.17-19.

言及がかなり多いことがうかがえる。例えば、「ゼミ活動で学んだフレームワークなどのハードスキルと考え方などのソフトスキルが、直接仕事上のプレゼンテーションや課題解決、提案に役に立っている。」といったような回答が見られた。このように、「仕事」という項目は、主に「何に役に立っているか」という対象に関する言及と考えられる。

一方、その後続く項目は、「何が役に立っているか」という在学時の経験に関する項目が現れる。特に多くみられた語彙として、まず「学ぶ」「知識」といった大学での学修に関する語彙が抽出された。「専門分野に近い分野の業務のため、大学で学んだ知識が生きている」「数学と物理学の知識、卒業論文の経験が現在のデータサイエンティストとしての仕事に生かされている」といったように、大学での学修が現在就いている仕事に役に立っているという回答の傾向があるようである。

一方で、これらとは傾向の異なる項目として「多様」のような語彙も抽出された。例えば「大学は出身地、国籍、様々な考え方の方が集まっていたので、多様性の中でバランスを見つける術を身につけることができた」「多様な学生と触れ合ったことで、様々な考えを多面的に受け止められるようになった。視野が広がった」のように、在学時における他者との関係性に関する記述が多くみられる。総じて、「多様性」「多様な価値観」といった、大学や学生の多様性に関する言及が多いようである。

表 4-1 06.1 の抽出語リスト（上位 15 位）

抽出語	出現回数
仕事	164
役立つ	92
学ぶ	81
知識	70
多様	63
人	62
大学	57
役に立つ	49
経験	43
活動	40
論理	39
思考	38
生かす	38
スキル	35
私生活	35

次に、それぞれの抽出語の関係性を探るため、「共起ネットワーク」によって抽出語ごとのつながりを確認した（図4-1）。

図4-1をみると、「仕事」に対しては5番目のグループで示されるように、在学時の「知識」や「学び」が特に強く関連していることがわかる。共起している記述の具体的な内容として、例えば「大学では主に社会科学の勉強をした。社会人になり、仕事に必要な知識を習得するにあたり、基礎として生きている」「学習習慣として生かされています。仕事面ですが自身の専門分野に限らず学習した内容をアウトプットする能力は大学の経験で身につきました」などがそれに当てはまる。

一方で、「多様」というキーワードは1番目のグループに集まっており、「理解」「コミュニケーション」「友人」のように、他者との関わりに関する語彙との関係性が見られる。共起している記述として、「多様な国籍からなる組織をまとめるにおいて、多様性への理解やコミュニケーション・組織論的要素、文化的摩擦への理解は入門のとっかかりとして役立つ」「在学中に、日本中から集まった多様な人達と出会って話をした経験は、卒業後も自身のベースとなっており、自分との考え方の違いを自然体で受け入れ、健全な議論、話し合い、歩み寄りや説得といった形で活かされていると思う」などがそれに当てはまる。

そのほか特徴的な語彙が見られるものとして、4番目のグループには思考力に関する語彙も相対的には小さいながらもまとまって記述されているようである。また3番目のグループでは「サークル」や「研究」といった語彙が見られ、大学内外での活動がよく記述において言及されていることを示しているといえるだろう。

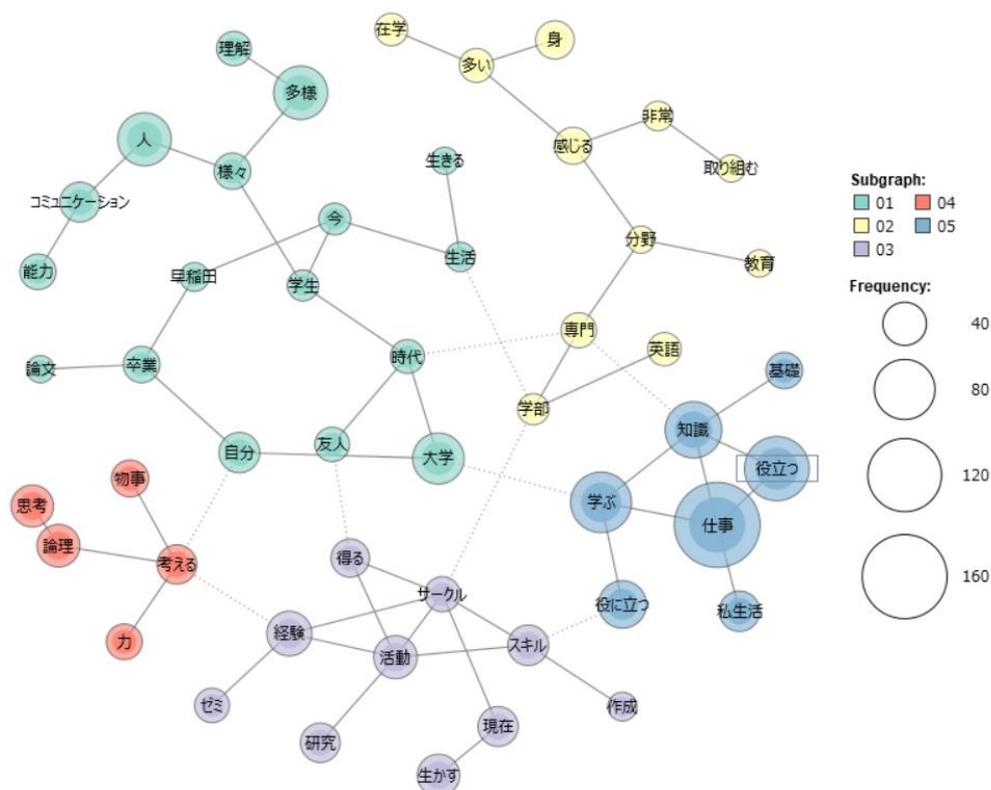


図4-1 Q6.1の抽出語の共起ネットワーク

このように、おおよそ上位 10 位に現れるようなキーワードを整理してみると、大きく二つの傾向が見取れることがわかる。第一に、在学時の経験が卒業後「何に」生かされているかという点については、相対的に「仕事に対して生かされている」という回答が傾向として多い。第二に、在学時の「何の」経験が卒業後生かされているかという点については、大まかに分けると(1)在学時の学修に関すること(知識/学ぶ/思考 etc.)と、(2)在学時の他者との関係性に関わること(多様/理解/コミュニケーション etc.)の二つが傾向として上位に現れる。

実際に、上記の語彙についていくつかを取り上げ、コロケーション(前後の語の連結)をみるとそれぞれの特徴が明瞭になる。表 4-2 は「仕事」に関するコロケーションであるが、「役立つ」「生かす」「学ぶ」といった現在の仕事への実践的な寄与について言及しているものが多くみられる。そのほか、「経験」「思考」「スキル」「論理」「知識」「能力」といった、仕事に生かされている内容についての言及も見られる。次に「知識」のコロケーションをみると(表 4-3)、「基礎」「専門」といった大学時代の学修に関する語彙が関係している。一方、「多様」のコロケーション(表 4-4)には、「価値」や「人」といった対人的な関わりについての語句に近い形で用いられている。「認める」「受け入れる」「学ぶ」といった動詞があることから、多様さを積極的に受容することについての言及が多くみられることがわかる。

表 4-2 語彙「仕事」のコロケーション

	抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左5	左4	左3	左2	左1	右1	右2	右3	右4	右5	スコア
1	私生活	名詞	18	1	17	0	0	0	1	0	0	12	4	1	0	8.083
2	役立つ	動詞	21	1	20	0	1	0	0	0	0	5	6	3	6	6.7
3	進める	動詞	9	0	9	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	4.5
4	経験	サ変名詞	11	10	1	2	1	6	1	0	0	0	0	0	1	3.35
5	生かす	動詞	7	0	7	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	3.333
6	学ぶ	動詞	12	11	1	4	4	2	1	0	0	0	0	1	0	3.217
7	思考	サ変名詞	9	7	2	1	0	4	2	0	0	0	0	1	1	2.983
8	活かす	動詞	7	0	7	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	2.783
9	現在	副詞可能	5	5	0	0	1	0	3	1	0	0	0	0	0	2.75
10	内容	名詞	3	1	2	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	2.5

表 4-3 語彙「知識」のコロケーション

	抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左5	左4	左3	左2	左1	右1	右2	右3	右4	右5	スコア
1	基礎	名詞	10	9	1	1	0	0	0	8	0	0	0	0	1	8.4
2	学ぶ	動詞	17	14	3	2	1	1	10	0	0	2	1	0	0	7.317
3	専門	名詞	8	7	1	0	0	2	1	4	0	0	1	0	0	5.5
4	役立つ	動詞	8	0	8	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	3.75
5	必要	形容動詞	6	4	2	0	0	1	3	0	0	2	0	0	0	2.833
6	金融	名詞	3	2	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	2.5
7	得る	動詞	5	5	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	2.333
8	仕事	サ変名詞	7	2	5	0	2	0	0	0	0	2	0	3	0	2.25
9	会計	サ変名詞	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
10	幅広い	形容詞	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2

表 4-4 語彙「多様」のコロケーション

	抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左5	左4	左3	左2	左1	右1	右2	右3	右4	右5	スコア
1	価値	名詞	5	0	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	2.5
2	理解	サ変名詞	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	2.167
3	多種	名詞	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
4	人	名詞C	4	1	3	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	1.7
5	認める	動詞	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1.6
6	学生	名詞	4	1	3	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1.45
7	含める	動詞	2	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1.333
8	受け入れる	動詞	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1.333
9	学ぶ	動詞	5	1	4	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	1.317
10	人々	名詞	3	1	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1.2

このように、「仕事」「知識」は、大学時に学修した基礎的・専門的知識や、その学修の中で身についたスキル・能力に関係しており、「多様」は主に大学在学時の人間関係や他者との関わり、その中での他者との相互理解に関係しているようである。

#### 4-3. 回答者の属性との関係性

本節では、回答者の属性ごとに自由回答記述の分析を行い、どのような回答者が回答を行い、どのような語彙が抽出されるのかを確認していく。ここでは以下の3つの属性をもとに自由回答記述との関係性を検討する。

第一に、入学した入試の形態である。入学試験には大学卒業後の将来構想をふまえた試験形態（総合型選抜など）もあり、それによって回答の傾向が異なるのかを検証する。第二に、大学および学部の志望度である。大学や学部が第一志望だったか否かは、在学中の取り組みへの影響から間接的に影響を与えている可能性がある。この点も基礎情報として確認しておく。最後に、入学後所属した学部である。学部は在学中に学ぶ専門性や領域に大きな違いが現れる。これによって卒業後に生きたことを聞く Q6.1 の問いに対する自由回答記述が異なるのかという点を検証する。

まず、入学した入試の形態ごとの差異について検討する。表 4-5 は入試形態ごとの抽出語上位 10 位であるが、結果は全体として「仕事」が上位に入り、また「知識」「思考」といった語彙が入るという点で、項目間でもさほど大きな差異はみられない。ただし、2点特徴的な点がある。まず「自己推薦・AO入試等」が他の項目と大きな差異が見られる。特に「海外」や「英語」などの語彙がみられることから、AO入試等を積極的に行っている国際教養学部の影響が大きい可能性が考えられる。また、「附属・系属校からの推薦」を除き、「一般入試」「指定校推薦」では「多様」が上位に抽出されている点も特徴的である。

次に、大学・学部志望度ごとの差異について検討する。表 4-6 および表 4-7 に結果を提示した。特徴的な点が二点挙げられる。まず、大学志望度をみると、「第一志望であった」と回答した層では、これまでほとんど上位に抽出されていた「仕事」が上位 10 位に抽出されず、一方で「多様」や「学び」「コミュニケーション」などの項目が抽出されている傾向にある。逆に「第一志望でなかった」と回答した層は

「仕事」が上位に抽出され、「知識」「学ぶ」などが上位に抽出された。また、学部志望度でも同様に、「第一志望であった」と回答した層は「多様」が上位に抽出されている一方、「第一志望でなかった」と回答した層はそれが抽出されなかった。

最後に、所属した学部ごとの差異について検討する。表4-8は、学部ごとの自由回答記述の抽出語上位10位である。全体の傾向をみると、理工系の学部は「研究」が第一位に来ており、「論理」「思考」「実験」「専門」のようなワードが共通して抽出される傾向が見られる。一方で文学部では「文章」、政治経済学部では「社会」「経済」、教育学部では「教職」、人間科学部では「福祉」など、各学部の特色が一定程度抽出語に反映されている。一方、全体から抽出された「(1)在学時の学修に関すること(知識/学ぶ/思考 etc.)」については、文学部(「学ぶ」が上位1位)、先進理工学部(「知識」が上位3位)、創造理工学部(「思考」が上位2位)、教育学部(「知識」が上位2位)、法学部(「知識」が上位3位)などが関連語彙としてみられた。「(2)在学時の他者との関係性に関わること(多様/理解/コミュニケーション etc.)」については、商学部(「多様」が上位1位)、政治経済学部(「多様」が上位1位、「人」が上位2位、「理解」が上位5位)などが関連語彙としてみられた。もっとも、各学部に分割すると母数自体さほど大きくないため、上位に抽出されている語彙が各学部の要望を代表しているかについては慎重になる必要がある。

表4-5 入試形態ごと抽出語リスト(上位10位)

一般入試		指定校推薦		自己推薦・AO入試等		附属・系属校からの推薦		その他	
仕事	.152	仕事	.097	海外	.055	現在	.087	役に立つ	.100
役立つ	.087	役立つ	.074	教員	.055	仕事	.083	学部	.057
学ぶ	.082	多様	.067	英語	.048	役立つ	.068	仕事	.057
知識	.066	思考	.064	役立つ	.047	大学	.064	スキル	.051
多様	.060	論理	.063	力	.046	知識	.058	知識	.046
大学	.056	学ぶ	.058	大学	.044	研究	.055	非常	.044
人	.054	コミュニケー	.058	社会	.044	今	.051	専門	.040
役に立つ	.052	ゼミ	.047	様々	.044	学部	.050	ゼミ	.040
生かす	.049	感じる	.047	and	.042	基礎	.048	役立つ	.037
経験	.047	活動	.044	全て	.041	考え方	.048	入学	.036

表4-6 大学志望度ごと抽出語リスト(上位10位)

第一志望であった		第一志望でなかった	
役立つ	.098	仕事	.166
学ぶ	.078	知識	.085
多様	.074	役立つ	.078
人	.051	学ぶ	.072
論理	.048	役に立つ	.067
私生活	.045	大学	.066
コミュニケーション	.041	研究	.059
経験	.041	生かす	.050
自分	.038	スキル	.048
思考	.038	人	.045

表 4-7 学部志望ごと抽出語リスト (上位 10 位)

第一志望であった		第一志望でなかった	
仕事	.147	仕事	.151
役立つ	.095	役立つ	.088
学ぶ	.080	学ぶ	.068
多様	.076	経験	.060
知識	.072	役に立つ	.059
大学	.059	人	.056
論理	.047	自分	.050
人	.047	活動	.050
役に立つ	.047	サークル	.048
思考	.044	大学	.048

表 4-8 学部ごと抽出語リスト (上位 10 位)

スポーツ科学部	人間科学部(通信)	人間科学部(通学)	商学部	国際教養学部
取り組む .054	職場 .069	福祉 .058	多様 .085	留学 .125
多様 .050	教育 .061	仕事 .058	学ぶ .078	英語 .109
時代 .044	力 .048	知識 .057	仕事 .070	海外 .102
能力 .041	ゴール .046	身 .052	考え方 .062	語学 .096
Excel .040	セカンド .046	経験 .047	就職 .050	国際 .087
PC .040	見越す .046	関係 .042	役に立つ .045	外国 .080
この先 .040	数値 .046	基礎 .041	ゼミ .044	生活 .071
イメージ .040	殆ど .046	サークル .041	会計 .042	and .070
ステータス .040	勉強 .044	スキル .040	簿記 .042	学部 .068
スムーズ .040	パソコン .044	現在 .040	活動 .040	理解 .067
文化構想学部	文学部	基幹理工学部	先進理工学部	創造理工学部
仕事 .112	学ぶ .069	分野 .057	研究 .117	研究 .095
生かす .087	文章 .064	役立つ .057	発表 .068	思考 .073
学ぶ .068	自分 .062	教育 .056	知識 .064	業務 .070
大学 .063	役立つ .061	業務 .048	仕事 .062	論理 .054
私生活 .052	人 .056	専門 .046	作成 .059	友人 .052
多様 .050	大学 .053	基礎 .046	資料 .049	実験 .049
知識 .050	仕事 .052	近い .046	役立つ .044	進め方 .049
物事 .045	経験 .048	進路 .046	学部 .041	活かす .048
自分 .044	持つ .044	入社 .046	専門 .039	開発 .048
情報 .043	様々 .044	力学 .046	基礎 .039	現在 .047
政治経済学部	教育学部	法学部	社会科学部	
多様 .067	仕事 .088	法律 .128	在学 .056	
人 .051	知識 .070	仕事 .082	考え方 .053	
ゼミ .050	役立つ .066	知識 .073	社会 .053	
役に立つ .043	専門 .056	思考 .061	卒業 .052	
理解 .043	大学 .054	論理 .059	大学 .051	
社会 .042	生かす .050	学ぶ .054	講義 .048	
経済 .039	人 .048	役立つ .049	早稲田大学 .048	
活動 .039	学ぶ .047	役に立つ .048	姿勢 .046	
経験 .037	研究 .046	得る .046	役に立つ .042	
論理 .037	教職 .046	物事 .046	友人 .041	

#### 4-4. 他の変数との関係性

本節では、上記の特徴をふまえて、それが他の変数との関係性においてどのように表出するのかを検討することで、どのような人が上記のような回答をしているのかを浮き彫りにする。ここでは、回答者の特徴ごとの抽出語の関係性を探るため、「在学中」「卒業後」それぞれにおける2つの観点から他の変数

との関係性を検討する。

第一の変数として、回答者の在学時の取り組みについて、「在学時に熱心に取り組んだこと」についての回答ごとの特徴語を検討する。スループットとして在学中に何に熱心に取り組んでいたのかという点が、卒業後への寄与にどのような影響を与えたのかを明らかにするためである。第二の変数として「仕事・生活の満足度」の回答結果に焦点を当て、特徴語を抽出する。こちらは第一の変数とは異なり、在学中の経験がどのように卒業後の仕事や生活に寄与しているのかというアウトプットを検討するためである。これらの回答ごとの特徴語の差異を検討することで、在学時・卒業時にどのような経験をした/している人が、「卒業後生きたこと」に上記のような語彙を用いているのかの一端を明らかにすることを試みる。

まず、「在学時に熱心に取り組んだこと」への回答ごとの自由回答記述の特徴語を検討した（表4-9～表4-13）。なお、回答は1が「経験なし」であり、「2：不熱心～5：熱心」となっている。全体的に、「熱心に取り組んだ」と回答する人は「仕事」が最も上位に来ている。続いて、特に「専門科目」「一般教育科目」「ゼミ」などにおいては「知識」が上位に抽出されるようである。一方で、「部活動・サークル活動」は多少傾向が異なり、熱心に取り組んだ人の回答に「多様」が上位に抽出されている。

次に、卒業後のアウトプットの指標としての「仕事・生活の満足度」ごとの特徴語を検討した（表4-14～表4-15）。満足度はそれぞれ10点満点で点数をつける回答方式であり、得点ごとに特徴語を抽出した。結果としては、仕事・生活の双方で満足度10点をつけている人の特徴語に「多様」が現れるという結果になった。10点未満で高い点数に相対的に頻出するのは「仕事」であり、続いて「知識」が共通してみられる特徴的な語彙であった。ただ、「仕事」と「多様」は排他的な関係性にあるわけではなく、「多様」だけに関連した記述もあれば、相互に関連が見られる記述も同様に存在する。例えば「現在の仕事の満足度」にて10点をつけた回答者の自由回答記述では「物事を多面的に捉え多様性を受容しつつ、問題意識を常に持つ癖がつき、仕事にも日々の生活にも直結している」といった、仕事と絡めた回答も複数見られた。また「現在の生活の満足度」でも10点をつけた回答者には「人々の多様性とそこに関わりを持つことの重要さは、特に仕事場のほうが顕著なので、大学時に考えがアップデートできて良かった」「早稲田大学の多様性、並びに自由な発想力は非常に仕事に有効である」といった回答が見られ、これらの語彙は相互に関係しつつ生起していることもうかがえた。

上記の検討から、在学時に専門科目や一般教育科目などの科目に熱心に取り組んだ回答者には、卒業者のその後の仕事に生かされていると回答する傾向が一定程度見られた。また、卒業後の日々の仕事や生活に満足していると回答している回答者からは、在学時の経験が「仕事」に生きていたり、あるいは在学時における「多様」な人々との関わりが日々の生活の中で生きていくといった形で記述される傾向があることがわかった。

表 4-9 あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

- 専門科目 回答ごとの抽出語上位 10 位

1		2		3		4		5	
英文	.125	多様	.055	活かす	.063	仕事	.145	仕事	.169
思い通り	.125	議論	.045	人	.063	役立つ	.111	知識	.106
事	.125	学生	.042	論理	.059	多様	.074	役立つ	.100
出す	.125	大学	.040	コミュニケーション	.054	学ぶ	.067	学ぶ	.098
野球	.125	勉強	.038	活動	.054	人	.057	役に立つ	.083
甘い	.111	一流	.036	物事	.049	自分	.045	大学	.074
結果	.111	後悔	.035	自分	.048	役に立つ	.044	論理	.068
翻訳	.111	自分	.035	知識	.046	研究	.037	生かす	.060
メール	.100	広い	.034	持つ	.044	私生活	.037	身	.058
行く	.100	転職	.033	様々	.044	社会	.035	思考	.057

表 4-10 あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

- 一般教育科目 回答ごとの抽出語上位 10 位

1		2		3		4		5	
姿勢	.077	学ぶ	.058	仕事	.133	仕事	.154	仕事	.098
確かめる	.071	知識	.054	大学	.075	役立つ	.104	役立つ	.096
学士	.071	考え方	.052	知識	.067	学ぶ	.073	役に立つ	.088
原典	.071	活かす	.052	学ぶ	.065	多様	.069	考える	.069
思い通り	.071	自分	.048	多様	.064	人	.063	学ぶ	.066
事	.071	コミュニケーション	.048	活動	.057	知識	.058	知識	.063
主義	.071	多様	.047	友人	.047	論理	.056	在学	.059
修了	.071	議論	.047	サークル	.046	役に立つ	.052	論理	.059
出す	.071	生かす	.046	得る	.041	思考	.045	私生活	.054
所属	.071	学生	.044	物事	.041	生かす	.045	生かす	.053

表 4-11 あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

- ゼミ 回答ごとの抽出語上位 10 位

1		2		3		4		5	
早稲田	.070	多様	.061	友人	.065	役立つ	.092	仕事	.189
人生	.062	仕事	.060	役立つ	.060	多様	.090	役立つ	.108
役立つ	.057	人	.050	人	.056	知識	.065	学ぶ	.103
学ぶ	.057	話	.048	学ぶ	.054	人	.058	知識	.085
私生活	.056	活かす	.048	論理	.051	スキル	.047	研究	.076
考え方	.049	習得	.048	今	.051	得る	.047	役に立つ	.075
様々	.049	自分	.044	関係	.049	役に立つ	.045	大学	.071
サークル	.048	活動	.044	自分	.046	感じる	.044	ゼミ	.066
勉強	.048	生かす	.042	大学	.042	生かす	.042	経験	.056
大学	.048	経験	.041	様々	.041	専門	.041	論理	.056

表 4-12 あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

- 卒業論文 回答ごとの抽出語上位 10 位

1		2		3		4		5	
知識	.096	友人	.063	仕事	.075	仕事	.129	仕事	.174
法律	.073	私生活	.055	役に立つ	.065	多様	.089	役立つ	.105
役立つ	.072	経験	.052	多様	.059	役立つ	.088	研究	.089
学ぶ	.067	在学	.051	学ぶ	.056	人	.072	学ぶ	.080
役に立つ	.064	関係	.049	自分	.041	知識	.064	論理	.069
物事	.063	サークル	.048	コミュニケーション	.041	学ぶ	.063	大学	.063
思考	.061	活かす	.048	今	.037	大学	.060	知識	.060
論理	.059	卒業	.048	様々	.036	生かす	.058	役に立つ	.060
様々	.058	身	.046	生かす	.033	現在	.049	思考	.058
コミュニケーション	.054	積極	.046	外国	.032	持つ	.046	身	.051

表 4-13 あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

- 部活動・サークル活動 回答ごとの抽出語上位 10 位

1		2		3		4		5	
役立つ	.069	役立つ	.087	学ぶ	.109	仕事	.096	仕事	.160
役に立つ	.066	仕事	.086	知識	.092	役立つ	.073	役立つ	.089
得る	.057	研究	.083	仕事	.080	多様	.068	学ぶ	.079
知識	.052	学ぶ	.082	社会	.073	人	.063	多様	.067
考える	.049	多様	.081	勉強	.072	身	.047	サークル	.064
研究	.048	大学	.070	基礎	.063	コミュニケーション	.047	活動	.062
情報	.048	知識	.049	専門	.054	私生活	.047	知識	.061
専門	.042	考え方	.046	ゼミ	.054	経験	.046	大学	.060
身	.040	論理	.041	多様	.048	様々	.044	コミュニケーション	.056
一般	.040	学び	.040	考える	.043	生かす	.041	経験	.056

表 4-14 あなたの現在の仕事の満足度はどの程度ですか。 それぞれ一つずつお選びください。 - 現在の仕事

回答ごとの抽出語上位 10 位

1		2		3		4		5	
言う	.083	会社	.095	文章	.064	関係	.070	人	.063
職場	.077	Confrontation	.067	学び	.061	役立つ	.061	仕事	.061
自分	.061	スムーズ	.067	関係	.052	業務	.057	思考	.058
キャバオーバー	.053	安心	.067	常に	.050	物事	.052	生かす	.057
コメント	.053	行える	.067	意識	.049	仕事	.052	得る	.051
闇雲	.053	順応	.067	見る	.047	語学	.048	役立つ	.046
家庭	.053	絶対	.067	仕事	.044	生活	.046	能力	.042
回す	.053	文	.067	書く	.044	今	.044	高い	.039
簡潔	.053	名門	.067	人間	.041	学ぶ	.043	論理	.037
愚問	.053	要所	.067	生きる	.040	友人	.042	生きる	.035
6		7		8		9		10	
役に立つ	.059	仕事	.142	仕事	.138	活かす	.061	多様	.099
大学	.057	経験	.102	役立つ	.095	能力	.061	役立つ	.083
コミュニケーション	.056	学ぶ	.082	知識	.091	知識	.061	学ぶ	.078
時代	.052	役立つ	.076	役に立つ	.072	理解	.053	自分	.066
力	.052	多様	.065	学ぶ	.069	学ぶ	.050	知識	.061
学ぶ	.049	考える	.064	現在	.067	多様	.046	コミュニケーション	.057
人	.042	知識	.059	大学	.061	論理	.045	人	.053
研究	.038	役に立つ	.058	活動	.060	大学	.041	大いに	.051
異なる	.036	生かす	.055	経験	.058	基礎	.040	身	.050
論理	.035	持つ	.053	論理	.053	スキル	.039	早稲田大学	.049

表4-15 あなたの生活（仕事を除く）の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。 - 生活（仕事を除く） 回答ごとの抽出語上位10位

1		2		3		4		5	
間雲	.200	苦しい	.167	アイデンティティ クライシス	.053	携わる	.074	物事	.069
役立てる	.200	不自由	.167	コメント	.053	社会	.063	人	.057
養成	.200	やり取り	.143	極めて	.053	専門	.042	仕事	.053
パソコン	.167	取引	.143	主義	.053	卒業	.040	教育	.051
ミーティング	.167	判断	.143	所属	.053	セカンド	.039	役立つ	.046
支える	.167	全く	.111	折り合い	.053	還元	.039	役に立つ	.044
他者	.167	スタッフ	.100	統率	.053	教え	.039	専門	.043
否定	.167	プログラミング	.100	同窓生	.053	愚問	.039	基礎	.042
部	.167	行う	.100	入門	.053	見越す	.039	研究	.040
法学部	.167	海外	.063	美術	.053	三流	.039	数学	.039
6		7		8		9		10	
仕事	.076	仕事	.087	仕事	.146	仕事	.095	学ぶ	.102
論理	.055	大学	.057	役立つ	.091	役立つ	.092	多様	.085
役に立つ	.052	人	.052	経験	.081	知識	.087	仕事	.084
考える	.050	物事	.050	役に立つ	.079	論理	.071	役立つ	.069
学ぶ	.043	業務	.046	知識	.078	多様	.069	人	.067
友人	.043	自分	.043	学ぶ	.075	思考	.052	知識	.067
能力	.041	コミュニケーション	.042	英語	.063	感じる	.049	自分	.059
自分	.038	捉える	.042	私生活	.058	能力	.048	生かす	.058
分析	.038	経験	.041	多様	.057	大学	.048	勉強	.055
生かす	.036	今	.040	大学	.055	スキル	.048	大学	.048

#### 4-5. まとめ

本章では、【Q6.1「あなたが本学での学びから得た知識やスキル・経験は、卒業後どのような形で生かされていますか。仕事、私生活、いずれでも結構ですので具体的に教えてください。】という質問項目に対する、卒業生の自由回答記述を分析した。

まず、全体の傾向として、いくつか特徴的な語彙が上位に抽出された。例えば「仕事」「知識」は、大学時に学修した基礎的・専門的知識や、その学修の中で身についたスキル・能力に関係しており、「多様」は主に大学在学時の人間関係や他者との関わりや、その中での他者との相互理解に関係しているようであった。

続いて回答者の属性との関係性を分析した。「大学・学部が第一志望か否か」「入学した入試形態」「在学した学部」といった回答者の属性をもとに分類を試みたところ、おおよそ全体の傾向と変わらない結果を示したものの、いくつか特徴的な傾向も存在した。例えば入試形態では「自己推薦・AO入試等」では特徴的な抽出語として「海外」や「英語」がみられたほか、在学した学部ごとでは学部の専門性を反映した記述も一定数みられた。

最後に、在学中の回答者の取り組みや卒業後の仕事・生活の満足度を示す変数との関係性から、どのような回答者がいかなる語彙を用いて回答を記述するのかをより深く検討した。その結果、在学中の学修への取り組みに熱心だった回答者では「仕事」といった語彙が全体の傾向と同様にみられた。また卒業後の仕事・生活の満足度が高い回答者は、全体の傾向よりもさらに顕著に「多様」という語彙が抽出される、

といった特徴を示した。

上記の結果は、仕事だけに限らず、卒業生の卒業後の生活に大学での経験がどのように生きているのかについて、学生自身の認識として見たときにいかなる要素が存在するのかについての一端を教えてくれる貴重なデータであると考えられる。ただし留意しなければならないのは、あくまでも本章で分析した項目は「いかに現在に生きているか」という肯定的な回答を求めるものであり、回答には肯定的なバイアスがかかっている可能性があるという点である。そこで次章では、大学に対する要望についての質問に対する自由回答記述を求めた項目を検討する。

## 第5章 改善すべき点についての自由回答記述の分析

### 5-1. 本章の目的

本章では、自由回答記述の分析を通して、卒業生からの大学に関する改善についての要望を検討する。

本調査では、【Q6,2 授業、カリキュラム、教員の指導など、本学が改善すべきであると思う点などについて、ご意見をお聞かせください。】という自由回答記述の質問項目を設定している。そこで、まずこの自由回答記述のテキスト分析を行い特徴を明らかにし（5-2、5-3）、ついで自由回答記述と他の変数の関係性を検討する（5-4）。

検討にあたっては、第4章と同様に分析ツールとして KH Coder を利用する。本章では、「大学への改善の要望はどのような特徴語で構成されているのか」「それは在学時の経験やアウトプットによっていかなる影響を受けているのか」を検討していく。以下、主に「抽出語リスト」による頻出語彙の把握や、語と語の結びつきを探る「共起ネットワーク」、在学時の経験といった外部変数との関係性の分析を通して、上記の質問項目に対する回答の傾向や分類を行っていく。

なお、該当項目である Q6.1 の自由回答記述に該当する文章数は 600 であり、分析に当たって十分な分量だと判断した。

### 5-2. 自由回答記述のテキスト分析

まず、全体の傾向を把握するために、Q6.1 の回答の抽出語リストの作成、および抽出された語の前後の係り受け関係（コロケーション）の検討を行った。KH Coder で分析した出力結果を図 5-1～図 5-7 に示す。なお、最も抽出された語彙は動詞の「思う」であったが、これはすべての要素に共通する語彙であると判断し、第4章と同様に「思う」「おもう」は抽出から除外している。

表 5-1 の抽出語リストをみると、上位に抽出されている語彙は、主に大学の学修に関する語彙であることがわかる。例えば、「授業」という語彙が多く抽出されているが、係り受け関係をみると（表 5-2）、「増やす」「多い」といった、授業の多寡に対する要望であることがわかる。例えば、「留学するまでディスカッションがメインの授業がなかったので、そういう授業を増やしてほしい。」や、逆に「…体験型の授業もその場限りのものが多かったり、自由がないものが多いので選択肢を増やすべきと思います」といった回答に現れるように、主に授業の形態や内容に対して、それを増やすことを求めたり、あるいは批判的な文脈でその「多さ」を指摘しているようである。また、「少人数」という語彙が上位に来ているように、授業の人数構成に関する要望も複数みられた。例えば、「大人数での講義が多いので、もう少し少人数で個々の学生と距離の近い授業を増やしてほしい。」「少人数で議論する。成果をまとめるなどの機会が多いと社会人になってからどんな場面でも役立つと感じる」といった記述や、逆に「多い」といった別の語彙からも「大学の学び場としての関わり方は間違っていないと思うのですが、人数が多いので、一人一人に対してのサポートは十分にできない」といった記述がみられた。このように授業の内容だけではなく、授業の環境についても要望が存在していることがうかがえる。

また、「学生」という項目もみられる。コロケーション（表 5-3）をみると、「ない」「多い」といっ

た項目が並列して並んでおり、何かの不足や過剰についての語彙が関連していることがわかる。実際に記述内容をみると、「学生が集える場所が少ない（学内の活気がなくなったように感じる）」「教授に対して学生数が多いと思う」といった形で、大学の環境に学生にとって必要な要素が不足している点に関する要望であるようだ。また、何らかの理由で「…な学生が多い」という形で学生や大学の課題点を指摘しているものもみられた。

また「教員」という語彙も上位に抽出されており、大学教員－学生間の関係性についての記述も一定数みられるようである。「教員」のコロケーションをみると（表5－5）、前後で頻出度の高い語彙として「学生」「生徒」「指導」といったように、主に学生とのかかわりについての記述が多い。内容としては「教員から生徒への一方通行な授業が多く、頭に入らないことが多かった」といった、大学の講義やゼミにおける教員に対する要望がみられる傾向にあった。また、「大学」という抽出語においては、主に「大学生活」「卒業」といった形で主に大学での生活における記述が多いことがわかる。

その他、「科目」といった語彙に関しては、所属学部に設置される様々な科目の形態に関する言及が多い（表5－6）。「科目登録時の抽選（選外）は、教職科目や語学科目でも発生しており、大学としてもう少し考えてもらいたかったです」「将来のキャリアパスを考えた上での科目選択のアドバイスやモデルケースがあれば、科目履修をより有効に出来たのではないかと思います」といった、カリキュラムや科目選択の制度設計に関する要望がみられる。これらはこれまでの講義の内容や学生へのサポートといった直接的な要素とは異なり、制度や構造といった間接的な要素に関する言及であるといえるだろう。

このように概観してみると、まず、総じて大学への要望については、大学の講義に関する直接的な内容についての要望が多いことがわかる。その内容としては講義の形式や内容、教員の授業や指導への姿勢といった点に焦点が当たっているようだ。一方で、制度設計や講義受講のための科目履修制度に関する要望といった、学生を取り巻く間接的な制度設計の側面についても要望が一定数みられた。

表5－1 Q6.2の抽出語リスト（上位15位）

抽出語	出現回数
授業	114
学生	82
特に	78
大学	47
教員	46
多い	46
良い	39
科目	35
感じる	34
学部	32

教育	31
社会	30
ゼミ	28
早稲田	28
人	27

表5-2 「授業」のコロケーション（上位10位）

	抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左5	左4	左3	左2	左1	右1	右2	右3	右4	右5	スコア
1	増やす	動詞	10	0	10	0	0	0	0	0	0	8	2	0	0	4.667
2	高い	形容詞	4	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
3	多い	形容詞	9	2	7	0	2	0	0	0	0	5	1	0	1	3.533
4	ない	否定助動詞	11	4	7	2	0	1	1	0	0	0	4	2	1	3.267
5	少人数	名詞	4	4	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	2.333
6	対面	サ変名詞	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
7	必修	名詞	3	1	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	2
8	面白い	形容詞	3	1	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	2
9	英語	名詞	5	4	1	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	1.917
10	ぬ	否定助動詞	3	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1.583

表5-3 「学生」のコロケーション（上位10位）

	抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左5	左4	左3	左2	左1	右1	右2	右3	右4	右5	スコア
1	ない	否定助動詞	11	9	2	3	0	0	1	5	0	0	2	0	0	6.767
2	多い	形容詞	11	3	8	1	0	1	1	0	0	5	2	1	0	4.45
3	教員	名詞	6	4	2	0	2	0	2	0	1	0	1	0	0	2.833
4	生活	サ変名詞	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
5	考える	動詞	4	1	3	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	1.833
6	興味	名詞	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1.5
7	発表	サ変名詞	2	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1.5
8	良い	形容詞	3	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1.45
9	社会	名詞	4	2	2	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1.367
10	もう少し	副詞	2	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1.2

表5-4 「大学」のコロケーション（上位10位）

	抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左5	左4	左3	左2	左1	右1	右2	右3	右4	右5	スコア
1	生活	サ変名詞	3	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
2	卒業	サ変名詞	4	1	3	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	2.833
3	海外	名詞	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
4	ライバル	名詞	2	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1.5
5	教育	サ変名詞	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1.333
6	在学	サ変名詞	2	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1.333
7	環境	名詞	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1.2
8	vs	未知語	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
9	ランキング	名詞	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
10	レベル	名詞	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

表5-5 「教員」のコロケーション（上位10位）

	抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左5	左4	左3	左2	左1	右1	右2	右3	右4	右5	スコア
1	学生	名詞	6	2	4	0	0	1	0	1	0	2	0	2	0	2.833
2	生徒	名詞	5	3	2	0	0	0	3	0	0	2	0	0	0	2.5
3	指導	サ変名詞	5	0	5	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	2.333
4	多い	形容詞	4	0	4	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	1.833
5	当時	副詞可能	2	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1.333
6	授業	サ変名詞	4	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1.15
7	カリキュラム	名詞	3	3	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1.033
8	スタッフ	名詞	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
9	感じる	動詞	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
10	古い	形容詞	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

表5-6 「科目」のコロケーション（上位10位）

	抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左5	左4	左3	左2	左1	右1	右2	右3	右4	右5	スコア
1	必修	名詞	6	5	1	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	6
2	専門	名詞	6	5	1	0	0	2	0	3	0	0	1	0	0	4
3	選択	サ変名詞	4	3	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	3.5
4	履修	サ変名詞	6	2	4	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	3.283
5	教養	名詞	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
6	登録	サ変名詞	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
7	英語	名詞	5	3	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	1.85
8	教職	名詞	3	2	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1.75
9	一般	名詞	2	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1.5
10	語学	名詞	2	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1.5

次に、要望に関するそれぞれの内容について明らかにするため、共起ネットワークを用いてそれぞれの連関を探った（図5-1）。

傾向を見ると、3番目のグループ（薄紫色）に特徴的なように、抽出語で上位に位置している語彙はかなり固まって存在していることがわかる。これらが連関している実際の記述としては、「座学であってももう少しインタラクティブな授業を増やすなど、学生の興味を惹くように改善の余地があると感じる」「大人数の授業はある程度仕方ないと思うが、教員との距離がかなりあり授業への参加が受動的になってしまった」などがあり、大学の学修の上で授業や教員に関する要望の語彙が重なって現れる傾向があるようである。

また、1番目のグループ（水色）では大学生活に関する語彙、2番目のグループ（薄黄色）では科目履修に関する語彙といったように、抽出語リストで確認した傾向も一定程度現れていることがうかがえる。

このように、全体の傾向をみると、総じて大学の講義やそれに関する学生へのサポートといった具体的な講義やゼミにおける指導面、および科目履修制度などに関する大学の制度設計に関する面という二つの大学教育の側面への要望が大きな割合を占めており、そしてこれらは一定程度関連しながら共起していることが明らかになった。



か抽出された。もっとも、各学部に分割すると母数自体さほど大きくないため、上位に抽出されている語彙が各学部の要望を代表しているかについては慎重になる必要がある。また、文理でまとめるとやや異なる傾向がみられ、理系では学修の仕組みや研究に関する語彙もあわせて抽出される傾向があることがわかった。

表5-7 学部ごと抽出語リスト（上位10位）

スポーツ科学部		人間科学部(通信)		人間科学部(通学)		商学部		国際教養学部	
人	.044	通信	.091	教員	.060	社会	.063	授業	.080
アドバイザー	.040	課程	.077	生徒	.055	特に	.062	and	.070
パソコン	.040	交流	.074	授業	.040	多い	.055	More	.070
横断	.040	特に	.054	IT	.038	学生	.054	教員	.052
横柄	.040	オン	.046	印象	.038	人	.054	students	.047
休講	.040	最新	.046	質	.038	ゼミ	.047	to	.047
強いて	.040	作用	.046	限る	.037	環境	.037	センター	.046
苦しい	.040	事情	.046	世界	.037	学部	.034	水準	.044
結びつける	.040	盛ん	.046	日本	.037	出る	.031	非常	.044
見つける	.040	追加	.046	全く	.036	学問	.031	学部	.044
文化構想学部		文学部		基幹理工学部		先進理工学部		創造理工学部	
学生	.065	良い	.072	カリキュラム	.068	研究	.063	改善	.055
特に	.058	文学部	.071	難しい	.060	カリキュラム	.056	早稲田	.052
学ぶ	.049	ゼミ	.048	活動	.054	特に	.048	創造	.051
大学	.044	特に	.043	英語	.053	教養	.048	理工	.051
生活	.043	授業	.042	多い	.050	時間	.048	弱い	.050
必要	.039	外国	.042	教授	.049	専門	.044	留学生	.049
構想	.035	文学	.042	人	.048	科目	.038	大事	.048
経験	.032	年次	.041	ネット	.046	感じる	.037	勉強	.044
文化	.032	入学	.039	見れる	.046	学生	.035	言う	.043
選択	.032	必修	.037	理系	.046	発表	.035	今	.042
政治経済学部		教育学部		法学部		社会科学部			
授業	.053	特に	.076	授業	.065	特に	.065		
単位	.044	大学	.061	教員	.051	内容	.045		
機会	.044	学生	.056	学生	.050	増やす	.044		
学部	.041	授業	.051	科目	.047	講義	.042		
感じる	.041	教育	.049	大きい	.045	感じる	.038		
良い	.039	多い	.042	改善	.040	社	.036		
少人数	.039	履修	.035	大学	.035	作る	.036		
多い	.037	考える	.032	出身	.035	出す	.036		
自分	.037	学ぶ	.032	地方	.035	体験	.036		
社会	.034	学部	.030	得る	.034	グループ	.035		

表5-8 文理ごと抽出語リスト（上位10位）

文系		理系	
特に	.089	カリキュラム	.053
授業	.088	多い	.052
学生	.068	学生	.052
良い	.042	研究	.041
教員	.041	感じる	.037
多い	.041	教員	.035
大学	.036	専門	.033
学部	.035	機会	.032
感じる	.029	教授	.032
科目	.028	学ぶ	.032

#### 5-4. 在学時の他変数との関係性

本節では、大学に対する要望は、大学時代の取り組みへの熱心さや置かれていた学修の環境によって変化はあるのかという点を明らかにする。

そのために「在学時の経験」として検討する変数は、第一に「在学時に熱心に取り組んだこと」である。例えば、専門科目に熱心に取り組んだ人はどのような要望を挙げているのか、という点から、要望の傾向について一定の理解ができると考えられる。

次に、GPA を変数として用いる。もっとも GPA は在学時の経験のアウトプットを示す指標の一つに過ぎないが、在学時の経験や学修の結果を示す変数として用いることで、その結果によって要望にどのような変化があるのかを探る。

3つ目の変数として、「奨学金受給の有無」を扱う。上記二つの変数とは傾向の異なるものであるが、在学時の経験として奨学金を受給していたのかどうかは、特に経済的状況に左右される大学生活を経験した人々の要望にどのような関係性があるのかという点において重要であると判断し、本変数を採用した。以下、それぞれの節で変数との関係性を探っていく。

##### (1) 在学時に熱心に取り組んだこと

第一に、「在学時に熱心に取り組んだこと」との関連性について検討する。本項目は在学時の経験について、「あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。」という教示文で12項目について尋ねる項目であり、それぞれ「1：経験なし 2：不熱心 3：やや不熱心 4：やや熱心 5：熱心」の5件法で構成されている。ただし、1～5のそれぞれの回答数に大幅な偏りが見られたため、「1～3」を「0」に変換し、「4～5」を「1」に変換しておおよそその熱心さの傾向を比較することとした。この手続きを通して度数としては「1」に依然として偏りが出たが、比較するにあたってはそれぞれ十分な数と判断した。

結果（表5-9～表5-12）をみると、「専門科目」「一般教育科目」については、「ゼミ」や「卒業論文作成」と比較しても抽出語に差異がみられる傾向があり、「1：やや熱心 or 熱心」と回答した層は、「授業」「学生」「教員」「科目」といった大学の講義に関する項目がみられる。

そこで、「専門科目」と「一般教育科目」について、それぞれの共起ネットワークを作成した（図5-2～図5-5）。結果として、「熱心」と回答した人は全体的に講義内容や講義形式に関する要望が相対的に多く抽出され、それぞれも共起している様子がうかがえる。一方、「熱心」ではないと回答した層の回答はかなり分散し、特徴的な語彙があるというよりはそれぞれの回答が多様に存在しているようである。

表5-9 専門科目の熱心さと自由回答記述

0		1	
特に	.089	授業	.100
大学	.044	特に	.084
感じる	.040	学生	.081
考える	.032	多い	.056
人	.032	教員	.051
教授	.027	良い	.048
学ぶ	.027	科目	.040
早稲田	.027	学部	.038
自由	.024	大学	.036
講義	.023	感じる	.031

図5-10 一般教育科目の熱心さと自由回答記述

0		1	
特に	.077	授業	.099
学生	.065	特に	.091
多い	.057	学生	.073
感じる	.043	教員	.051
大学	.039	学部	.044
考える	.037	良い	.043
良い	.036	多い	.041
教授	.034	大学	.037
人	.034	機会	.034
単位	.031	科目	.033

図5-11 ゼミの熱心さと自由回答記述

0		1	
特に	.083	授業	.095
授業	.069	特に	.086
学生	.062	学生	.074
良い	.048	多い	.056
大学	.045	教員	.051
教授	.043	学部	.040
ゼミ	.039	感じる	.037
人	.038	良い	.036
改善	.031	科目	.035
考える	.031	大学	.035

表5-12 卒業論文作成の熱心さと自由回答記述

0		1	
特に	.086	授業	.093
授業	.076	特に	.083
学生	.064	学生	.073
多い	.049	教員	.054
大学	.044	多い	.046
改善	.042	良い	.042
人	.042	学部	.037
考える	.039	科目	.035
良い	.037	感じる	.035
教授	.035	大学	.034







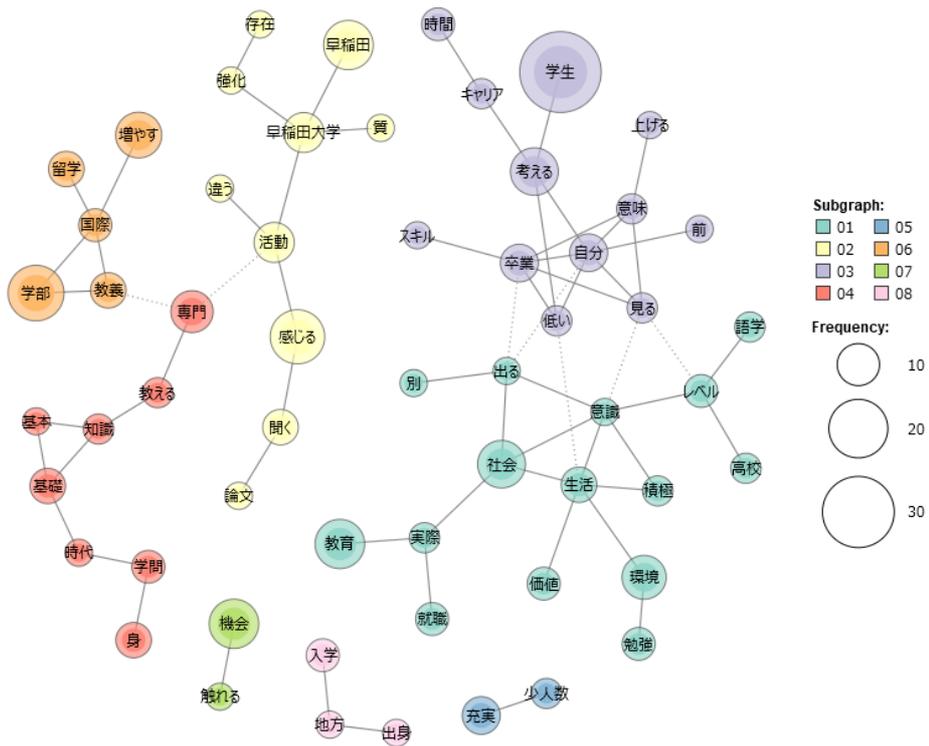


図 5-7 GPA 2～3 未満の共起ネットワーク

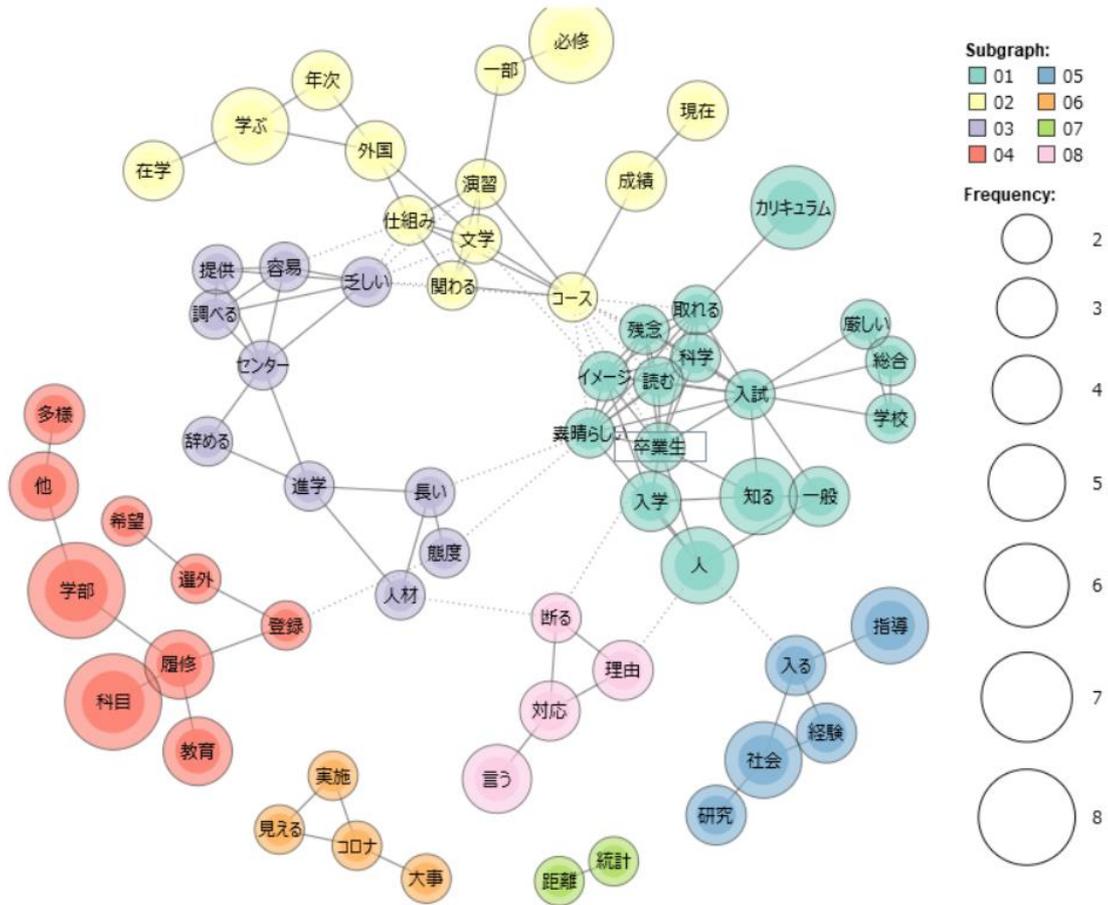


図 5-8 GPA 3 以上の共起ネットワーク

### (3) 奨学金受給の有無

次に奨学金受給の有無ごとの抽出語の差異について検討する。表5-14は回答者の奨学金の受給の有無を「0：無受給」「1：受給者」に分類し、それぞれの回答者ごとに頻出語を抽出したものである。補足として、それぞれの共起ネットワークも付記した（図5-9、図5-10）

傾向として、在学時に奨学金を受給していた群の抽出語には「授業」といった項目が相対的に上位に入っていることがわかる。もっとも、奨学金に関する要望が直接的にみられているわけではないのでこの関係を直接的に推測することは難しいが、傾向としては授業に関する内容が比較的多いことがわかる。

表5-14 奨学金受給の有無ごとの抽出語上位10位

0		1	
特に	.080	授業	.086
学部	.031	学生	.074
科目	.029	多い	.052
社会	.024	良い	.047
考える	.022	教員	.042
講義	.022	大学	.034
ゼミ	.021	人	.030
今	.017	感じる	.030
卒業	.017	必要	.028
活動	.017	学ぶ	.028

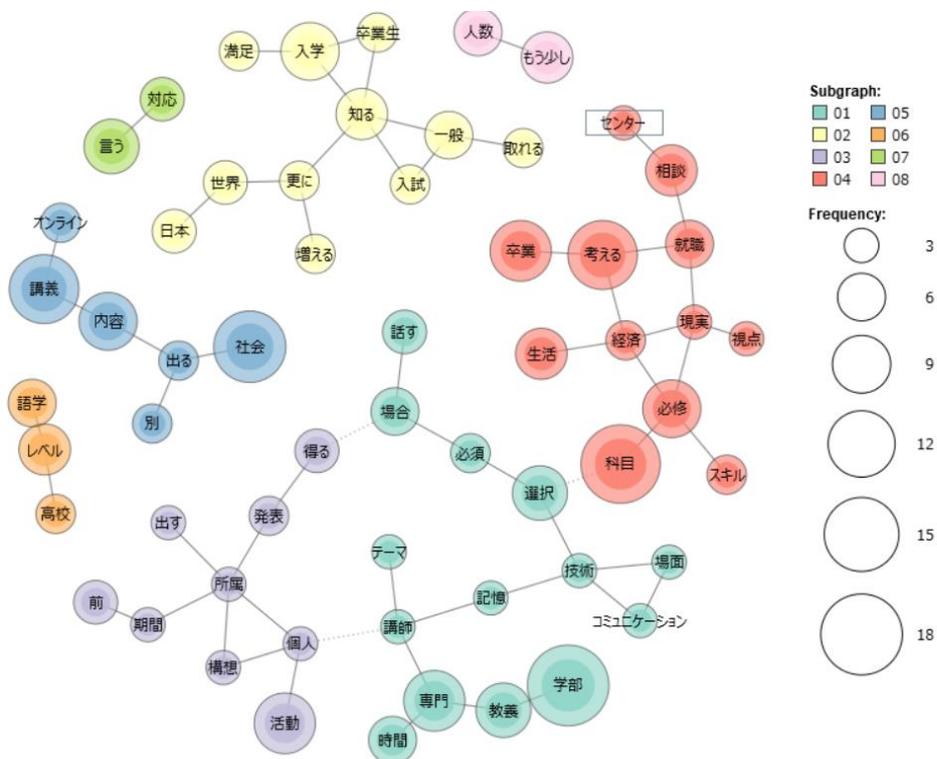


図5-9 奨学金無受給者の共起ネットワーク

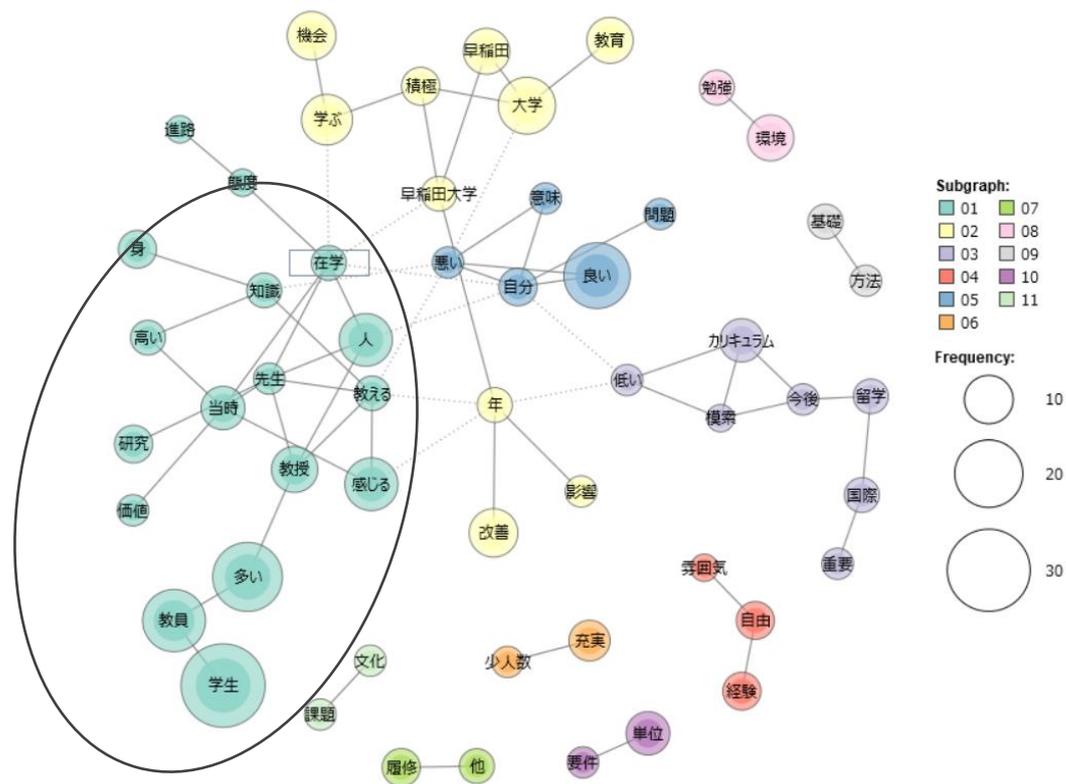


図 5-10 奨学金受給者の共起ネットワーク

### 5-5. まとめ

本章では、大学に対する要望についてその特徴を分析しつつ、大学時代の取り組みへの熱心さや置かれていた学修の環境によって変化はあるのかという点について、在学時の3つの経験という観点から分析することを試みた。

結果として、主に「授業」を起点として、教員の指導や授業内容、授業環境（人数の多さ等）に対する要望が割合として多くを占めていることがわかった。また、外部変数との関係性をみると、まず在学時に熱心に取り組んだことで「専門科目」や「一般教育科目」に肯定的な回答をしている層は、相対的に上記のような要望を記述している傾向が強くみられた。また GPA については、さほど大きな差異は見られなかったものの GPA が高い層は「授業」などの語彙が上位に抽出された。また、奨学金の受給の有無という点については、奨学金を受給している層は特に「授業」に関する要望が相対的に多く抽出された。

これらの結果をふまえると、大学への要望として「授業」や「講義」に関する記述は回答者の属性や在学時の経験の分類それぞれにおいてみられるが、特に大学の学修や大学のサポートを受けるなど関係の深い学生から特に寄せられていることが推測される。ただし全体において同様の傾向がみられることから、全体を通して大学の授業や講義の内容、そしてその制度設計に関する要望が多く寄せられていると考えられる。また、上記のような授業や指導といった学生に直接的に関わる内容だけでなく、「カリキュラム」や「科目履修」といった、間接的な要素に関する要望も同様にみられた。

このことから、卒業生からの要望（改善すべき点）は、当時の講義の内容から制度設計に至るまで、学

生の学修を取り巻く環境に目を向けたものが多いと考えることができる。これらは学生の学修を支えるための重要な改善点を具体的な形で示していると考えられ、今後の運営の改善に活用することが求められる。

## 2022年度 卒業生調査 集計表

### 目次

#### I. 調査概要

---

#### II. 調査項目（グレー部分の自由記述は省略）

---

##### 1. 基本情報

---

- Q01. あなたの年齢（2022年1月1日現在）を記入してください。
- Q02. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。
- Q03. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。
- Q04. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。
- Q05. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。
- Q06. あなたが早稲田大学を卒業した年（西暦）・月を記入してください。※大学院等へ進学し、修了した方も「学部」の卒業年月をお答えください。
- Q07. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。

##### 2. 入学時について

---

- Q08. あなたが大学に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。
- Q09. 早稲田大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。それぞれお選びください。
- Q10. あなたは現役で入学しましたか。あてはまるものを一つだけお選びください。
- Q11. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。
- Q12. 中学3年の時と高校3年の時の成績は、あなたの通っていた学校のなかでどのあたりでしたか。
- Q13. あなたが中学生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。
- Q14. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。

##### 3. 在学時の経験

---

- Q15. あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

Q16. 学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きます。以下のような経験はどのくらいありましたか。

Q17. 大学（学部）在学中に留学をしたことはありますか。複数ある場合には、より長い期間を選んでください。

Q18. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。

Q19. 早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。

#### 4. 卒業後の経験・生活

---

Q20. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。

Q21. 学部在学中にもっと熱心に取り組めばよかったと思うものを、すべて選んでください。

Q22. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。該当するものを一つだけお選びください。

Q23. 就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけお選びください。

Q24. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。

Q25. あなたの学部卒業直後の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

Q26. 卒業後最初についてのお仕事は、現在も継続されていますか。出向や転勤などで異動している場合は、同じ会社・団体・組織としてください。

Q27. 学部・大学院等の卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。

Q28. あなたの現在の就業形態について、該当するものを一つだけお選びください。 ※現在、就業していない方は、「就業していない」を選択してください。

Q29. 転職または辞職された理由は何ですか。最も大きい理由を一つだけお選びください。

Q30. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。

Q31. 現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。

Q32. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。

Q33. 現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。

Q34. あなたの現在の年収（税込）について、該当するものを一つだけお選びください。

Q35. あなたの学部時代の経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。該当するものをお選びください。

Q36. あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。該当するものを一つだけお選びください。

Q37. その友人は、どのような関係にある方ですか。あてはまるものすべてをお選びください。

Q38. あなたの現在の仕事の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。

Q39. あなたの生活（仕事を除く）の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。

## 5. 校友関連・自由記述

---

Q40. あなたが本学での学びから得た知識やスキル・経験は、卒業後どのような形で生かされていますか。仕事、私生活、いずれでも結構ですので具体的に教えてください。

Q41. 授業、カリキュラム、教員の指導など、本学が改善すべきであると思う点などについて、ご意見をお聞かせください。

Q42. 在学中に 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災があったことは、あなたの大学生活やその後のキャリア選択に何らかの影響を与えたでしょうか。自由に記述してください。

Q43. 早稲田大学の校友として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。

Q44. 早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時はどのような時ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

Q45. 早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

## 調査概要

- ◆ 調査方法：ダイレクトメールの送付とメール配信を通じた「Qualtrics」を用いたオンライン調査
- ◆ 調査時期：2022年12月22日～2023年1月23日
- ◆ 調査対象者：早稲田大学の2009年度学部入学者 9,848名
- ◆ 回収状況：970件 回収率（9.8%）
- ◆ 調査結果引用に関するお願い

本調査結果を引用される際には、下記の出典を明記くださいますようお願いいたします。

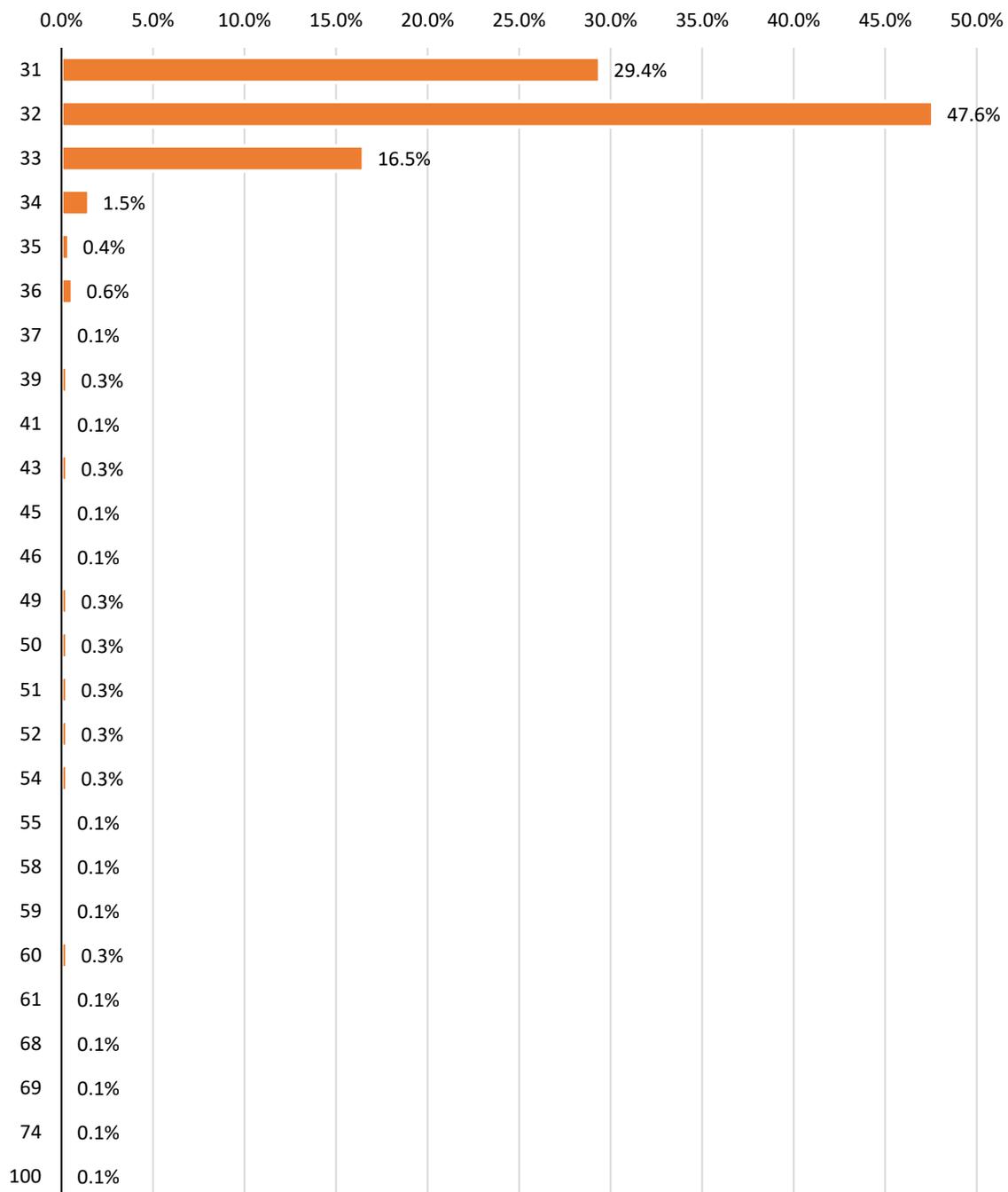
著者：早稲田大学大学総合研究センター

タイトル：2022年度 早稲田大学卒業生調査報告書

## II. 調査項目

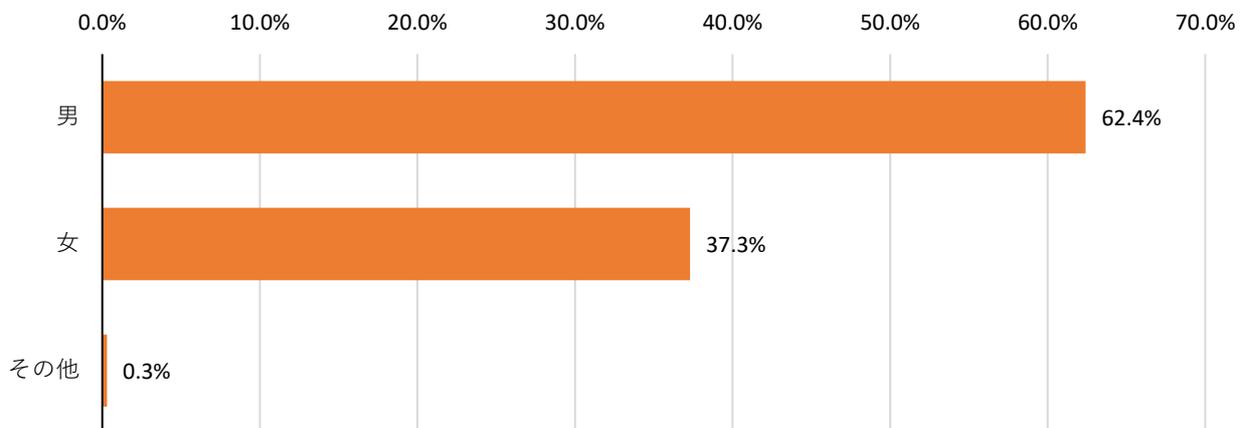
### 1. 基本情報

Q01. あなたの年齢（2022年1月1日現在）を記入してください。



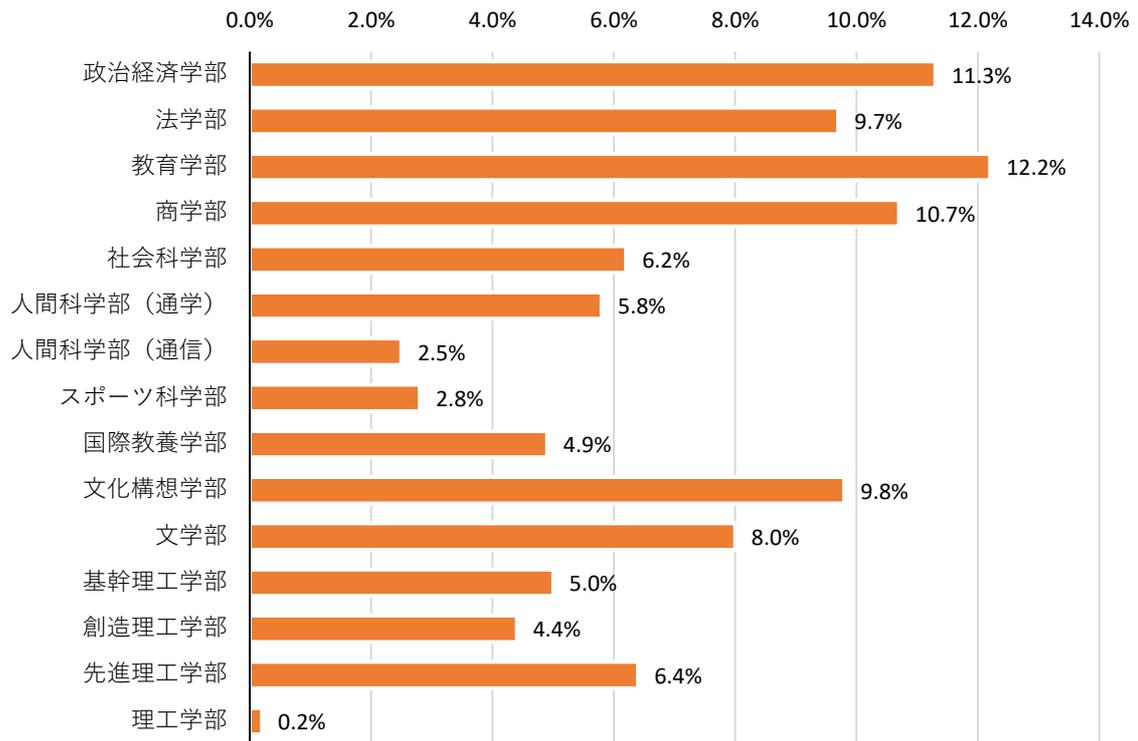
31歳	210	55歳	1
32歳	340	58歳	1
33歳	118	59歳	1
34歳	11	60歳	2
35歳	3	61歳	1
36歳	4	68歳	1
37歳	1	69歳	1
39歳	2	74歳	1
41歳	1	100歳	1
43歳	2		
45歳	1		
46歳	1		
49歳	2		
50歳	2		
51歳	2		
52歳	2		
54歳	2		

Q02. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。



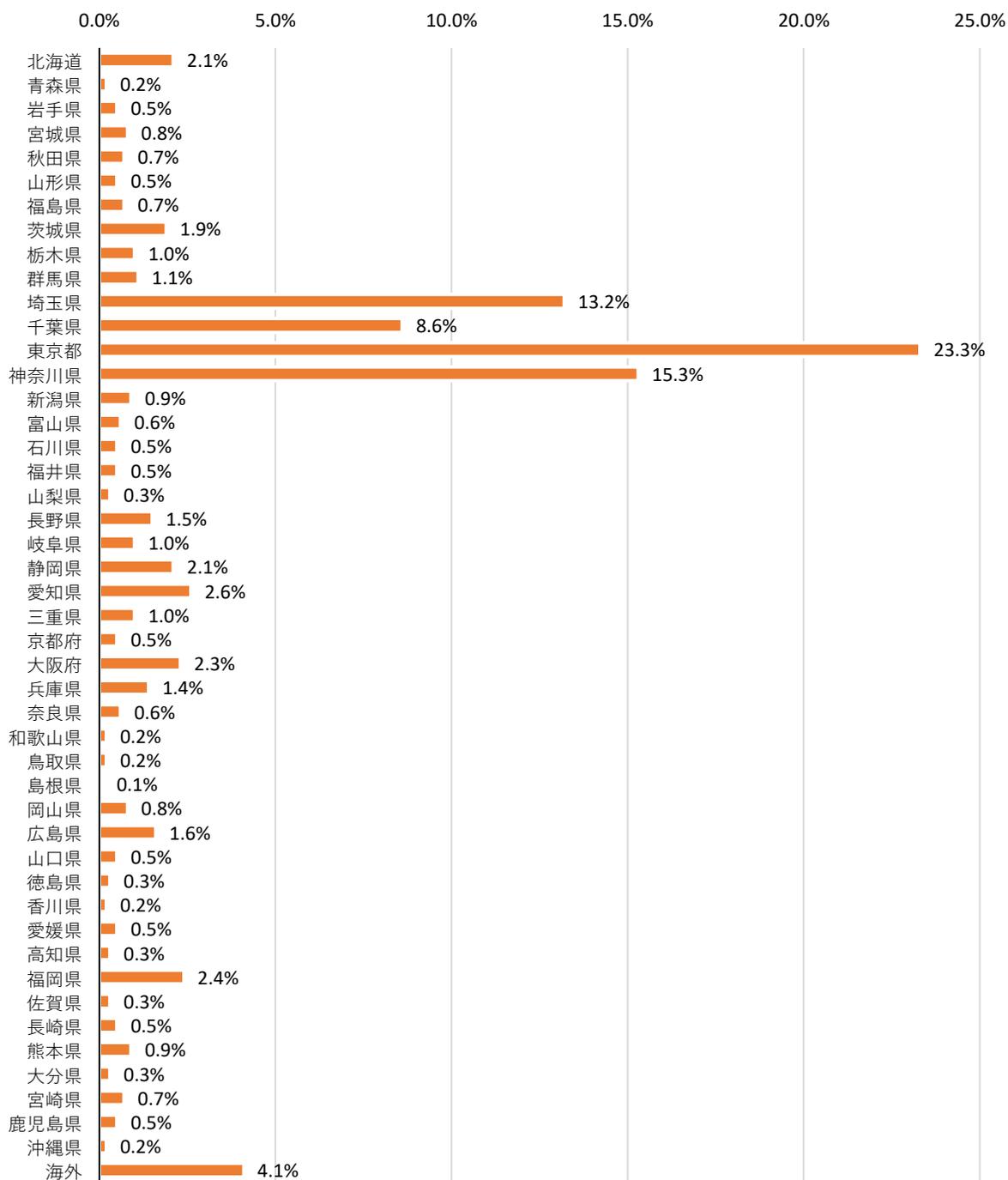
男	552
女	330
その他	3

Q03. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。



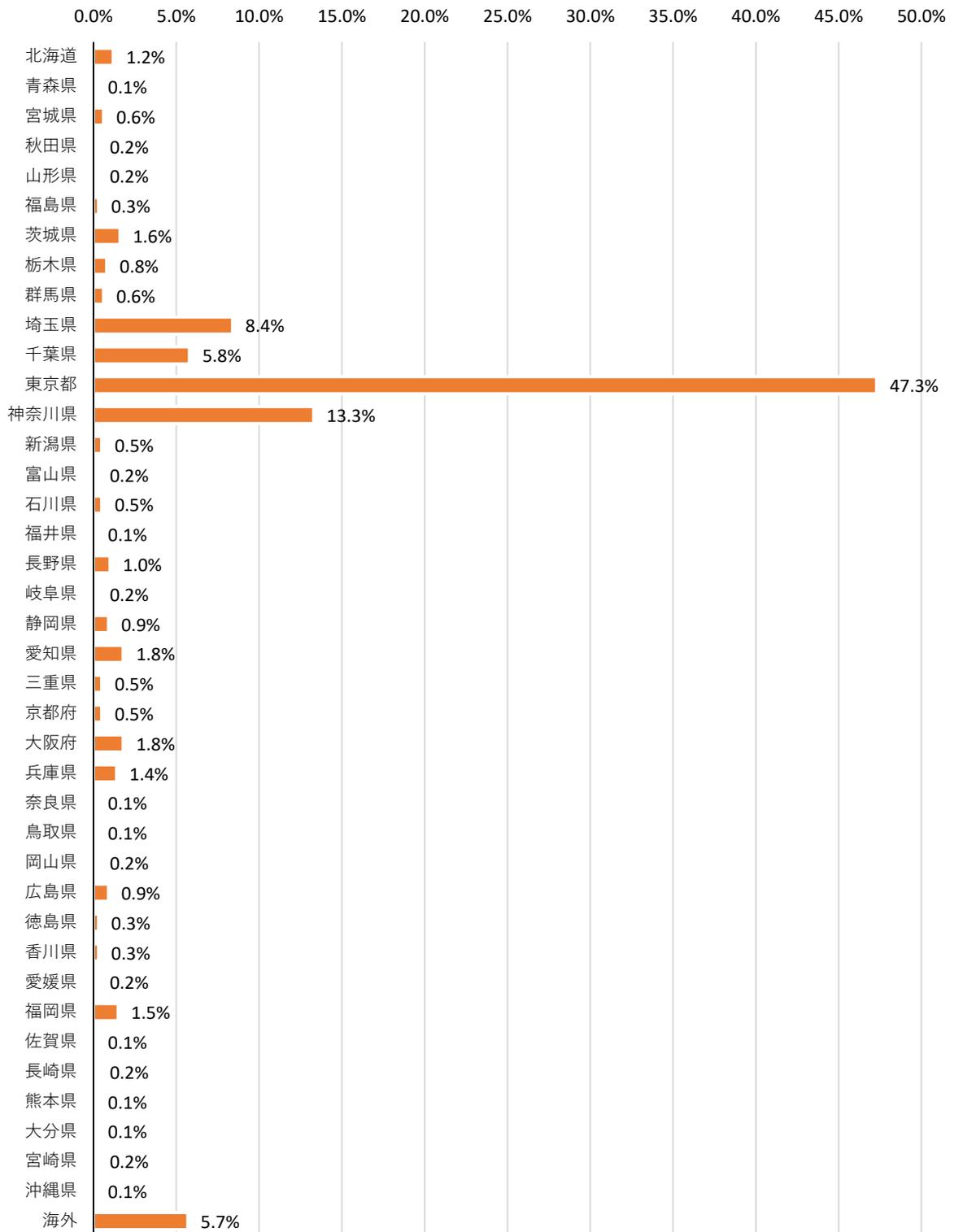
政治経済学部	100	文化構想学部	87
法学部	86	文学部	71
教育学部	108	基幹理工学部	44
商学部	95	創造理工学部	39
社会科学部	55	先進理工学部	57
人間科学部 (通学)	51	第二文学部	2
人間科学部 (通信)	22		
スポーツ科学部	25		
国際教養学部	43		

Q04. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。



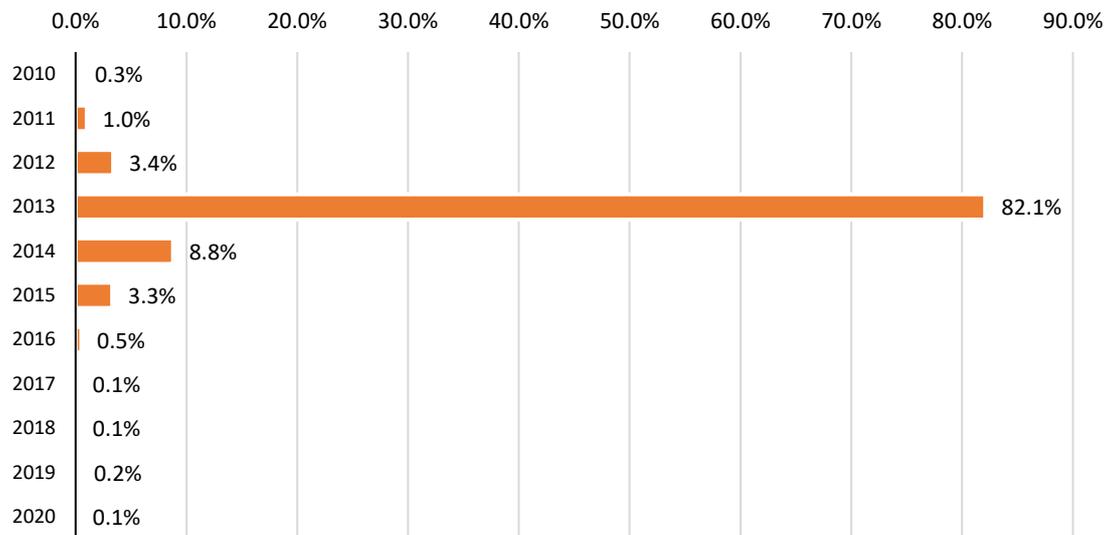
北海道	19	京都府	4
青森県	2	大阪府	20
岩手県	4	兵庫県	12
宮城県	7	奈良県	5
秋田県	6	和歌山県	2
山形県	4	鳥取県	2
福島県	6	島根県	1
茨城県	17	岡山県	7
栃木県	9	広島県	14
群馬県	10	山口県	4
埼玉県	117	徳島県	3
千葉県	76	香川県	2
東京都	206	愛媛県	4
神奈川県	135	高知県	3
新潟県	8	福岡県	21
富山県	5	佐賀県	3
石川県	4	長崎県	4
福井県	4	熊本県	8
山梨県	3	大分県	3
長野県	13	宮崎県	6
岐阜県	9	鹿児島県	4
静岡県	19	沖縄県	2
愛知県	23	海外	36
三重県	9		

Q05. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

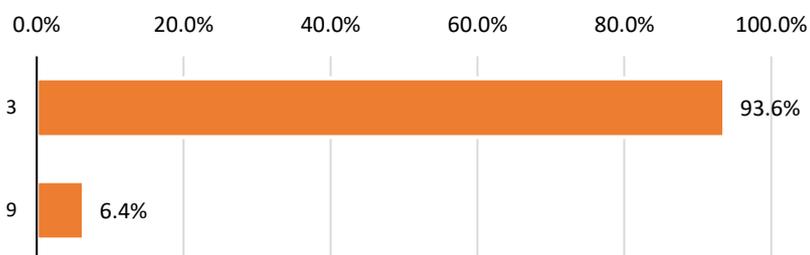


北海道	11	三重県	4
青森県	1	京都府	4
宮城県	5	大阪府	16
秋田県	2	兵庫県	12
山形県	2	奈良県	1
福島県	3	鳥取県	1
茨城県	14	岡山県	2
栃木県	7	広島県	8
群馬県	5	徳島県	3
埼玉県	74	香川県	3
千葉県	51	愛媛県	2
東京都	418	福岡県	13
神奈川県	117	佐賀県	1
新潟県	4	長崎県	2
富山県	2	熊本県	1
石川県	4	大分県	1
福井県	1	宮崎県	2
長野県	9	沖縄県	1
岐阜県	2	海外	50
静岡県	8		
愛知県	16		

Q06. あなたが早稲田大学を卒業した年（西暦）・月を記入してください。※大学院等へ進学し、修了した方も「学部」の卒業年月をお答えください。

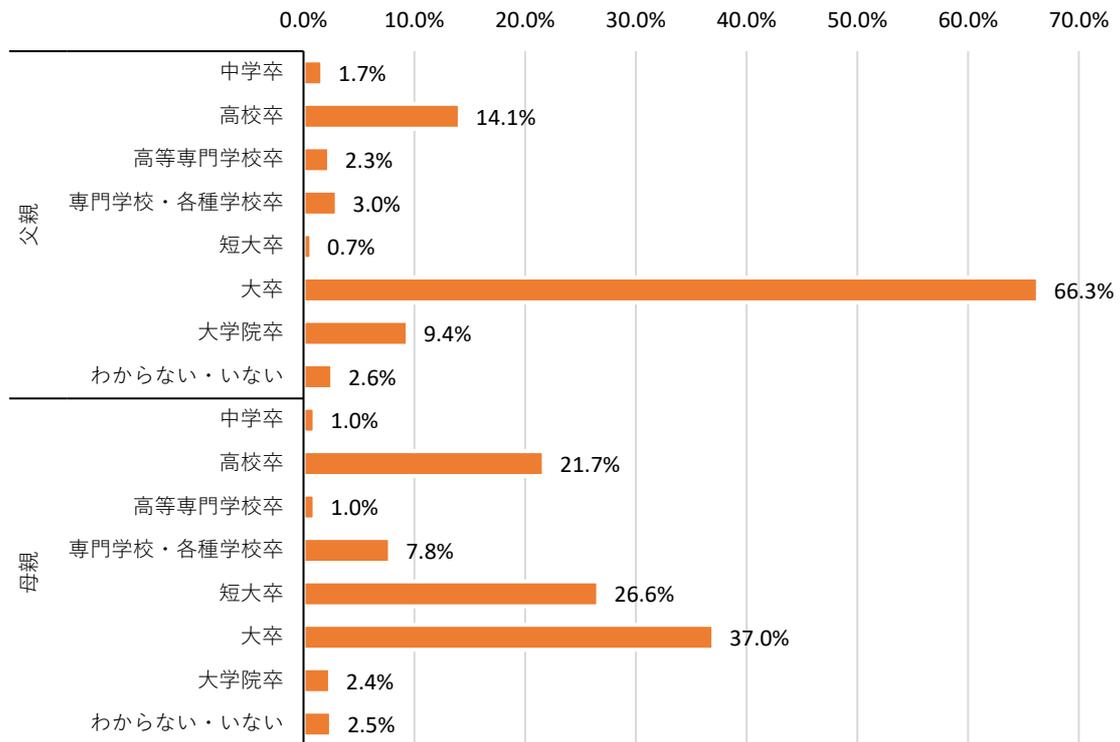


2010年	3
2011年	9
2012年	30
2013年	726
2014年	78
2015年	29
2016年	4
2017年	1
2018年	1
2019年	2
2020年	1



3月	822
9月	56

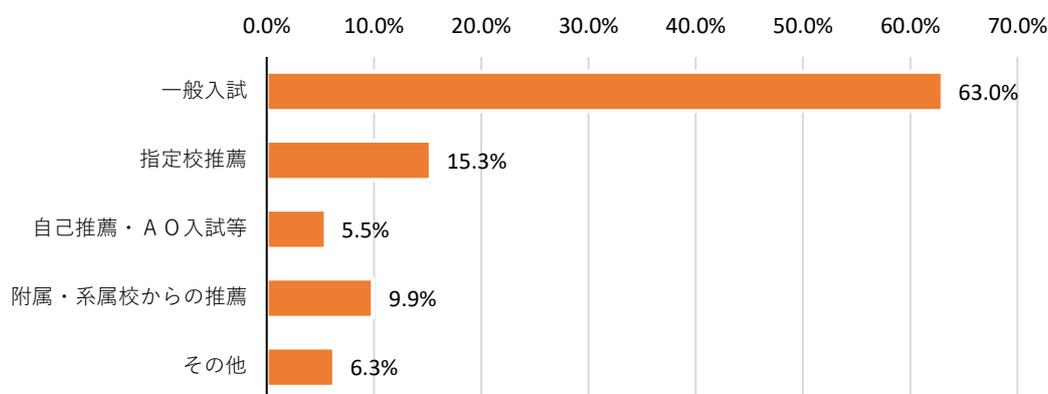
Q07. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。



父親	中学卒	15
	高校卒	125
	高等専門学校卒	20
	専門学校・各種学校卒	27
	短大卒	6
	大卒	587
	大学院卒	83
	わからない・いない	23
母親	中学卒	9
	高校卒	192
	高等専門学校卒	9
	専門学校・各種学校卒	69
	短大卒	235
	大卒	327
	大学院卒	21
	わからない・いない	22

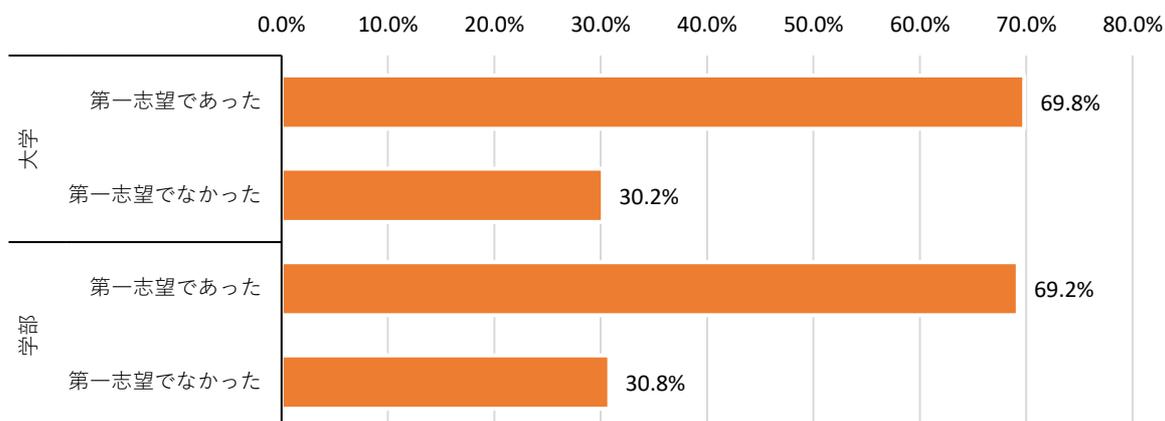
## 2. 入学時について

Q08. あなたが大学に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。



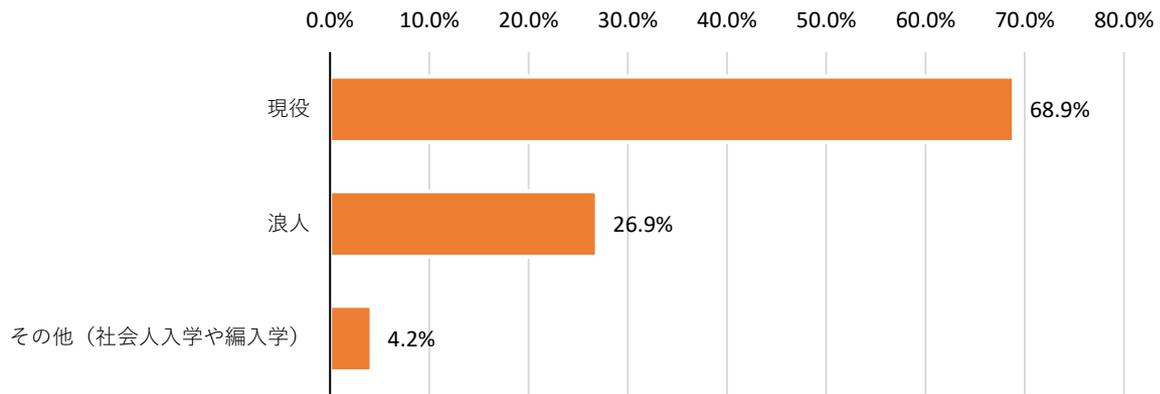
一般入試	539
指定校推薦	131
自己推薦・AO入試等	47
附属・系属校からの推薦	85
その他	54

Q09. 早稲田大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。それぞれお選びください。



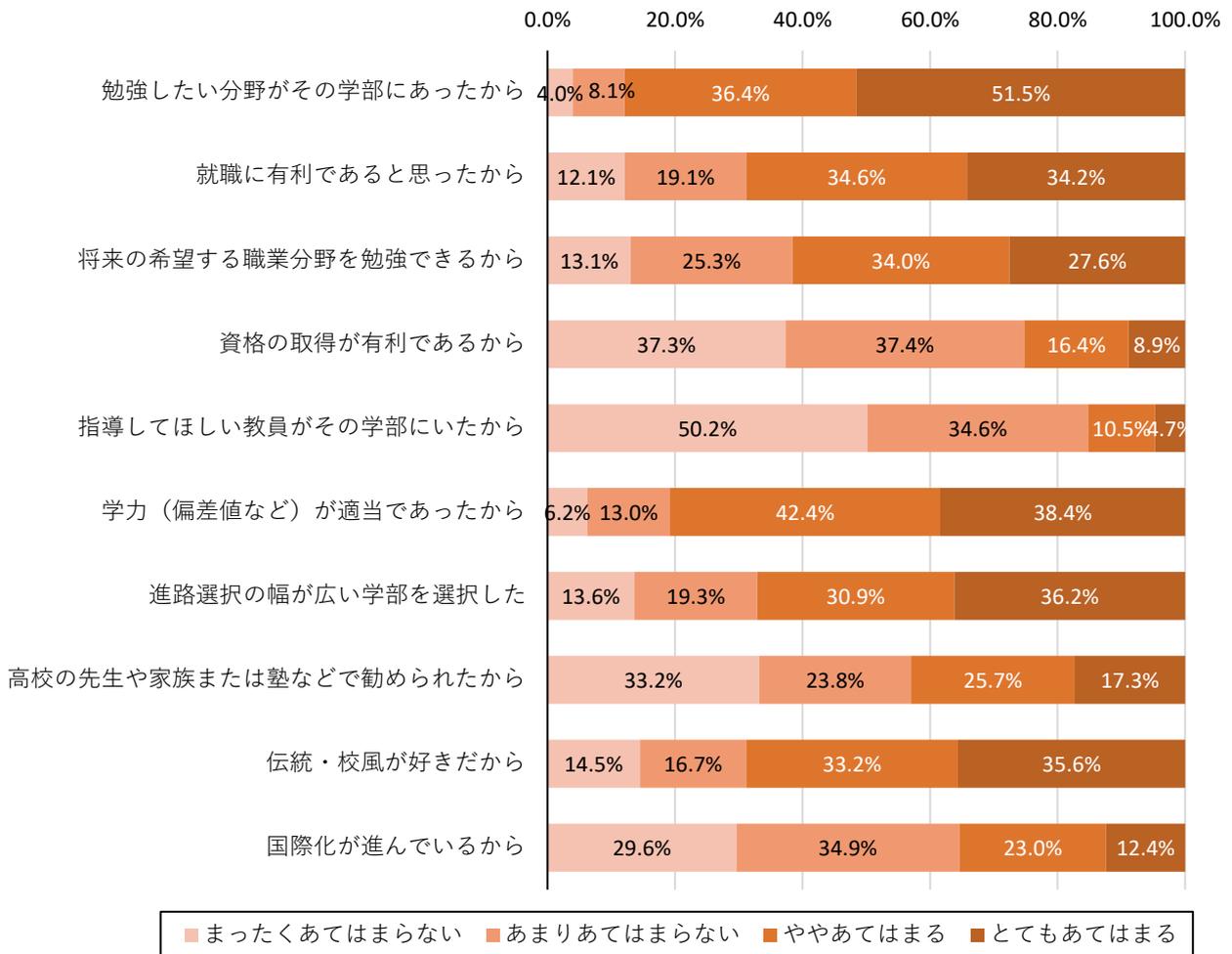
大学	第一志望であった	597
	第一志望でなかった	258
学部	第一志望であった	583
	第一志望でなかった	260

Q10. あなたは現役で入学しましたか。あてはまるものを一つだけお選びください。



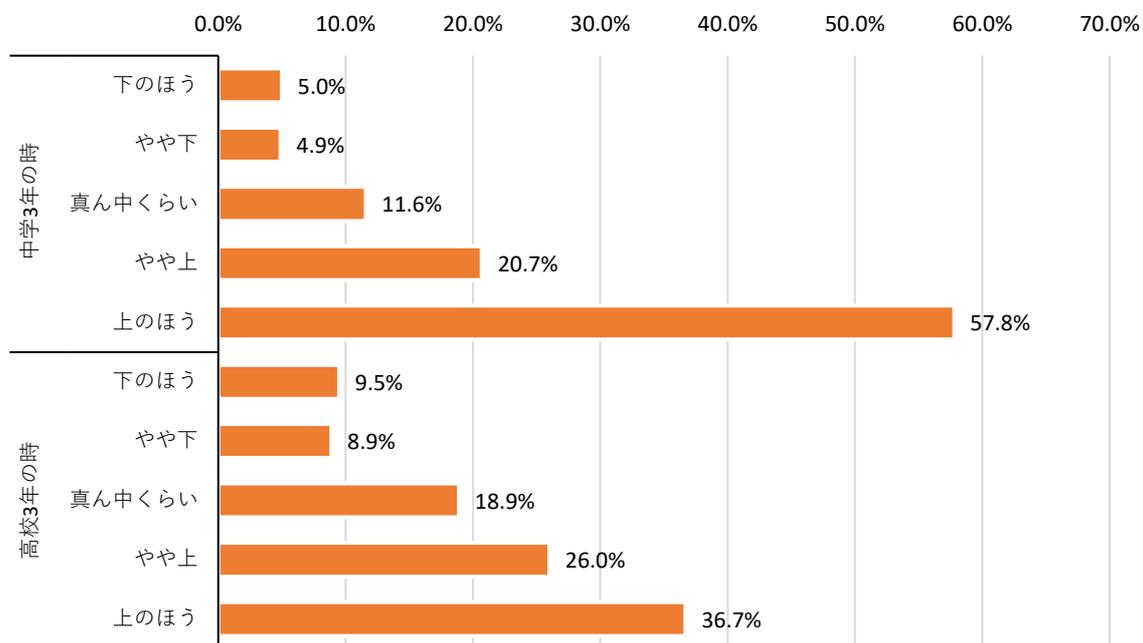
現役	590
浪人	230
その他（社会人入学や編入学）	36

Q11. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。



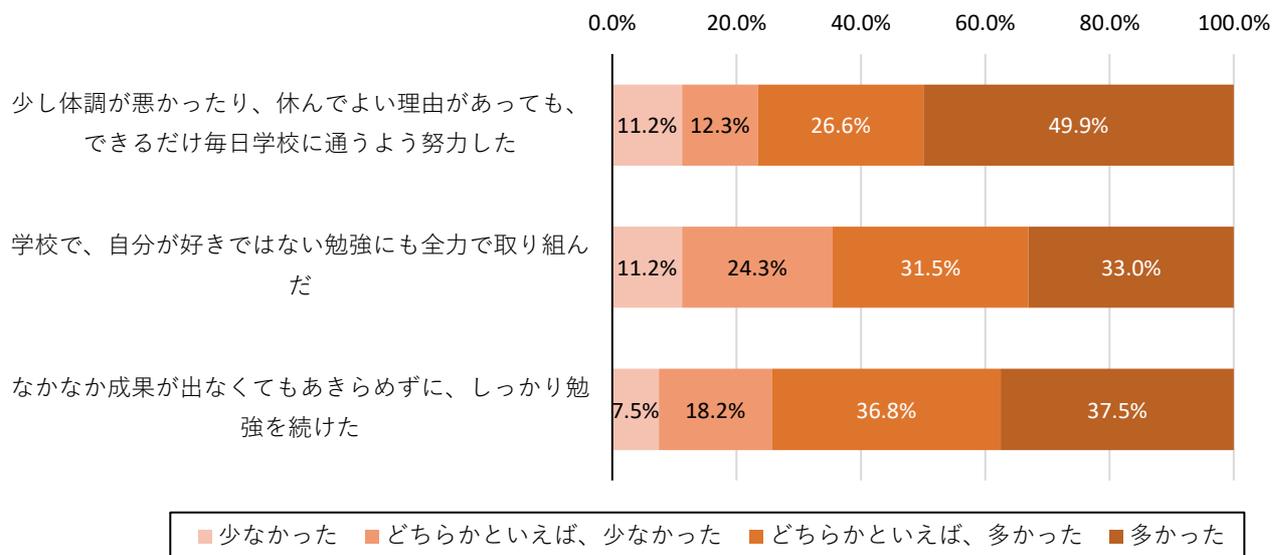
	まったくあ てはまら ない	あまりあ てはまら ない	ややあて はまる	とてもあて はまる
勉強したい分野がその学部にあったから	34	69	310	439
就職に有利であると思ったから	103	162	294	291
将来の希望する職業分野を勉強できるから	111	215	289	234
資格の取得が有利であるから	316	317	139	75
指導してほしい教員がその学部にいるから	425	293	89	40
学力（偏差値など）が適当であったから	53	110	360	326
進路選択の幅が広い学部を選択した	115	163	261	306
高校の先生や家族または塾などで勧められた から	282	202	218	147
伝統・校風が好きだから	123	142	282	303
国際化が進んでいるから	251	296	195	105

Q12. 中学3年の時と高校3年の時の成績は、あなたの通っていた学校のなかでどのあたりでしたか。



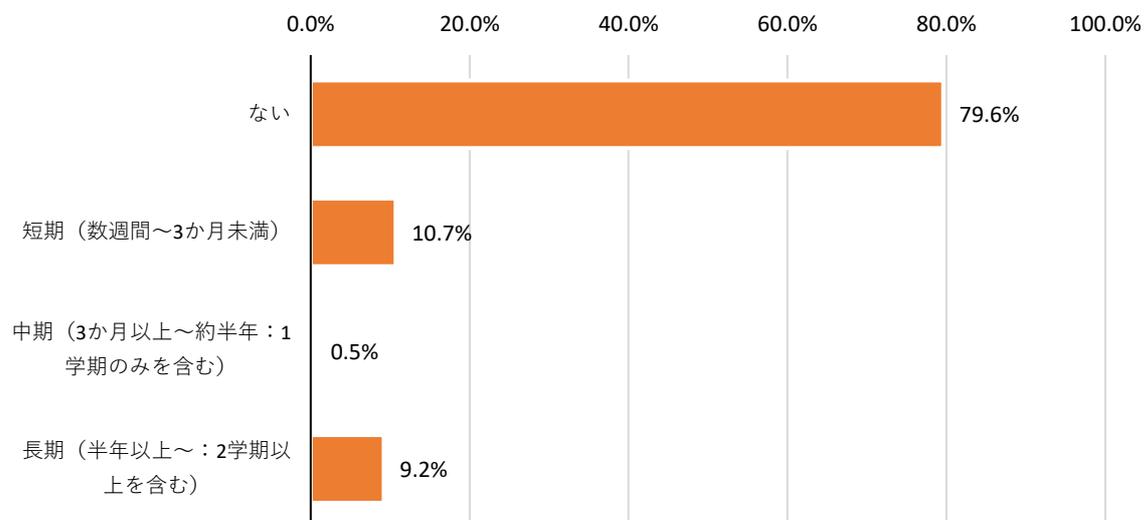
中学3年の時	下のほう	43
	やや下	42
	真ん中くらい	99
	やや上	177
	上のほう	495
高校3年の時	下のほう	81
	やや下	76
	真ん中くらい	162
	やや上	222
	上のほう	314

Q13. あなたが中学生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



	少なかった	どちらかとい えば、少な かった	どちらかとい えば、多 かった	多かった
少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	96	105	228	428
学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	96	208	270	283
なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた	64	156	315	321

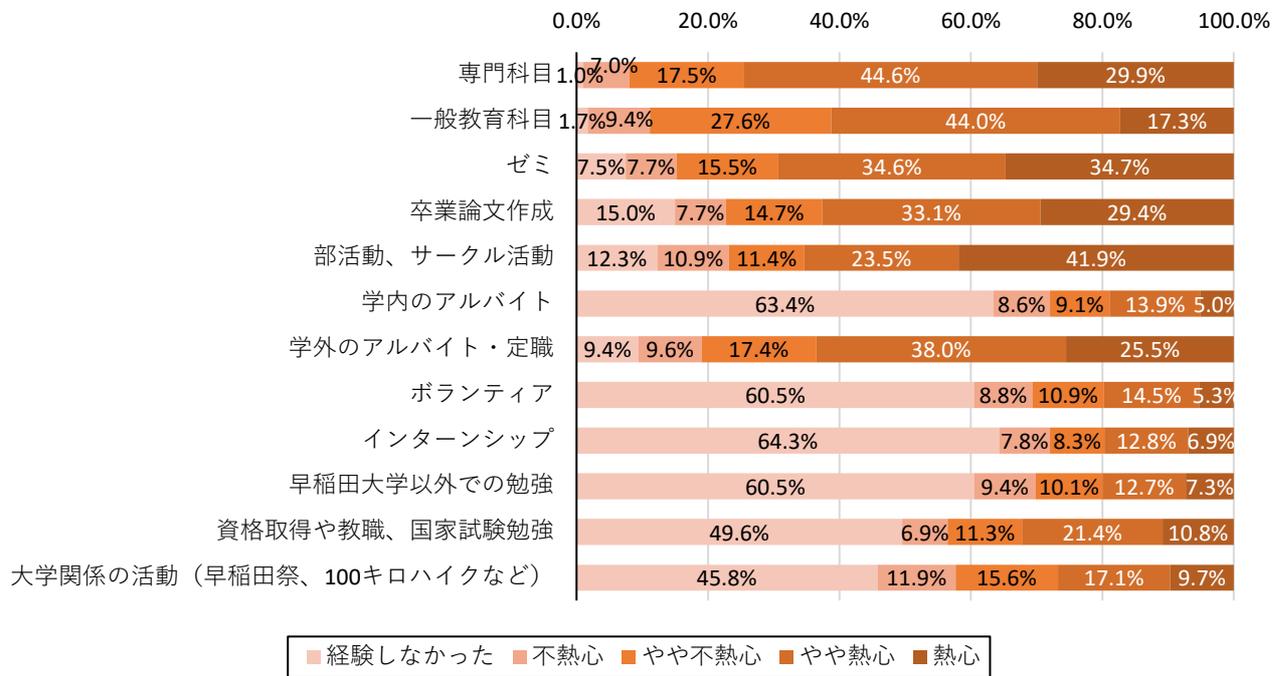
Q14. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。



ない	682
短期 (数週間～3か月未満)	92
中期 (3か月以上～約半年：1学期のみを含む)	4
長期 (半年以上～：2学期以上を含む)	79

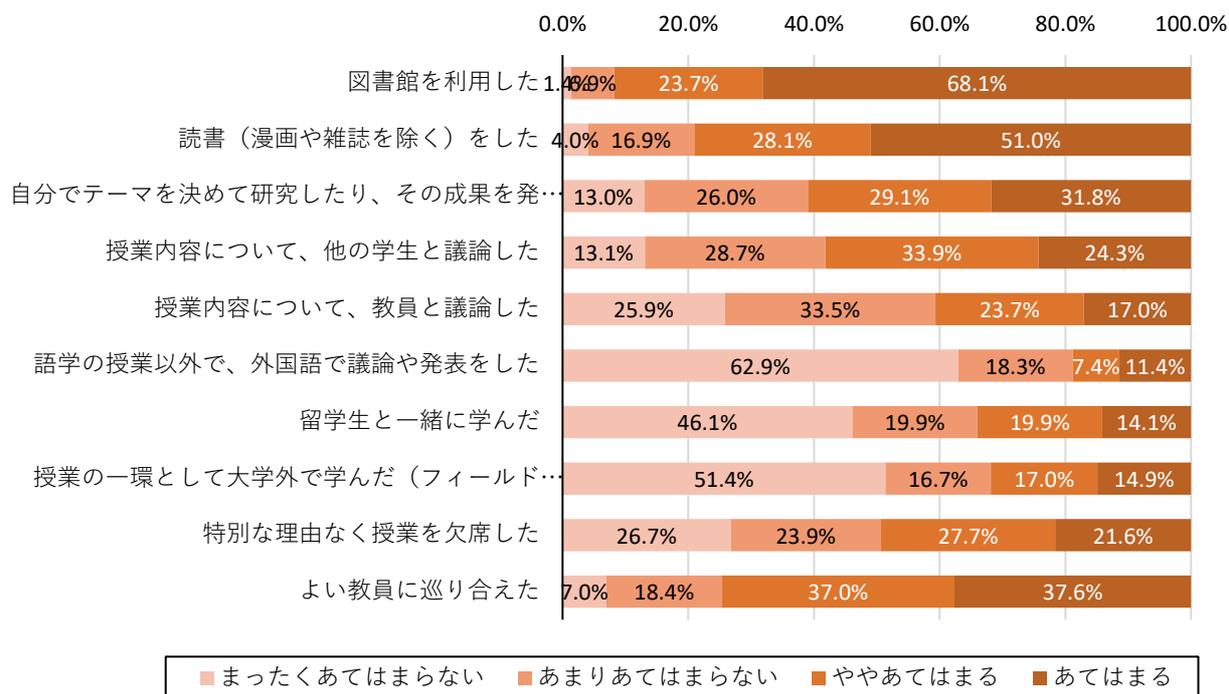
### 3. 在学時の経験

Q15. あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。



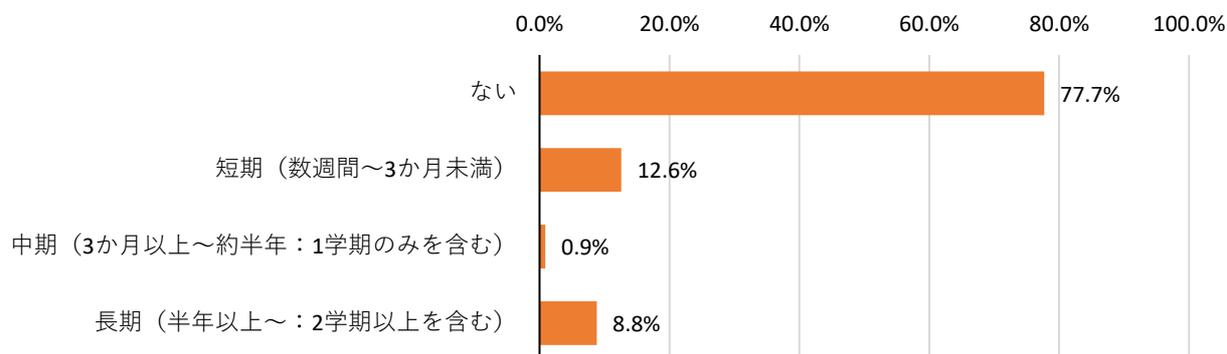
	経験しなかった	不熱心	やや不熱心	やや熱心	熱心
専門科目	8	57	142	362	243
一般教育科目	14	77	225	359	141
ゼミ	61	63	126	282	283
卒業論文作成	122	63	120	270	240
部活動、サークル活動	100	89	93	191	341
学内のアルバイト（TA、研究補助、入試監督、PC ルーム管理、、図書貸出、キャンパスツアーガイドなど）	517	70	74	113	41
学外のアルバイト・定職	77	78	142	310	208
ボランティア	493	72	89	118	43
インターンシップ	522	63	67	104	56
早稲田大学以外での勉強	490	76	82	103	59
資格取得や教職、国家試験勉強	403	56	92	174	88
大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）	373	97	127	139	79

Q16. 学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きします。以下のような経験はどのくらいありましたか。



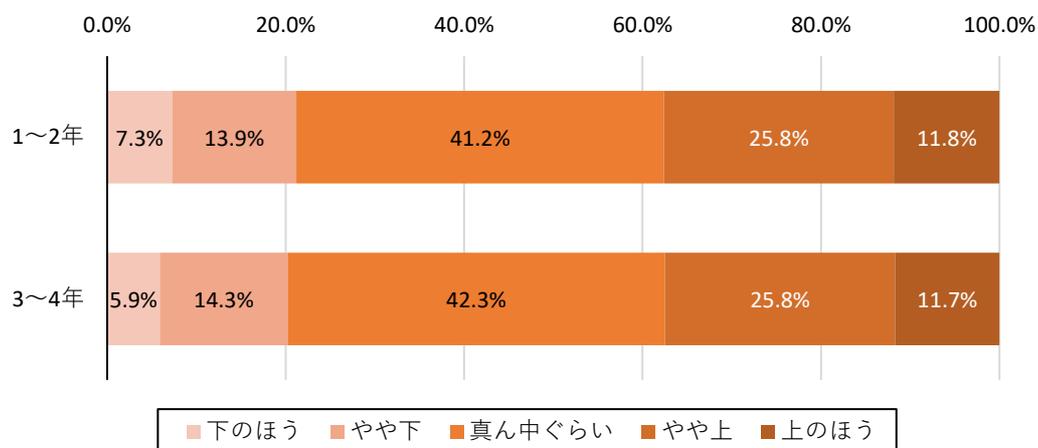
	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
図書館を利用した	11	56	193	554
読書（漫画や雑誌を除く）をした	33	138	229	416
自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	106	212	237	259
授業内容について、他の学生と議論した	107	234	277	198
授業内容について、教員と議論した	211	273	193	139
語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした	513	149	60	93
留学生と一緒に学んだ	376	162	162	115
授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）	418	136	138	121
特別な理由なく授業を欠席した	218	195	226	176
よい教員に巡り合えた	57	150	302	307

Q17. 大学（学部）在学中に留学をしたことはありますか。複数ある場合には、より長い期間を選んでください。



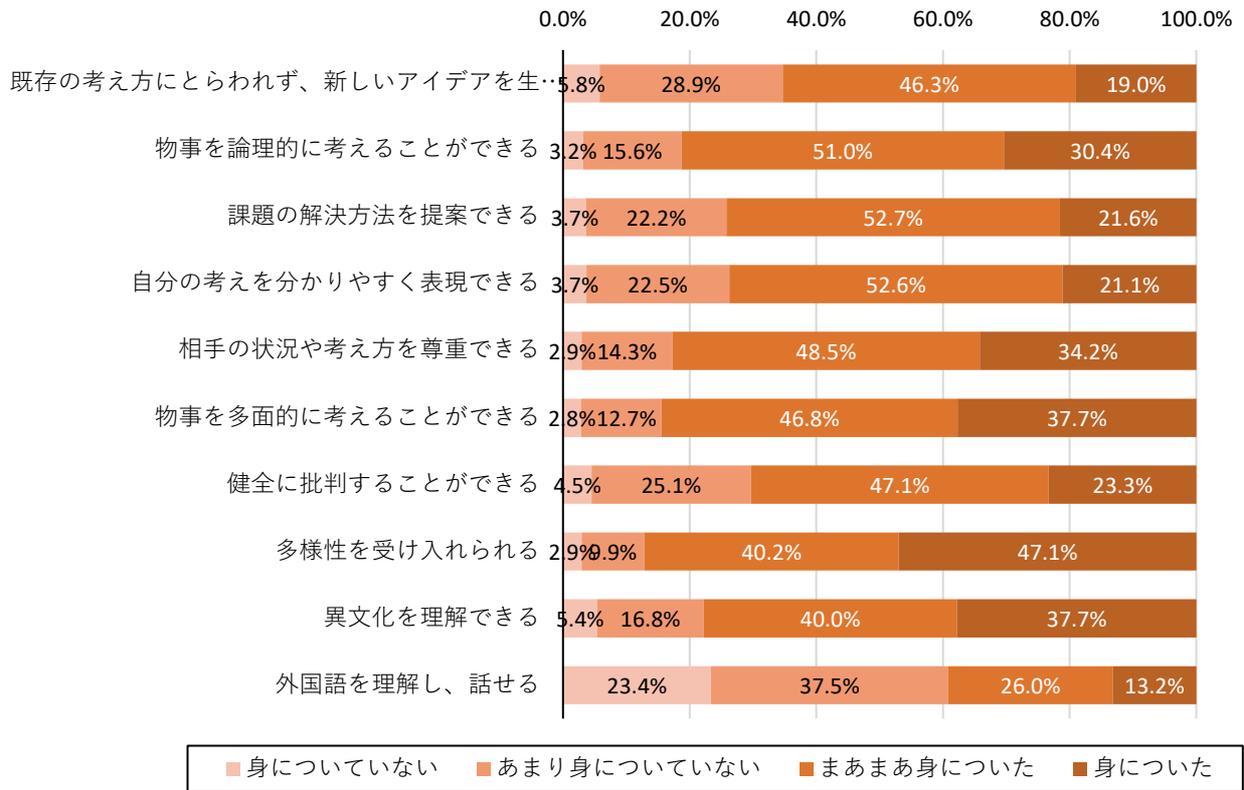
ない	634
短期（数週間～3か月未満）	103
中期（3か月以上～約半年：1学期のみを含む）	7
長期（半年以上～：2学期以上を含む）	72

Q18. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。



	下のほう	やや下	真ん中ぐらい	やや上	上のほう
1～2年	59	113	334	209	96
3～4年	48	116	343	209	95

Q19. 早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。

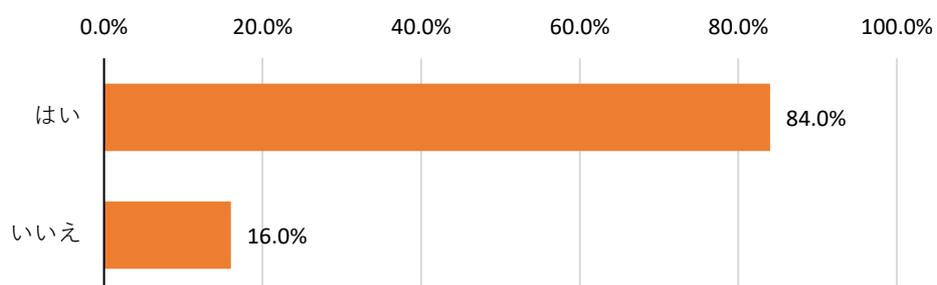


■ 身につけていない ■ あまり身につけていない ■ まあまあ身につけた ■ 身につけた

	身につけていない	あまり身につけていない	まあまあ身につけた	身につけた
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	47	236	378	155
物事を論理的に考えることができる	26	127	416	248
課題の解決方法を提案できる	30	181	430	176
自分の考えを分かりやすく表現できる	30	184	429	172
相手の状況や考え方を尊重できる	24	117	396	279
物事を多面的に考えることができる	23	104	382	308
健全に批判することができる	37	205	384	190
多様性を受け入れられる	24	81	328	384
異文化を理解できる	44	137	326	308
外国語を理解し、話せる	191	306	212	108

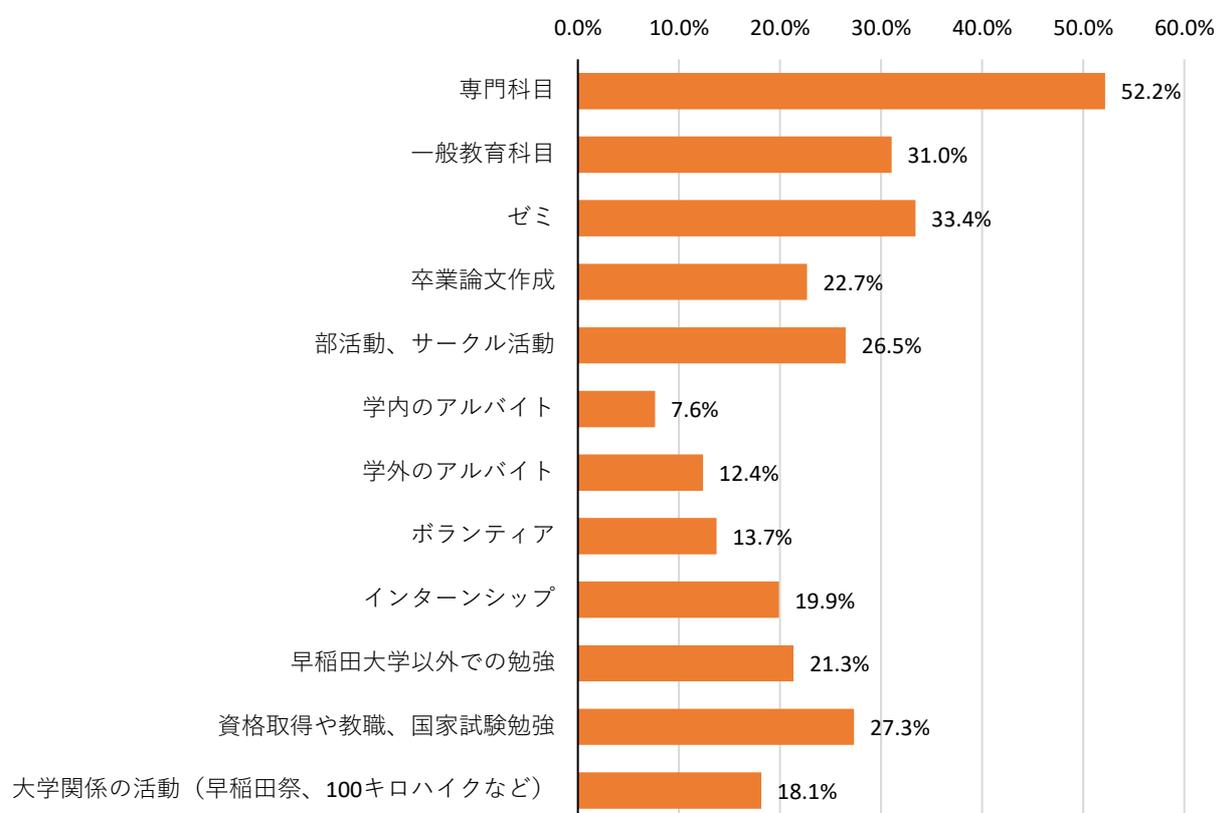
#### 4. 卒業後の経験・生活

Q20. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。



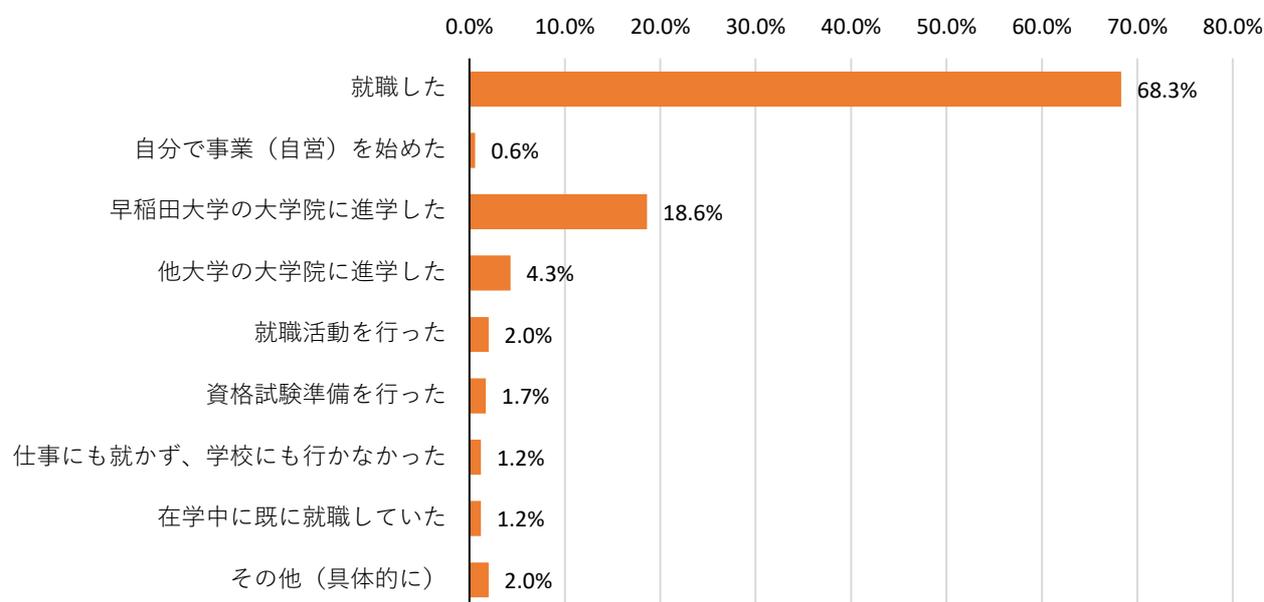
はい	678
いいえ	129

Q21. 学部在学中にもっと熱心に取り組めばよかったと思うものを、すべて選んでください。



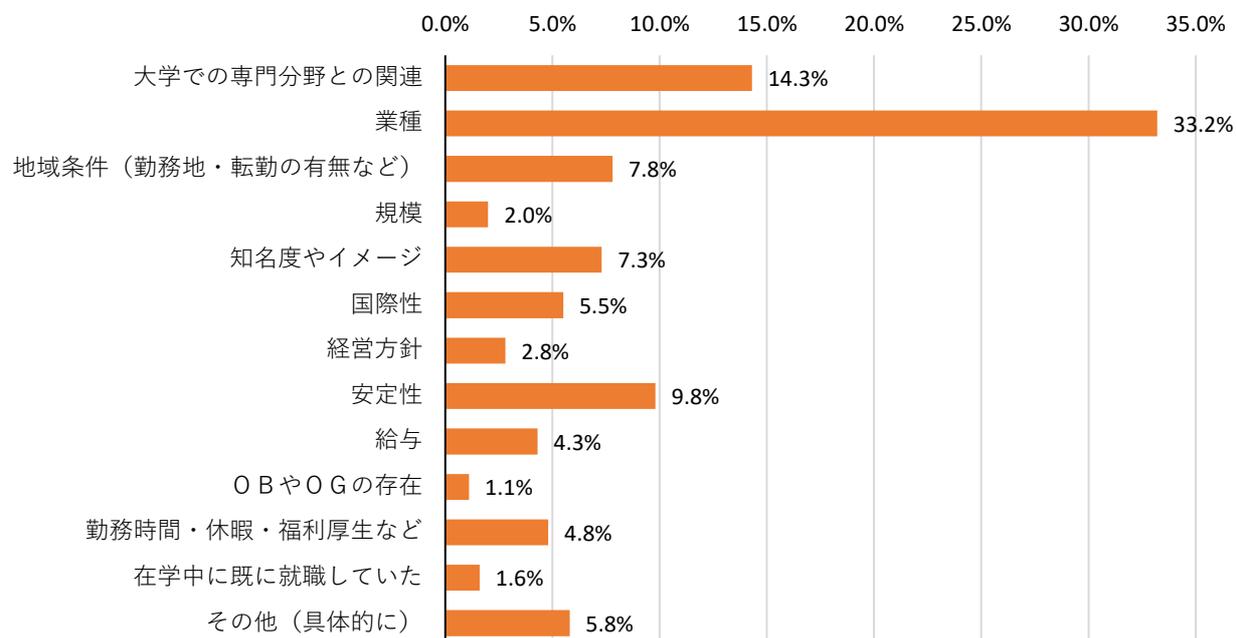
専門科目	506	学外のアパート	120
一般教育科目	301	ボランティア	133
ゼミ	324	インターンシップ	193
卒業論文作成	220	早稲田大学以外での勉強	207
部活動、サークル活動	257	資格取得や教職、国家試験勉強	265
学内のアルバイト	74	大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）	176

Q22. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。該当するものを一つだけお選びください。



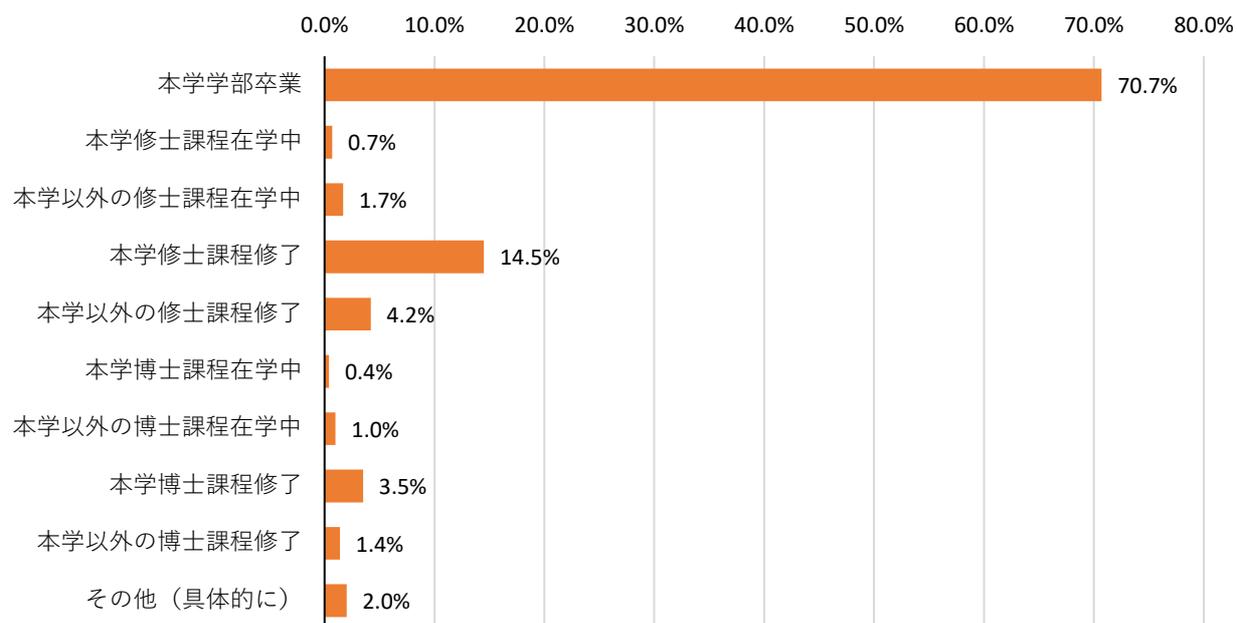
就職した	553
自分で事業（自営）を始めた	5
早稲田大学の大学院に進学した	151
他大学の大学院に進学した	35
就職活動を行った	16
資格試験準備を行った	14
仕事にも就かず、学校にも行かなかった	10
在学中に既に就職していた	10
その他（具体的に）	16

Q23. 就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけお選びください。



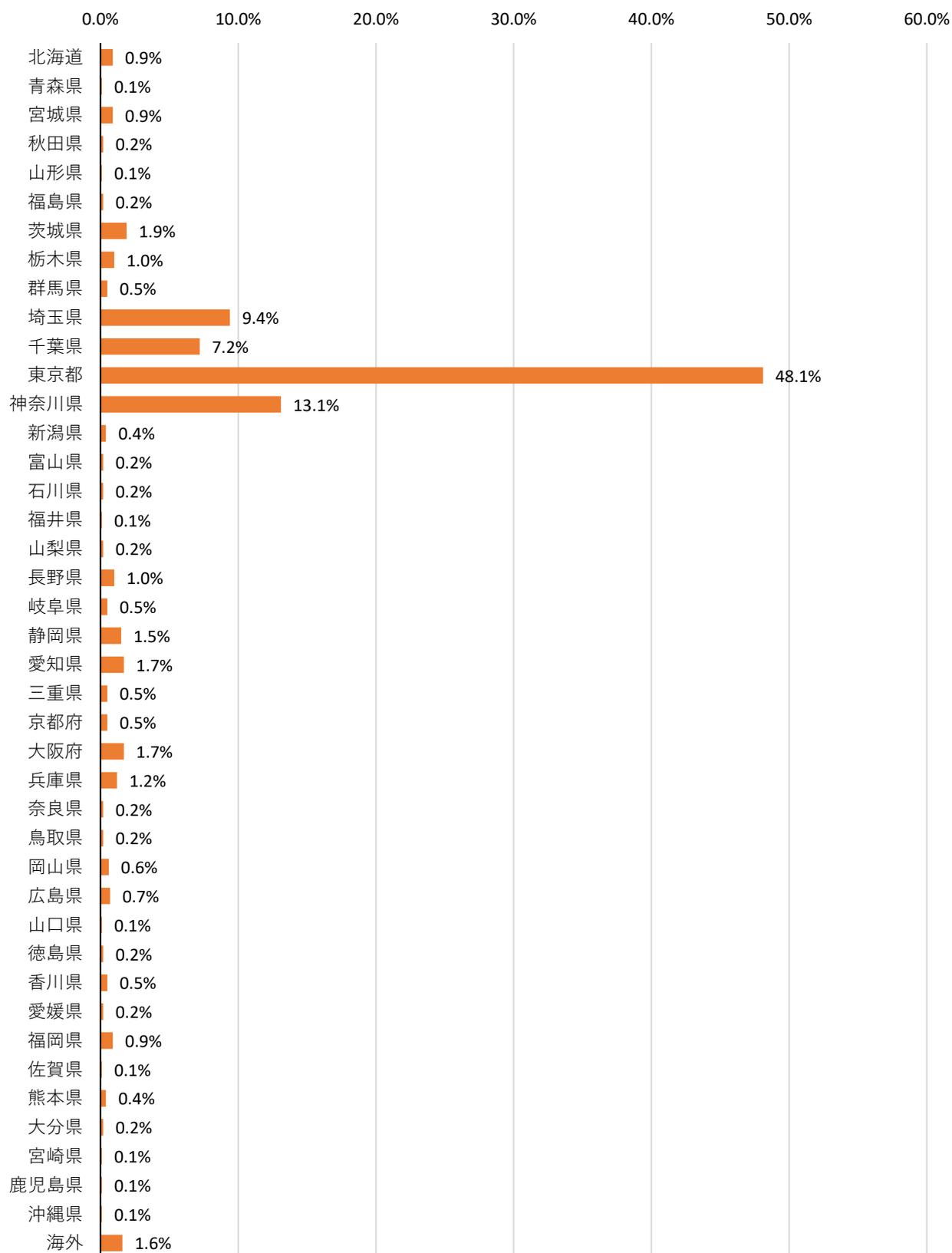
大学での専門分野との関連	114	安定性	78
業種	265	給与	34
地域条件（勤務地・転勤の有無など）	62	OBやOGの存在	9
規模	16	勤務時間・休暇・福利厚生など	38
知名度やイメージ	58	在学中に既に就職していた	13
国際性	44	その他（具体的に）	46
経営方針	22		

Q24. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。



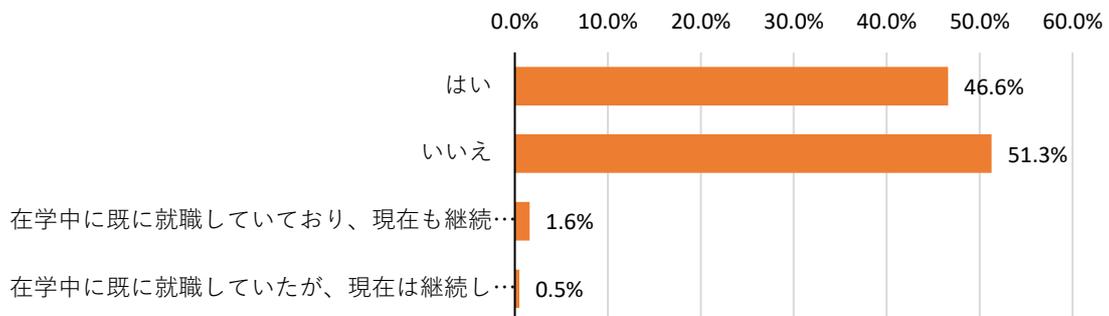
本学学部卒業	572
本学修士課程在学中	6
本学以外の修士課程在学中	14
本学修士課程修了	117
本学以外の修士課程修了	34
本学博士課程在学中	3
本学以外の博士課程在学中	8
本学博士課程修了	28
本学以外の博士課程修了	11
その他 (具体的に)	16

Q25. あなたの学部卒業直後の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。



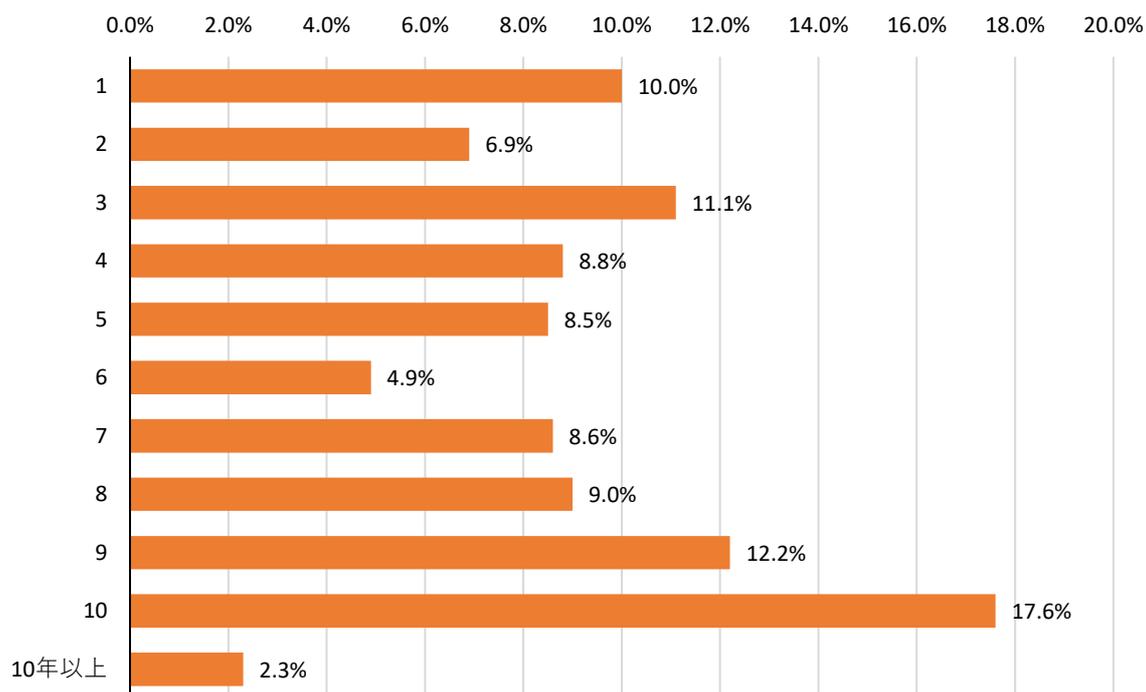
北海道	7	福井県	1	香川県	4
青森県	1	山梨県	2	愛媛県	2
宮城県	7	長野県	8	福岡県	7
秋田県	2	岐阜県	4	佐賀県	1
山形県	1	静岡県	12	熊本県	3
福島県	2	愛知県	14	大分県	2
茨城県	15	三重県	4	宮崎県	1
栃木県	8	京都府	4	鹿児島県	1
群馬県	4	大阪府	14	沖縄県	1
埼玉県	76	兵庫県	10		
千葉県	58	奈良県	2		
東京都	390	鳥取県	2		
神奈川県	106	岡山県	5		
新潟県	3	広島県	6		
富山県	2	山口県	1		
石川県	2	徳島県	2		

Q26. 卒業後最初についてのお仕事は、現在も継続されていますか。出向や転勤等などで異動している場合は、同じ会社・団体・組織としてください。



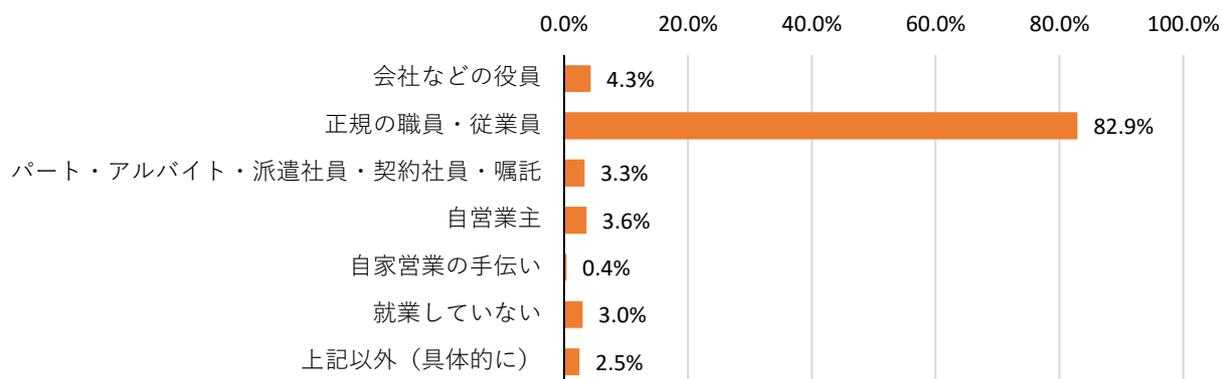
はい	376
いいえ	414
在学中に既に就職しており、現在も継続している	13
在学中に既に就職していたが、現在は継続していない	4

Q27. 学部・大学院等の卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。



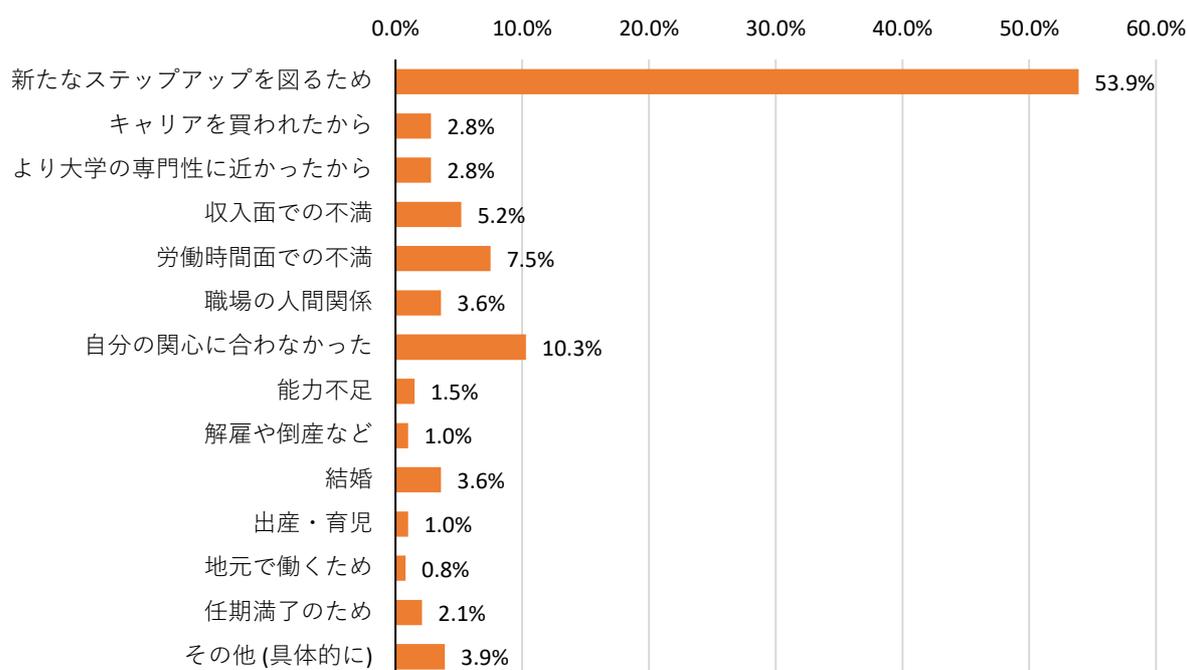
1年	78
2年	54
3年	86
4年	68
5年	66
6年	38
7年	67
8年	70
9年	95
10年	137
10年以上	18

Q28. あなたの現在の就業形態について、該当するものを一つだけお選びください。 ※現在、就業していない方は、「就業していない」を選択してください。



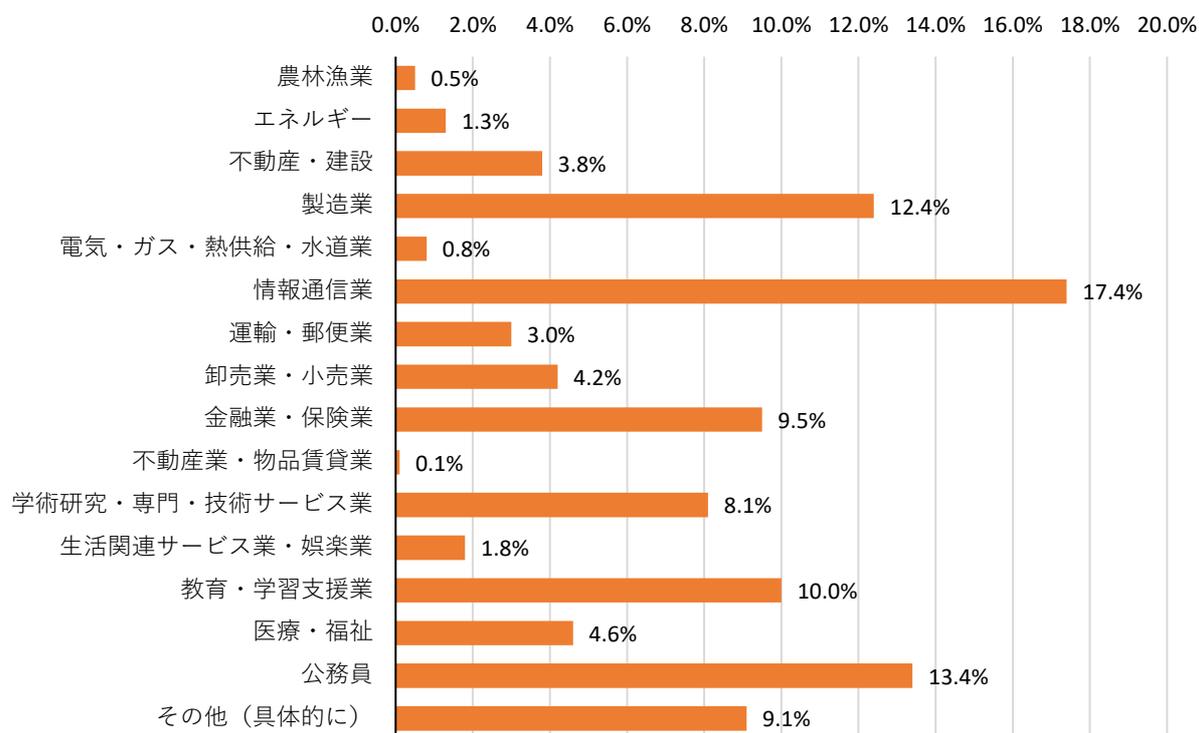
会社などの役員	35
正規の職員・従業員	670
パート・アルバイト・派遣社員・契約社員・嘱託	27
自営業主	29
自家営業の手伝い	3
就業していない	24
上記以外（具体的に）	20

Q29. 転職または辞職された理由は何ですか。最も大きい理由を一つだけお選びください。



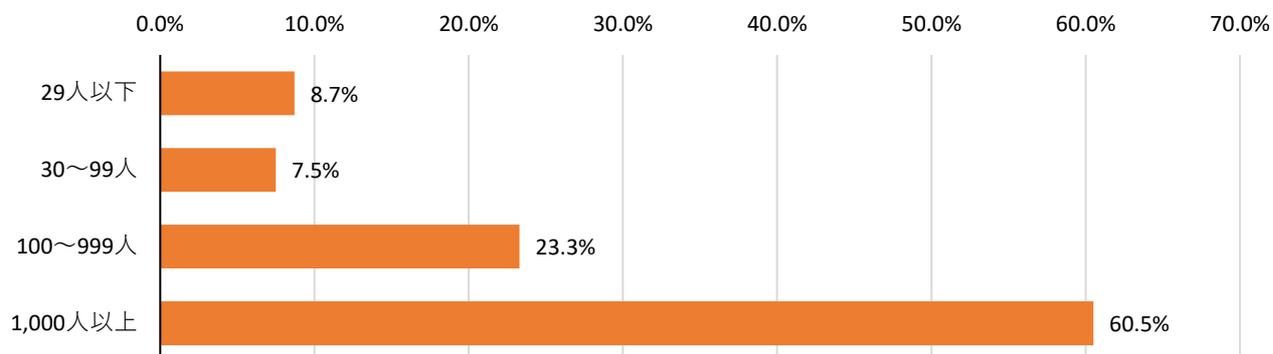
新たなステップアップを図るため	209
キャリアを買われたから	11
より大学の専門性に近かったから	11
収入面での不満	20
労働時間面での不満	29
職場の人間関係	14
自分の関心に合わなかった	40
能力不足	6
解雇や倒産など	4
結婚	14
出産・育児	4
地元で働くため	3
任期満了のため	8
その他（具体的に）	15

Q30. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。



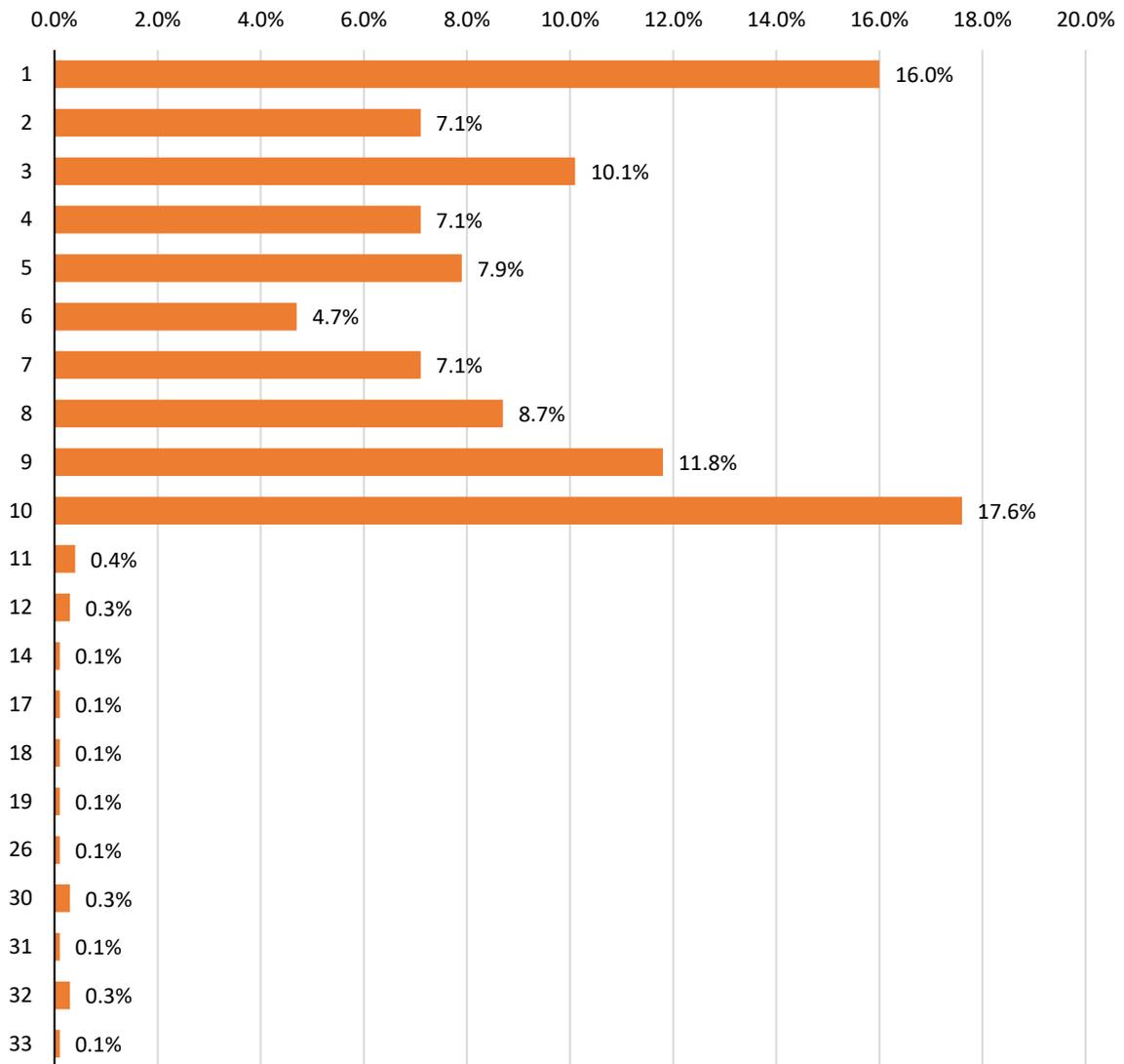
農林漁業	4
エネルギー	10
不動産・建設	29
製造業	95
電気・ガス・熱供給・水道業	6
情報通信業	134
運輸・郵便業	23
卸売業・小売業	32
金融業・保険業	73
不動産業・物品賃貸業	1
学術研究・専門・技術サービス業	62
生活関連サービス業・娯楽業	14
教育・学習支援業	77
医療・福祉	35
公務員	103
その他（具体的に）	70

Q31. 現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。



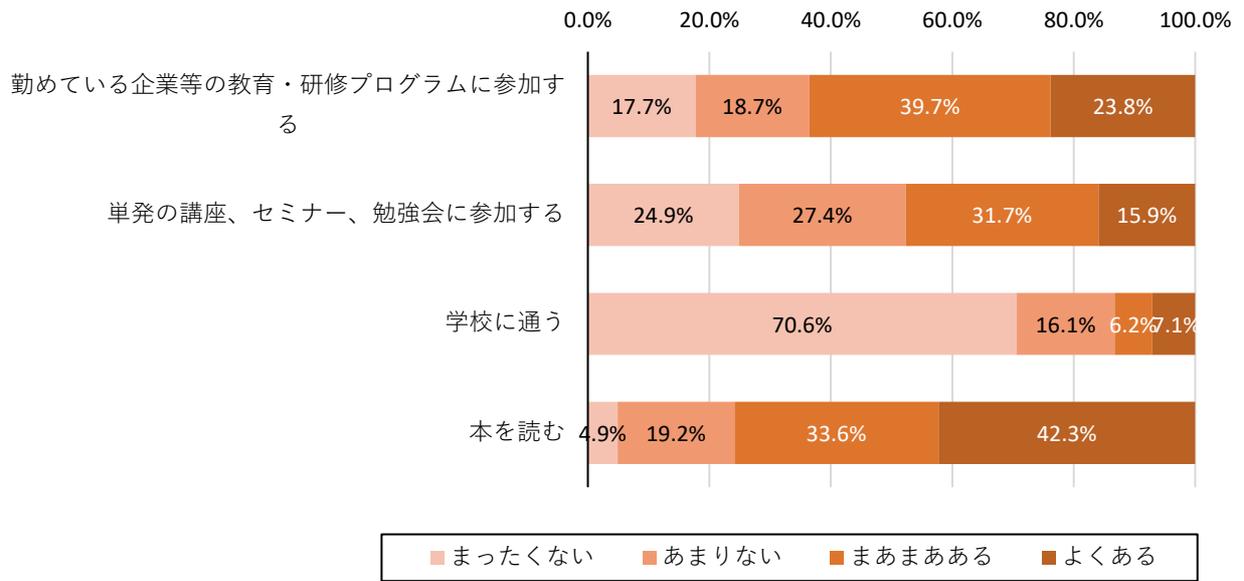
29人以下	67
30~99人	58
100~999人	179
1,000人以上	465

Q32. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。



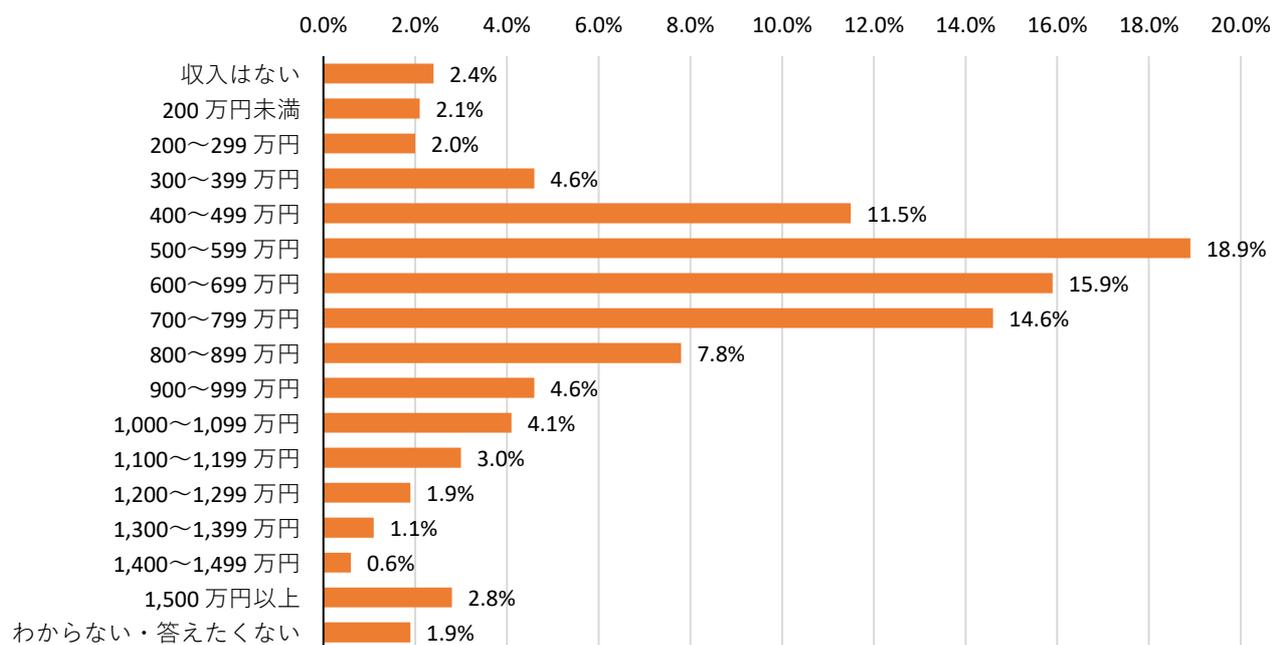
1年	122	12年	2
2年	54	14年	1
3年	77	17年	1
4年	54	18年	1
5年	60	19年	1
6年	36	26年	1
7年	54	30年	2
8年	66	31年	1
9年	90	32年	2
10年	134	33年	1
11年	3		

Q33. 現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。



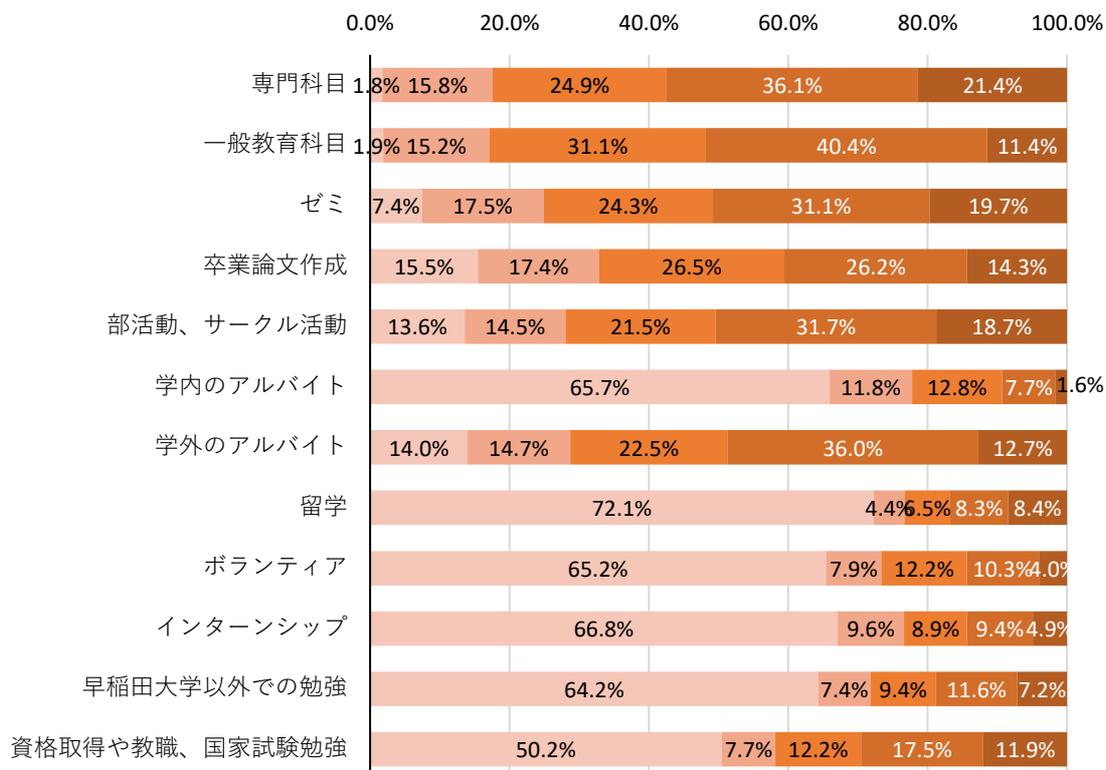
	まったく ない	あまりな い	まあまあ ある	よくある
勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する	140	148	314	188
単発の講座、セミナー、勉強会に参加する	197	217	251	126
学校に通う	558	127	49	56
本を読む	39	153	267	336

Q34. あなたの現在の年収（税込）について、該当するものを一つだけお選びください。



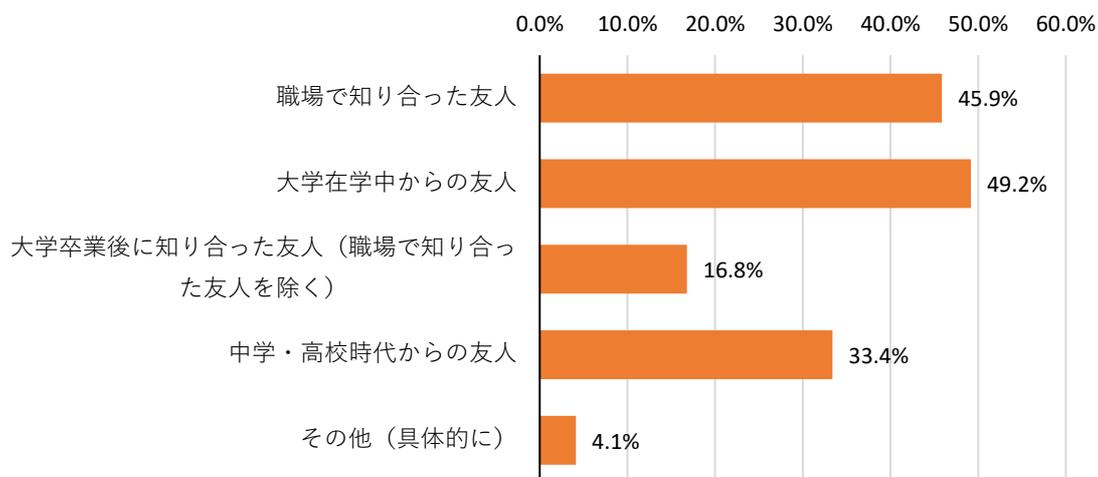
収入はない	19
200万円未満	17
200～299万円	16
300～399万円	37
400～499万円	92
500～599万円	151
600～699万円	127
700～799万円	116
800～899万円	62
900～999万円	37
1,000～1,099万円	33
1,100～1,199万円	24
1,200～1,299万円	15
1,300～1,399万円	9
1,400～1,499万円	5
1,500万円以上	22
わからない・答えたくない	15

Q35. あなたの学部時代の経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。該当するものをお選びください。



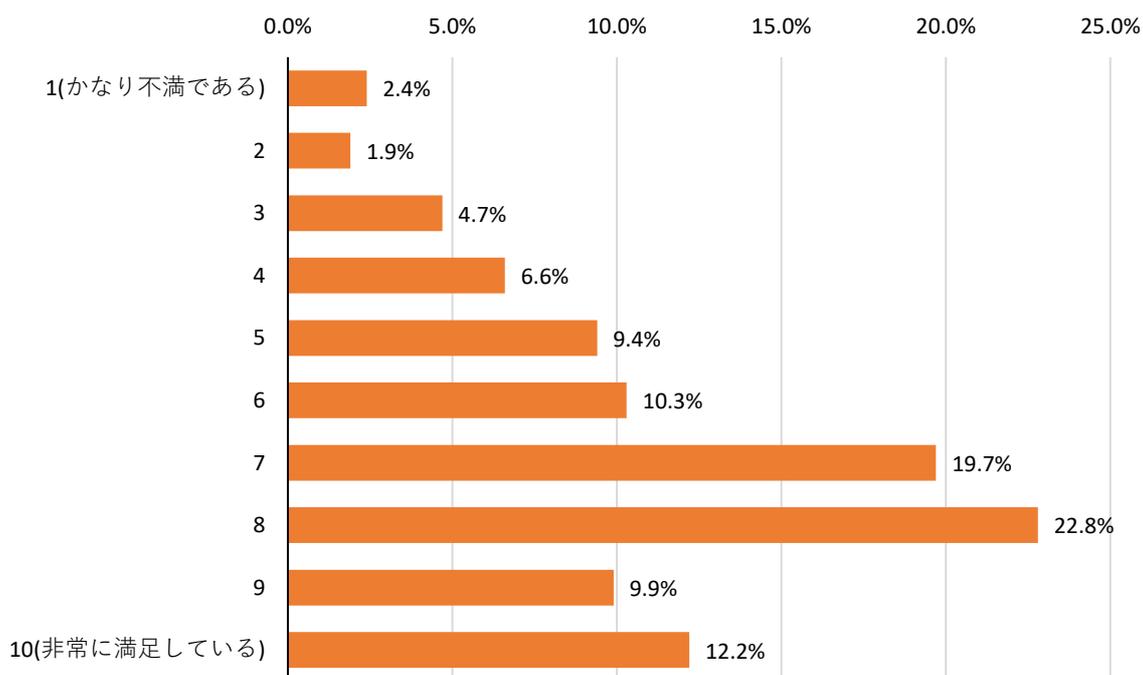
	経験しなかった	まったく役に立っていない	あまり役に立っていない	やや役に立っている	かなり役に立っている
専門科目	14	126	198	287	170
一般教育科目	15	121	247	321	91
ゼミ	59	139	193	247	157
卒業論文作成	123	138	211	208	114
部活動、サークル活動	108	115	171	252	149
学内のアルバイト	522	94	102	61	13
学外のアルバイト	111	117	179	286	101
留学	573	35	52	66	67
ボランティア	518	63	97	82	32
インターンシップ	531	76	71	75	39
早稲田大学以外での勉強	510	59	75	92	57
資格取得や教職、国家試験勉強	399	61	97	139	95

Q37. (仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる)友人は、どのような関係にある方ですか。あてはまるものすべてをお選びください。



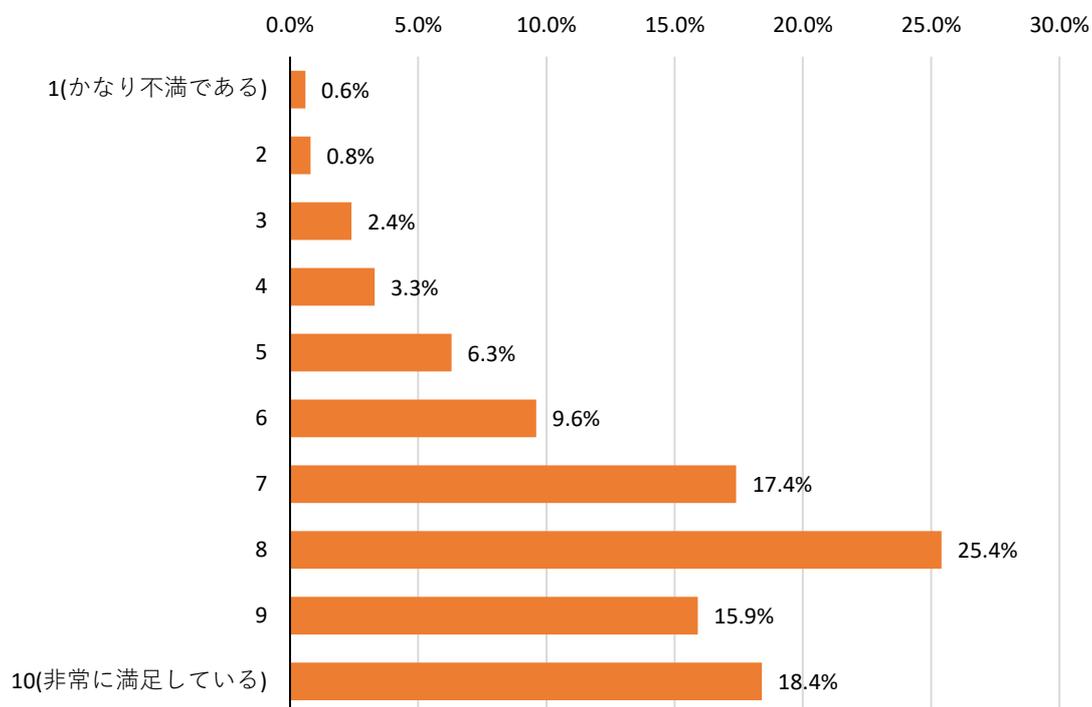
職場で知り合った友人	445
大学在学中からの友人	477
大学卒業後に知り合った友人 (職場で知り合った友人を除く)	163
中学・高校時代からの友人	324
その他 (具体的に)	40

Q38. あなたの現在の仕事の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。



1(かなり不満である)	19
2	15
3	37
4	52
5	74
6	81
7	155
8	179
9	78
10(非常に満足している)	96

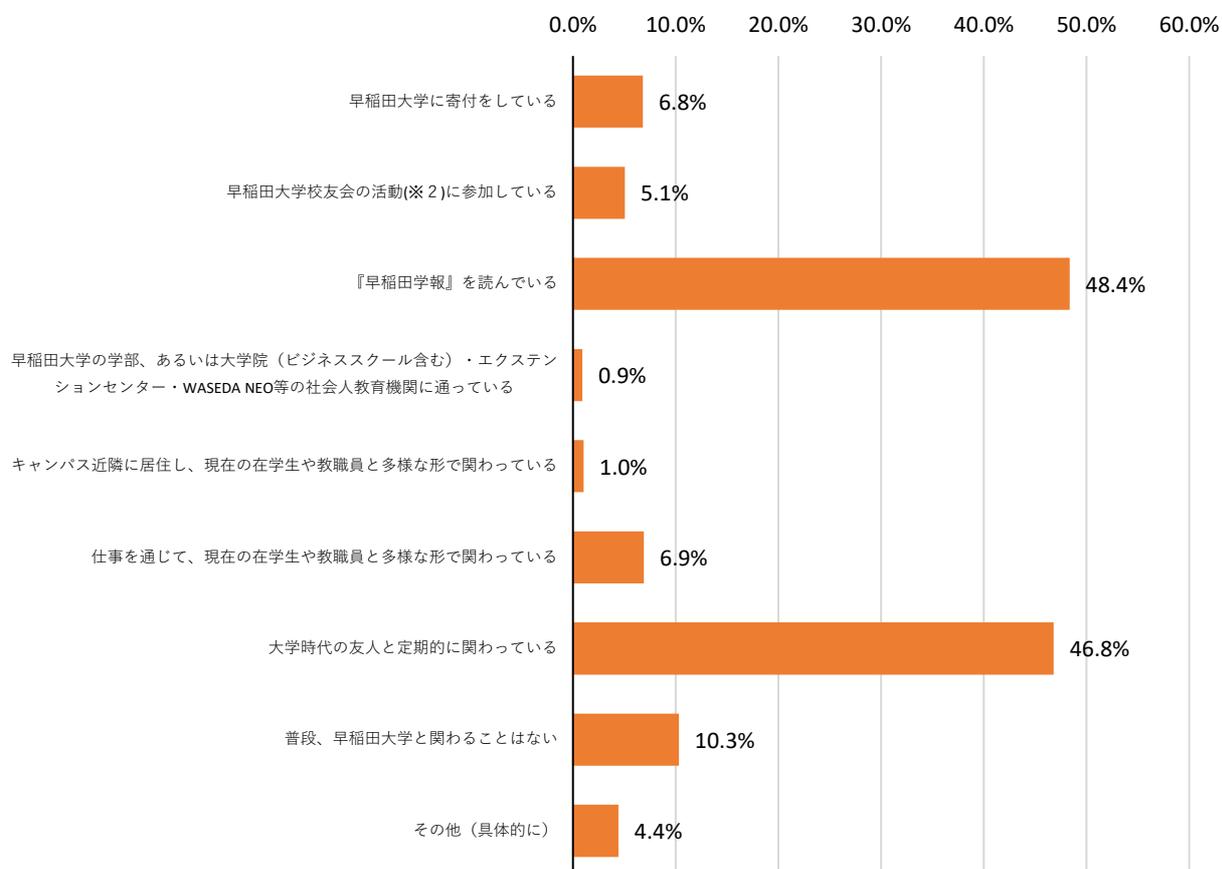
Q39. あなたの生活（仕事を除く）の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。



1(かなり不満である)	5
2	6
3	19
4	26
5	50
6	76
7	138
8	202
9	126
10(非常に満足している)	146

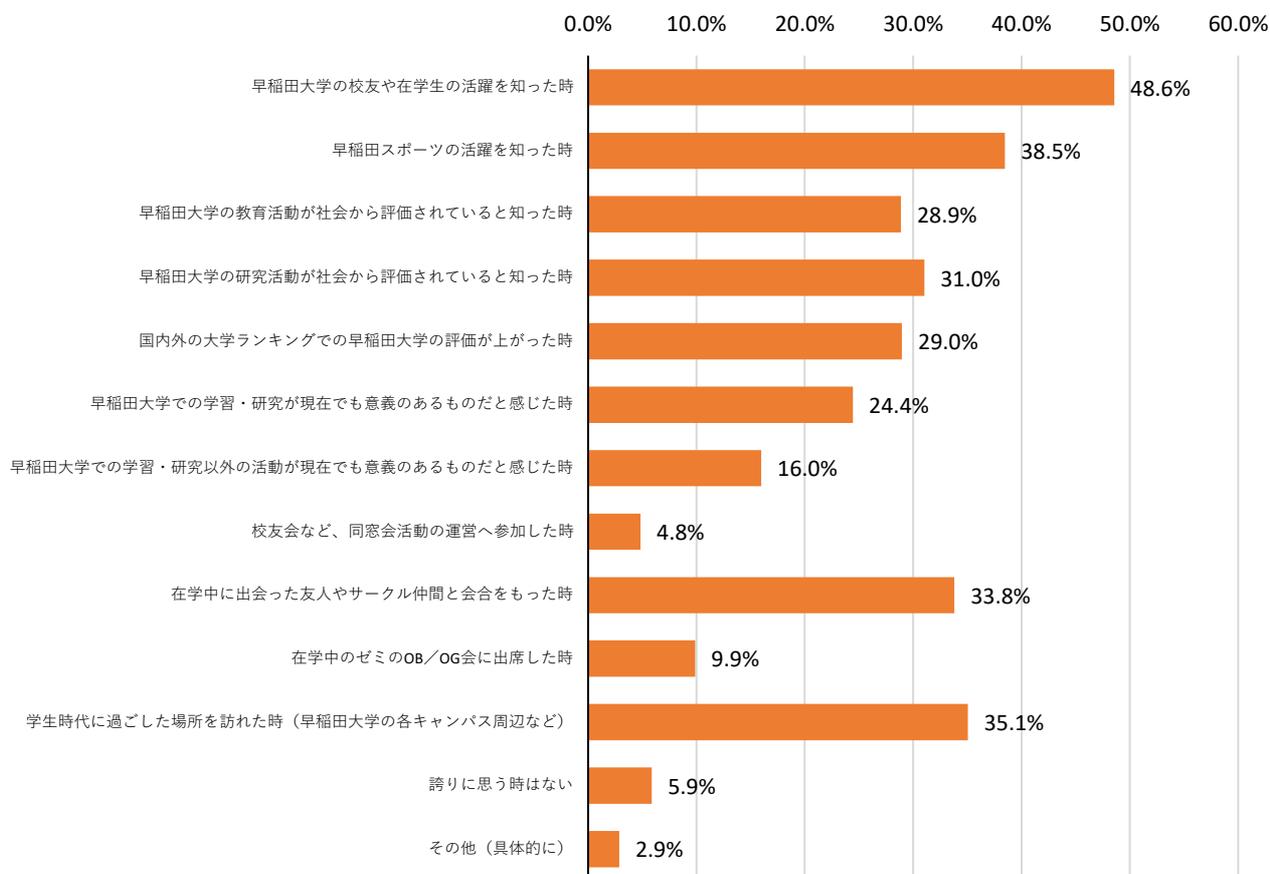
## 5. 校友関連・自由記述

Q43. あなたは早稲田大学の校友(こうゆう)(※1)として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。



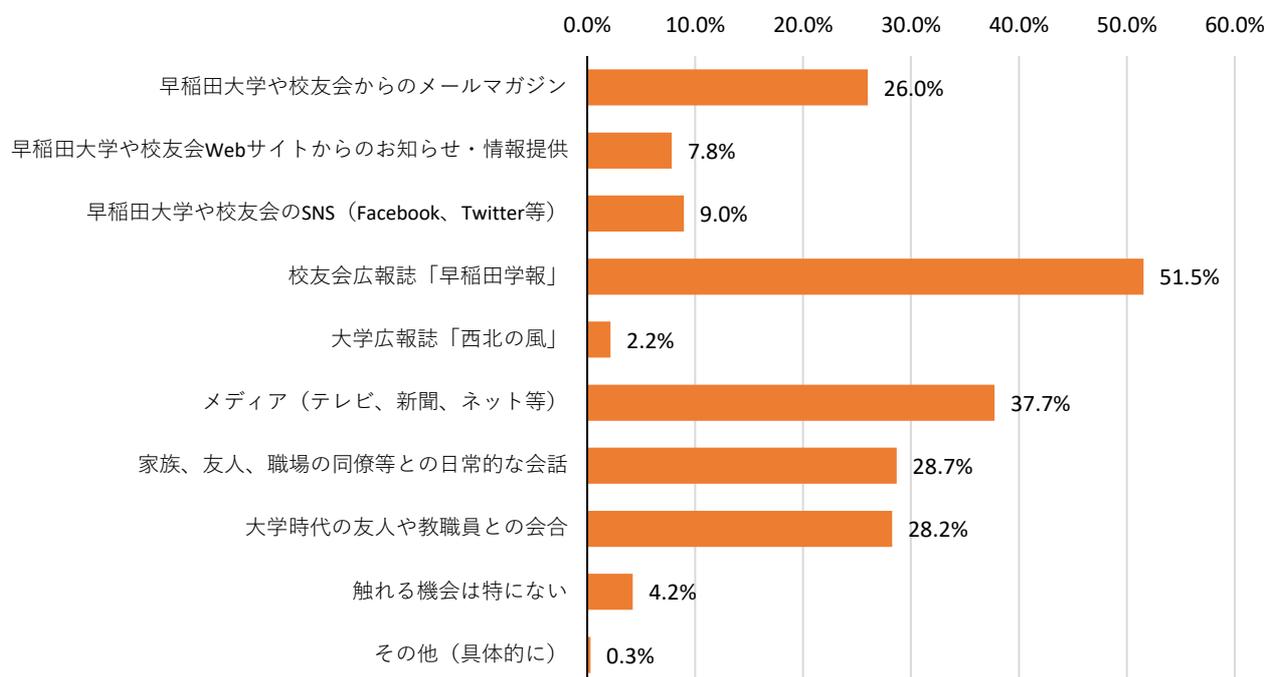
早稲田大学に寄付をしている	66
早稲田大学校友会の活動に参加している	49
『早稲田学報』を読んでいる	469
早稲田大学の学部、あるいは大学院（ビジネススクール含む）・エクステンションセンター・WASEDA NEO等の社会人教育機関に通っている	9
キャンパス近隣に居住し、現在の在大学生や教職員と多様な形で関わっている	10
仕事を通じて、現在の在大学生や教職員と多様な形で関わっている	67
大学時代の友人と定期的に関わっている	454
普段、早稲田大学と関わることはない	100
その他（具体的に）	43

Q44. 早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時はどのような時ですか。あてはまるものすべてを選んでください。



早稲田大学の校友や在学生の活躍を知った時	471
早稲田スポーツの活躍を知った時	373
早稲田大学の教育活動が社会から評価されていると知った時	280
早稲田大学の研究活動が社会から評価されていると知った時	301
国内外の大学ランキングでの早稲田大学の評価が上がった時	281
早稲田大学での学習・研究が現在でも意義のあるものだと感じた時	237
早稲田大学での学習・研究以外の活動が現在でも意義のあるものだと感じた時	155
校友会など、同窓会活動の運営へ参加した時	47
在学中に出会った友人やサークル仲間と会合をもった時	328
在学中のゼミのOB/OG会に出席した時	96
学生時代に過ごした場所を訪れた時（早稲田大学の各キャンパス周辺など）	340
誇りに思う時はない	57
その他（具体的に）	28

Q45. あなたが早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか。あてはまるものすべてを選んでください。



早稲田大学や校友会からのメールマガジン	252
早稲田大学や校友会 Web サイトからのお知らせ・情報提供	76
早稲田大学や校友会の SNS (Facebook、Twitter 等)	87
校友会広報誌「早稲田学報」	500
大学広報誌「西北の風」	21
メディア (テレビ、新聞、ネット等)	366
家族、友人、職場の同僚等との日常的な会話	278
大学時代の友人や教職員との会合	274
触れる機会はない	41
その他 (具体的に)	3

2022年度 早稲田大学卒業生調査 報告書

2023年7月

早稲田大学 大学総合研究センター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 (7号館4F)